



Plesk 8.2 for Linux/UNIX

管理者ガイド

Plesk for UNIX 著作権表示

ISBN: N/A

SWsoft

13755 Sunrise Valley Drive

Suite 325

Herndon

VA 20171 USA

電話番号: +1 (703) 815 5670

ファックス: +1 (703) 815 5675

Copyright © 1999-2007 by SWsoft. All rights reserved

著作権保有者による書面による事前の許可なしに、いかなる形式によっても本書またはその派生物を配布することを一切禁じます。

特許を取得したホスティング技術は、アメリカ合衆国の特許番号7,099,948および7,076,633により保護されます。

アメリカ合衆国において特許出願中です。

LinuxはLinus Torvaldsの登録商標です。

ASPLinuxおよびASPLinuxロゴはSWsoftの登録商標です。

RedHatはRed Hat Software, Inc.の登録商標です。

SolarisはSun Microsystems, Inc.の登録商標です。

X Window SystemはX Consortium, Inc.の登録商標です。

UNIXはThe Open Groupの登録商標です。

Intel、Pentium、CeleronはIntel Corporationの登録商標です。

MS Windows、Windows 2003 Server、Windows XP、Windows 2000、Windows NT、Windows 98、Windows 95はMicrosoft Corporationの登録商標です。

IBM DB2はInternational Business Machines Corp.の登録商標です。

SSHおよびSecure ShellはSSH Communications Security, Inc.の登録商標です。

MegaRAIDはAmerican Megatrends, Inc.の登録商標です。

PowerEdgeはDell Computer Corporationの登録商標です。

Request TrackerはBest Practical Solutions, LLCの商標です。

その他すべての商標および著作権はそれぞれの権利保有者に帰属します。

目次

Plesk for UNIX 著作権表示	2
----------------------	---

序文	8
-----------	----------

対象読者	8
フォント規則	8
フィードバック	9

Plesk について	10
-------------------	-----------

ビジネスモデル、ユーザアカウント、許可の概要	10
Plesk が管理するソフトウェアコンポーネントの概要	12
当バージョンの新機能	12

はじめに	14
-------------	-----------

Plesk へのログイン	14
パスワードを忘れた場合	16
Plesk のインターフェースに慣れる	16
デスクトップ表示の項目	18
標準表示の項目	19
パスワードおよび連絡先情報の変更	20

コントロールパネルの設定	22
---------------------	-----------

コントロールパネルのライセンスキーのアップグレード	22
トライアルライセンスキーのアップグレード	23
Plesk アドオンの追加ライセンスキーのインストール	24
ライセンスキーのアップグレード	25
以前使用していたライセンスキーへのロールバック	25
コントロールパネルの保護	26
コントロールパネルへの管理アクセスの制限	26
SSL 暗号化によるサーバ通信の保護	27
コントロールパネルのカスタマイズ	30
インターフェース言語およびスキンの変更	31
標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ	33
デスクトップ表示でのコントロールパネルのカスタマイズ	46
セッションアイドル時間の変更	52

サーバの設定とメンテナンス	53
----------------------	-----------

IP アドレスの追加と削除	53
DNS サービスの設定	56
Plesk をファイアウォールの背後で実行するための設定	59

メールサービスの設定.....	60
アンチスパム保護のセットアップ	61
アンチウィルスの設定	67
Mailman メーリングリストソフトウェアの設定	69
Plesk のデータベースホスティング設定.....	69
リモートデータベースホスティングの設定.....	70
データベースサーバの管理	74
Adobe ColdFusion のサポートを有効化.....	76
Miva e-コマースアプリケーションのサポートを有効化.....	79
統計の設定.....	81
メール通知システムの設定	81
ヘルプデスクの設定	85
システム日時の調整	88
サービスの起動、停止、再起動.....	89
Web サービスの中断を防ぐ Web サーバのパイプログの有効化.....	90
メールサーバメッセージキューおよびトラブルシューティングメール混雑のモニター	91
タスクのスケジューリング	93
モジュールによる Plesk 機能の拡張.....	96
モジュールのインストール	97
モジュールの設定および管理	97
モジュールの削除	98

顧客へのサービス 100

顧客へのサービスを開始する前に	101
ユーザアカウントの設定の簡略化	101
ドメインおよび Web サイトの設定の簡略化.....	106
顧客が使用できるパッケージ済みのアプリケーション.....	111
新規 Web サイトのコンテンツの事前定義	117
ユーザアカウントの管理.....	119
ユーザアカウントの追加.....	120
ユーザアカウントの変更.....	124
ユーザアカウントの保留と保留解除.....	130
ユーザアカウントの削除.....	131
Web サイトのホスティング	132
ドメイン名の取得	132
Web サイトのホスティングアカウントの設定	134
サイトの公開.....	142
サイトのプレビュー	149
データベースの配置	150
アプリケーションのインストール	153
SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護.....	156
パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限	162
サブドメインを含むサイト構造の編成.....	166
サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス)	168
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング	170
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定.....	172
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ	174
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ.....	175
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給	179
他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用 (ドメイン転送)	181
ユーザアカウント間のドメイン転送.....	182

ドメインの保留と保留解除	182
ドメインの削除	183
メールサービスの使用	184
メールボックスの作成	185
メールボックスからメールを取得するためのメールプログラムの設定	187
Web ブラウザからのメールへのアクセス	189
スパムからのメールボックスの保護	190
ウイルスからのメールボックスの保護	196
メールボックスの保留と保留解除	197
メールボックスの削除	198
アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスのオフ切り替え	198
単一メールアドレスへのメール転送の設定	199
複数メールアドレスへのメール転送の設定	201
メールフォワーダの削除	203
自動応答の設定	204
自動応答の無効化	206
存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位の選択設定（メール転送）	207
複数のメールアカウントへの類似変更の同時処理の導入	208
複数の顧客に対するメール一括送付	209
メーリングリストの維持	214
ヘルプデスクを使用した顧客の問題の解決	218
ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示	219
トラブルチケットへのコメントとクローズ	220
他のホスティングプラットフォームからのユーザアカウント、ドメイン名、Web サイトの移行	221
1つのサーバ内での移行	224

データのバックアップおよび復元 229

サーバ全体のバックアップ	230
ユーザのドメインによる個別ユーザアカウントのバックアップ	230
個別ドメイン（Web サイト）のバックアップ	231
バックアップのスケジューリング	232
サーバパフォーマンスの最適化	234
バックアップアーカイブからのデータの復元	235
バックアップファイルレポジトリの維持	237
バックアップファイルのサーバへのアップロード	237
サーバからのバックアップファイルのダウンロード	238
サーバからのバックアップファイルの削除	238
FTP レポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定	239

統計の表示 240

Webalizer による Web 統計表示の選択設定の調整	242
自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示	243
他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除	244
ダイレクトリクエストの表示と非表示	245
レポート生成とメールによる配信の自動化	246
ログファイルの表示とログファイルの再利用の設定	248

コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニタリング	249
コントロールパネルへの接続のモニタリング	249
FTP サービスへの接続のモニタリング	250
コントロールパネルで顧客が実行したアクションのロギング	251
アクションログの設定	252
アクションログのダウンロード	252
アクションログの消去	253
多数の Plesk サーバに対する集中アクセスの使用	254
サーバレコードの追加	254
サーバ情報の表示とサーバへのログイン	255
サーバレコードの削除	256
コントロールパネルのアップグレード	257
アップデーター設定の変更	258
コントロールパネルからアップデーター機能へのアクセスを拒否	259
付録 A. 拡張機能	260
イベント追跡メカニズムの使用	260
イベントハンドラの追加	261
イベントハンドラの削除	270
Web サーバ設定ファイルへのディレクティブのインクルード	271
Tomcat Java コネクタポートの変更	272
メール設定の復元	272

章 1

序文

対象読者

当ガイドは Plesk コントロールパネル経由でサーバを管理し、コントロールパネルのサーバ管理者アカウントにアクセス権限があるホスティングリセラーを対象としています。

フォント規則

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

フォント	意味	例
特殊太字	メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、選択する必要のある項目。	[QoS]タブに進みます。
	章、セクション、サブセクションのタイトル。	「 基本管理 」の章をご参照ください。
斜体	初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダーの指定などの、重要な箇所を強調。	これらは共用 VPS と呼ばれています。 msiexec /i <前述の *.msi ファイル名または GUID>
固定幅	スタイルシートセレクタの名前、ファイルおよびディレクトリ、CSS フラグメント。	Plesk を「c:\plesk bin」ディレクトリにインストールします。
書式設定済み	コマンドラインセッションでのコンピュータ画面上への出力、ログ、XML や C++ やその他のプログラミング言語のソースコード。	05:31:49 Success. Admin John Smith was added.
書式設定済み太字	入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。	# cd /root/rpms/php

フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、sales@swsoft.co.jp宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしていただきますようお願い致します。

章 2

Plesk について

Plesk はホスティング自動化ソリューションであり、ホスティングプロバイダが管理する Web ホスティングサーバの完全なコントロールを提供し、ユーザアカウント、Web サイト、メールアカウントの設定および管理を容易にします。

Plesk には安定性、安全性、信頼性があり、そして Plesk をご使用いただく一番の利点は管理者である貴方と貴方の技術スタッフの時間と労力の削減です。すべての顧客（およびリセラーの顧客）は個別に分離されたコントロールパネル環境を持ち、自分でサイトやメールアカウントを管理できるようになります。

ビジネスモデル、ユーザアカウント、許可の概要

Plesk ユーザアカウント階層は以下の 3 つのユーザレベルに制限されています。

- クライアントアカウント
- ドメイン管理者アカウント
- メールユーザアカウント

ホスティングサービスの再販や多数のドメイン/Web サイトのホスティングが必要な顧客のためにクライアントアカウントを作成できます。

注： 自分のサイトをホスティングするには、Plesk セットアップの際に作成された特別なサービスアカウントを使用する必要があります。そのサービスアカウントは **マイドメイン** という名前でコントロールパネルに登録されます。

クライアントアカウントにアクセスできる顧客は、管理者が許可した範囲でいくつでもサイトをホスティングできます。また、自分のサイトをホスティングしたり、ホスティングサービスを他のユーザに再販することもできます。その場合、リセラーは顧客の為にドメイン管理者アカウントを作成できます。

ドメイン管理者アカウントにアクセスできる顧客でも、Web ホスティングサービスを再販したり、ホスティングアカウント上に 1 つ以上のサイトを持つことはできません。管理できるのは自分のサイトのみです。最新の Plesk コントロールパネルの実装では、ドメイン管理者アカウントはそれぞれのドメイン（Web サイト）がサーバ上でホスティングされた後に作成されます。

すべてのサイトオーナーは自分のメールアカウントをセットアップしたり、他のユーザにメールホスティングサービスを提供できます。その場合はメールユーザアカウントを作成し、メールユーザにコントロールパネルへのアクセスを許可します。

サイトオーナーは個人の Web ページや自分のドメインで管理している他のユーザの小規模なサイトもホスティングできます。ただし、そのようなサイトのオーナーは通常、自分のドメイン名を持っておらず、専用のコントロールパネル環境を持つことができません。

管理者がコントロールパネル内の動作についての設定でリセラー（クライアントアカウント）に全てを許可すると、リセラーは顧客への割り当てができるようになります。管理者が定義したリセラーへのリソース割り当てはリセラーの顧客へさらに再割り当てすることができます。定義可能な許可およびリソース使用率の制限の詳細な一覧については「ユーザアカウントの管理」『ページ数119』のセクションをご参照下さい。

クライアントやドメイン管理者アカウントへ定めるクォータはすべてソフトクォータです。コントロールパネルはリソース有効範囲をコントロールパネル内にそれぞれのアイコンを表示することで指摘し、それぞれのユーザにメールで通知します。ただし、ユーザアカウントや Web サイトを自動的に停止することはありません。

コントロールパネルは課金システムを内蔵していませんので、サードパーティのソリューションを使用するか、HSPcomplete を Plesk と共に使用するようお勧め致します。

Plesk が管理するソフトウェアコンポーネントの概要

Plesk コントロールパネルは以下のサードパーティのコンポーネントおよびサービスで動作します。

- Bind DNS サーバ
- Apache Web サーバ
- ProFTPD FTP サーバ
- MySQL および PostgreSQL データベースサーバ
- Qmail メールサーバ
- Courier-IMAP IMAP/POP3 サーバ
- Mailman メーリングリストサーバ
- Spamassassin アンチスパムソフトウェア
- Dr.Web アンチウイルス
- Webalizer および AWStats 統計パッケージ
- Tomcat

Plesk パッケージのインストール後、DNS、Web、FTP、メールなどの必須のサービスはデフォルトの最適な設定で実行できるように構成され、すぐに顧客へ提供することが可能です。しかしながら、そのデフォルト設定が貴方のニーズに合うかどうか確認すること、そしてホスティングアカウントのセットアップを更に容易にするユーザアカウントテンプレートとドメインテンプレートを作成することをお勧め致します。

当バージョンの新機能

Plesk 8.2 では以下の新機能および拡張機能を提供します。

自動インストーラの拡張

- 自動インストーラはより詳細なエラーメッセージを提供します。
- 自動インストーラは RedHat Enterprise Linux ES 用のオペレーティングシステムのアップデートを取得してインストールできます。

Plesk 用 Kaspersky アンチウイルスモジュール

ウイルスに対してメールトラフィックをスキャンする Kaspersky アンチウイルスを使用できます。Kaspersky アンチウイルスはカスタマイズ可能であり、特定のタイプの添付をフィルタリングできます。詳細については、

<http://www.swsoft.com/jp/products/plesk/docs/>

<http://www.swsoft.com/en/products/plesk/docs/>で「Kaspersky Antivirus Module Administrator's Guide」をご参照ください。

新しいサイトアプリケーションフォーマット

Plesk はサイトアプリケーションを新しいフォーマットでサポートするようになり、すべての Web アプリケーションの基準になっています。このフォーマットは多数の大規模なホスティング企業で対応予定です。

詳細は<http://swdn.swsoft.com/jp/openfusion/> <http://swdn.swsoft.com/en/openfusion/> をご参照ください。

章 3

はじめに

この章では、Plesk コントロールパネルのインストール後にまず実行すべきことについて説明します。

Plesk へのログイン

➤ Plesk コントロールパネルにログインするには、以下を実行してください。

- 1 Webブラウザを開き、アドレスバーにPleskコントロールパネルの配置されているURLを入力します。

例えば<https://your-domain.com:8443>では、your-domain.com の部分が Web ホストのドメイン名となります。

- 2 ENTERを押します。 Pleskログイン画面が開きます。
- 3 ユーザ名「admin」を [ログイン] ボックスに、パスワードを [パスワード] ボックスに入力します。 インストールしたばかりのコントロールパネルに初めてログインする場合はデフォルトパスワードである「setup」を使用します。
- 4 初めてログインする場合、コントロールパネルで使用する言語を [インターフェース言語] メニューで選択します。 以前にインターフェース言語を指定しインターフェース選択設定に保存している場合は、 [ユーザデフォルト] を選択したままにします。
- 5 [ログイン] をクリックします。

初めてのログイン後、ライセンス使用承諾書に同意し、次にサーバに割り当てるホスト名およびIPアドレスを指定します。

- 6 ライセンス契約を熟読してから、 [このライセンス契約に同意します] および [次回から表示しない] チェックボックスを選択します。
- 7 [同意する] をクリックしてインストール設定に進みます。
- 8 サーバのホスト名を [フルホスト名] フィールドに入力します。 このホスト名は省略されておらず一番後ろにドットがついていない必要があります（例：host.domain.tld）。
- 9 サーバのデフォルトアドレスとして使用するIPアドレスを指定します。以下の2つのオプションがあります。
 - 既存のIPアドレスの1つをドロップダウンボックスから選択します。このリストは自動的にサーバ上で利用可能なすべてのIPアドレスを含んでいます。

または

- **[IPアドレスの追加]** オプションボタンをクリックし、ネットワークインターフェースを選択し、新規 IP アドレスおよびサブネットマスクを **[IPアドレス]** ボックスに入力します。

注：Plesk では、すべての IP アドレスを顧客に割り当てる *前* に共用にするか専用にするかを定めることができます。これにより、コントロールパネルでその区別ができ、専用 IP アドレスを一度に複数の顧客に割り当てないようにします。専用 IP アドレスは 1 人の顧客に割り当てられ、共用 IP アドレスは複数のユーザアカウント間で共有されます。

- 10 [共用IP]** セクションで、既存のアドレスのタイプ（共用または専用）を指定します。IPアドレスのタイプを変更するには **[共用]** および **[専用]** ボタンをクリックします。

ここではこの作業を省略して後で IP アドレスのタイプを指定することもできます（**[サーバ]** > **[IPアドレス]**）。

- 11 [管理者の選択設定]** セクションでデフォルトの管理者パスワードを変更します。

デフォルトの管理者パスワードを変更します。**[新しいパスワード]** ボックスおよび **[パスワードの確認]** ボックスで新しいパスワードの入力および確認を行います。パスワードは最大 14 文字です。パスワードは大文字小文字を区別しますのでご注意ください。

注：管理者パスワードのデフォルトから個別のパスワードへの変更は必ず行ってください。デフォルトのパスワード「setup」で管理者アカウント下のコントロールパネルへのアクセスが可能であり、それを多数の Plesk ユーザが知っているからです。

- 12 [OK]** をクリックします。

- 13 管理者の連絡先情報**を入力します。**[デフォルトクライアントアカウントを作成する]** チェックボックスは選択したままにしてください。

PleskはクライアントアカウントにWebサイトを割り当てます。このチェックボックスを選択していると、自分のWebサイトのホスティングに使用する特別なユーザアカウント「マイドメイン」が作成されます。

- 14 [OK]** をクリックします。

パスワードを忘れた場合

以下の方法のいずれかで忘れたパスワードを入手することができます。

- サーバのファイルシステムの `/etc/psa/.psa.shadow` ファイルから探す。
- コントロールパネルのパスワードリマインダを利用する。

パスワードリマインダを利用するには、以下を実行してください。

- 1 WebブラウザのアドレスバーにPleskコントロールパネルが配置されているURL (例 : `https://your.domain.com:8443`) を入力します。
- 2 ENTERを押します。
Plesk ログイン画面が開きます。
- 3 **[パスワードをお忘れですか?]** リンクをクリックします。
- 4 システムに登録されているログイン名およびメールアドレスを指定します。
- 5 **[OK]** をクリックします。
パスワードがメールで送信されます。パスワードが暗号化されてシステムに保存されているためメールで送信することができない場合は、新規パスワードを秘密コードで設定するよう指示されます。秘密コードはその目的のために生成されて送信されます。
- 6 パスワードリマインダからメールを受信したら、メッセージ本文のリンクをクリックしてください。
新規ブラウザウィンドウが開きます。
- 7 ログイン名および新規パスワードを指定します。フォームの**[秘密コード]** フィールドはシステムが自動的に入力している筈です。そうでなかった場合は、受信したメッセージから秘密コードをクリップボードにコピーしてフォームに貼り付けてください。
- 8 **[OK]** をクリックして情報を送信します。

注：秘密コードはそれが生成されてから 24 時間以内に使用しないと、有効期限が切れて上記のプロセスをすべてやり直すこととなります。

Plesk のインターフェースに慣れる

コントロールパネルにログインすると、標準表示または簡略化されたデスクトップ表示あるいはこの2つの組み合わせで画面が開きます。標準表示はコントロールパネルが2つのメインエリアを持つ従来どおりの表示方法です。ナビゲーションペインが左側、操作が実行されるメイン画面が右側にあります。

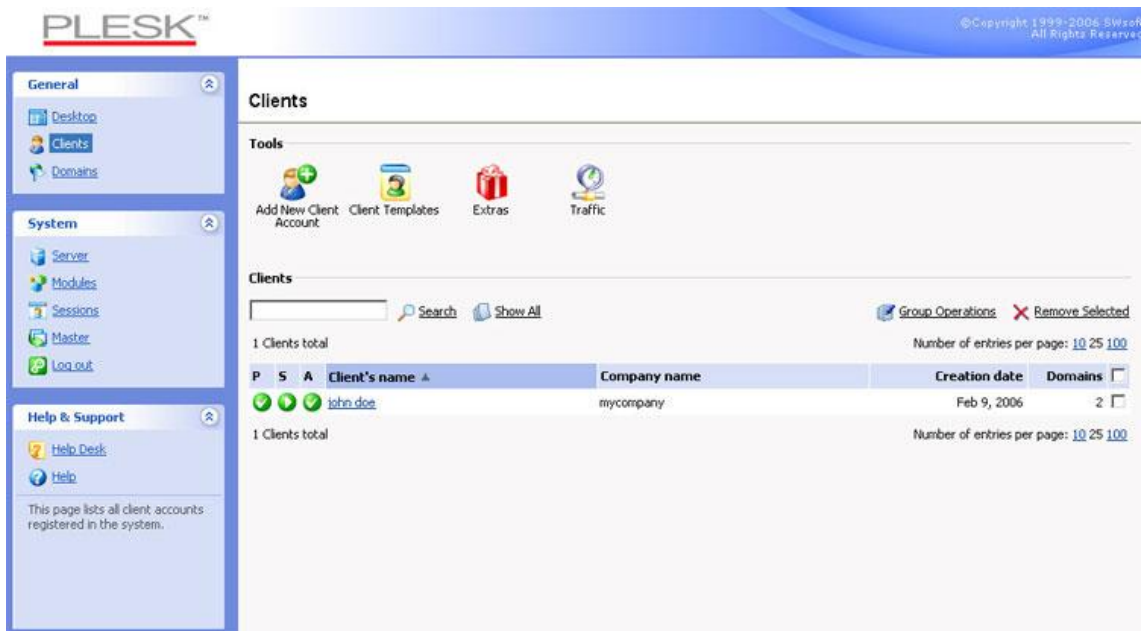


図 1: Standard Administrator's interface

デスクトップ表示はサーバ統計値や使用頻度の高い操作へのショートカットが表示され、必要な項目すべてが1つの画面に表示されます。

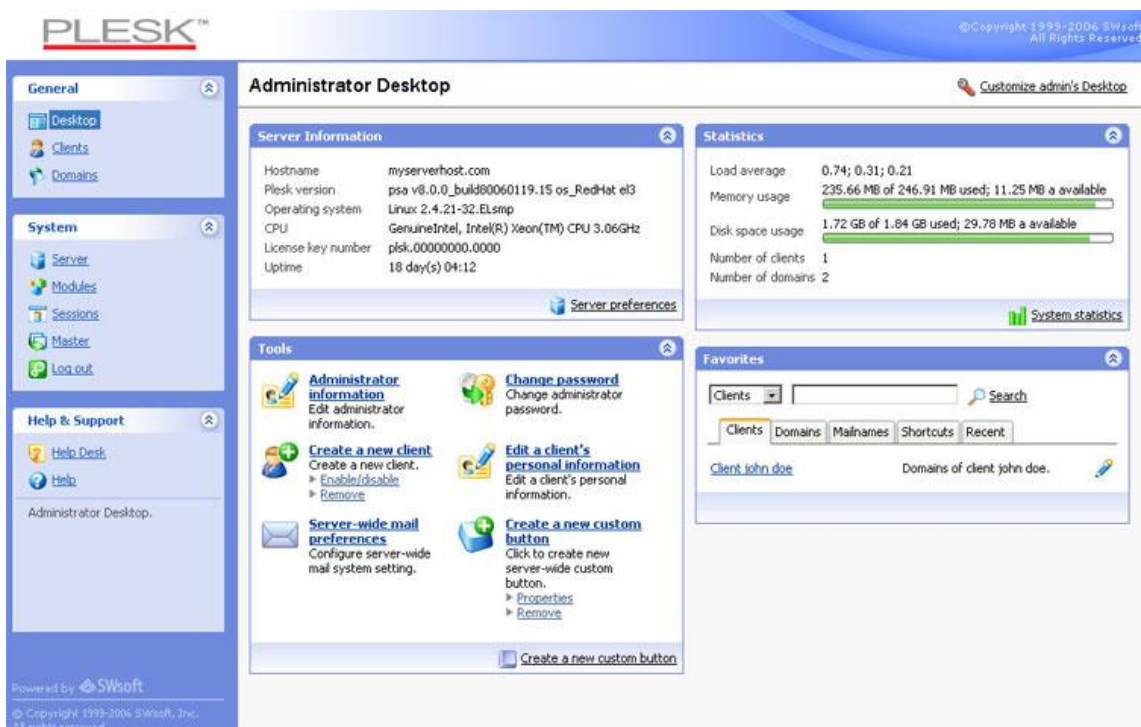


図2: Administrator's Desktop view

コントロールパネルは画面表示を切り替えて使用する（適切なライセンスキーのインストールが必要）か、両方の組み合わせを使用できます。他のコントロールパネルユーザに対してどの表示をするかを指定することもできます。コントロールパネルをカスタマイズする方法については、「コントロールパネルのカスタマイズ」『ページ数46』の章をご参照ください。

デスクトップ表示の項目

デスクトップ表示には最初に以下の4つのセクションがあります。

- **サーバ情報。** ホスト名、コントロールパネルのバージョン、オペレーティングシステムおよびカーネルのバージョン、ライセンスキー番号、システムの使用可能時間が表示されます。
- **統計。** 過去1分、5分、15分の平均処理負荷、メモリおよびディスク使用率、クライアントアカウントおよびホストドメイン（Webサイト）の数を表示します。クライアントアカウントには複数のサイトを持つリセラーや顧客が含まれますが、単一ドメインのオーナーは統計に含まれません。
- **ツール。** このグループはコントロールパネルを通して実行できるオペレーションへのショートカットを表示します。これらのショートカットは自由に追加したり削除したりできます。
- **お気に入り。** このグループは種類別に5つのショートカットに分けられ、それぞれのタブに配置されています。[クライアント] タブは選択されたユーザアカウントに対し使用可能な権限を持つツールへのショートカット、[ドメイン] タブはドメイン管理ツールへのショートカット、[メール名] タブはメールアカウント管理ツールへのショートカットを表示します。[ショートカット] タブはユーザアカウントやドメインおよびメールアカウント関連以外の全ての種類のショートカットを表示します。[履歴] タブは過去10回までに使用されたコントロールパネル画面を表示します。[お気に入り] グループはユーザアカウント、Webサイトホスティングアカウント、メールアカウントを検索するツールを提供します。検索ツールを使用するには、ドロップダウンボックスから項目の種類を選択し、検索基準（どんな記号や文字の組み合わせでもよく、大文字と小文字は区別されません）を入力し、[検索] をクリックします。

ウィザードの使用


デスクトップ表示で Plesk を使用する際、ウィザードの使用が必要なタスクがあります。それぞれのウィザードは一連の画面より成ります。ウィザードを使用してタスクを実行するには、ウィザード画面に表示される指示に従います。個別のオプションについては、このガイドのそれぞれのセクションを参照してください。

標準表示の項目

ナビゲーションペインが左側に表示されます。様々な管理機能にアクセスできます。

- **クライアント。** クライアントおよびそのアカウント関連のすべてのデータを管理します。
- **ドメイン。** Web サイトとそれぞれの E-mail サービスを管理します。
- **サーバ。** このショートカットからサーバ管理機能へのアクセスが可能です。
- **モジュール。** Plesk の性能を拡張する追加のモジュール（ファイアウォール、ゲームサーバ、VPN、その他）を管理します。
- **セッション。** クライアントやサイトおよびメールボックスのオーナーが、コントロールパネルにログインまたは FTP プロトコルを通してサーバに接続した際に、管理者が監視および強制終了できるセッションを設置できます。
- **マスター。** このショートカットから Plesk が使用可能なサーバの集中管理へアクセスできます。
- **ヘルプデスク。** コントロールパネルと統合されたヘルプデスクシステムです。顧客から貴方に報告された問題の表示と解決ができます。
- **ヘルプ。** コンテキストヘルプを提供します。
- **ログアウト。** コントロールパネルでの作業が終了したら、このアイコンをクリックしセッションを閉じます。

[ヘルプ] アイコンの下にはコンテキストヘルプヒントエリアがあります。ここでは現在の画面の説明や操作可能なオペレーションの概略が表示されます。マウスポインタをシステムの要素や状態アイコンの上に持ってくると、追加的な情報が表示されます。

Plesk のナビゲートにはパスバーを使用することもできます。画面右側のバナーエリアの下に一連のリンクが表示されます。前の画面に戻るには、画面右上の  [上へ] アイコンを使用します。

長いリストから項目を見つけたい場合は、すべての項目リストの上にある検索ボックスを使用します。入力ボックスに検索基準を入力し [検索] をクリックします。検索条件にマッチする項目のリストが表示されます。全ての項目の表示に戻るには [全て表示] をクリックします。

特定のパラメータでリストを昇順または降順に並び替えるには、カラムのヘッダ一部分のパラメータ名をクリックします。パラメータタイトルの隣の小さな三角印は並び順を表します。

パスワードおよび連絡先情報の変更

➤ **連絡先情報を変更するには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [管理者情報] グループの [編集] アイコンをクリックします。
- 3 必要に応じて情報を更新し [OK] をクリックします。

➤ **パスワードを変更するには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [管理者情報] グループの [パスワードの変更] アイコンをクリックします。
- 3 古いパスワードと新しいパスワードを入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

➤ **パスワードを忘れた場合は、以下を実行してください。**

- 1 Webブラウザのアドレスバーに、Pleskコントロールパネルの配置されているURLを入力します。
- 2 例えば、<https://your-server.com:8443>となります。
- 3 ENTERを押します。 Pleskログイン画面が開きます。
- 4 [パスワードをお忘れですか?] リンクをクリックします。
- 5 システムに登録されているログイン名およびメールアドレスを指定するよう指示されます。 ログイン名を [ログイン] ボックスに、システムに登録されているメールアドレスを [メールアドレス] ボックスにそれぞれ入力し [OK] をクリックします。
- 6 パスワードが暗号化されてシステムに保存されているためメールで送信することができない場合は、新規パスワードを秘密コードで設定するよう指示されます。秘密コードはその目的のために生成されてメールで送信されます。
- 7 パスワードリマインダからメールを受信したら、メッセージ本文のリンクをクリックしてください。 新規ブラウザウィンドウが開きます。
- 8 ここではログイン名および新規パスワードを指定します。

フォームの [秘密コード] フィールドはシステムが自動的に入力している筈です。 そうでなかった場合は、受信したメッセージから秘密コードをクリップボードにコピーしてフォームに貼り付けてください。

- 9 [OK] をクリックして情報を送信します。
パスワード復元方法の説明がメールで送信されます。

章 4

コントロールパネルの設定

この章では、Plesk コントロールパネルのセットアップや管理に必要な設定手順を説明します。

コントロールパネルのライセンスキーのアップグレード

Plesk にはトライアルライセンスキーが付与されており、コントロールパネルへ自動的にインストールされます。このライセンスキーにより、1つのユーザアカウントの作成や、1つの Web サイトおよび1つのメールボックスのホストが可能です。従って、Plesk コントロールパネルを十分に活用するには、SWsoft またはリセラーからライセンスキーを取得してコントロールパネルにインストールする必要があります。

Plesk ライセンスキーには有効期限が組み込まれています。不正行為および盗難を防ぐためです。Plesk ソフトウェアは 10 日間の猶予期間（有効期限前）中に、盗難の届出がなく、エンドユーザライセンス契約に従って使用されていること（つまり、1台のサーバにのみインストールされていること）を SWsoft のライセンスサーバで確認する必要があります。確認されると、有効期限は延長されます。

Plesk はポート 5224 経由でライセンスサーバに TCP/IP 接続しますので、それがファイアウォールでブロックされていないことを確認してください。更新プロセスは自動的に実行され、Plesk 管理者は問題が発生しない限り何もする必要はありません。Plesk キーの期限が切れたら、ファイアウォールを確認して [サーバ] > [ライセンス管理] へ進み [キーの取得] をクリックしてください。キーが更新されない場合は、リセラーまたは SWsoft（ライセンスを直接 SWsoft から購入された場合）にご連絡ください。




ライセンスサーバへの接続はいつでもテストすることができます。それには、[サーバ] > [ライセンス管理] へ進み [キーの取得] をクリックしてください。

トライアルライセンスキーのアップグレード

- トライアルライセンスキーをアップグレードするには以下を実行してください。
- 1 [サーバ] > [ライセンス管理] に進んで [新しいキーを注文] をクリックします。
 - 2 SWsoftオンラインストアが別のウィンドウで開きます。このウィンドウで、Pleskライセンスに含めたい項目や機能を選択し [送信] をクリックします。次に、通貨、ライセンスキーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。新しいキーが指定したメールアドレスに送信されます。
 - 3 新しいキーをローカルマシンのハードドライブに保存します。
 - 4 Pleskで [ライセンス管理] 画面サイド開いて（ [サーバ] > [ライセンス管理] ）、 [キーのアップロード] をクリックします。
 - 5 ローカルマシンに保存したキーファイルのパスを入力するか、 [参照] をクリックしてアップロード先の場所を指定します。
 - 6 [現在インストールされているライセンスキーを選択したものに変更する] チェックボックスを選択し、新しいライセンスキー変更の続行を確認します。
このチェックボックスを選択しないと、新しいライセンスキーはインストールされずインストールが中止されます。
 - 7 新しいライセンスキーがサーバ上ですでにホストしているサイトより少ないサイトしかホスティングできない場合、Pleskは動作を停止します。実際のリソース使用量と、新しいキーによりカバーされる使用量をコントロールパネルが比較しないようにするには、 [キーにより制限されたリソース使用の制限をチェックしない] チェックボックスを選択します。
この設定は、コントロールパネルを介したアップグレードを行う目的でライセンスキーがカバーしている以上のリソースを一時的にインストールしたい場合に有益です。
 - 8 [OK] をクリックし、新しいキーをコントロールパネルにインストールします。

Plesk アドオンの追加ライセンスキーのインストール



アドオン Plesk コンポーネントに追加ライセンスキーをインストールするには、以下の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの[サーバ]
- 2 ショートカットをクリックします。
- 3  [システム]
- 4 グループの[ライセンス管理]
- 5 アイコンをクリックします。
- 6  [コントロールパネルアドオンを注文する]
- 7 をクリックします。
- 8 使用可能なアドオンが一覧されたSWsoftオンラインストアが別のウィンドウで開きます。注文したいアドオンを選択し、[送信]
- 9 をクリックします。
- 10 Pleskアドオンが既存のライセンスキーへ追加されると、Pleskナンバーチェックシステムページが開きます。機能を追加するライセンスキーの番号を入力し、[送信]
- 11 をクリックします。
- 12 次に通貨、キーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとE-mailで通知されます。
- 13 E-mailで通知を受信したら、[ライセンス管理]
- 14 画面 ([サーバ]
- 15 →[ライセンス管理]
- 16) に戻り  [キー取得]
- 17 をクリックして注文したライセンスキーを取得します。PleskライセンスマネージャはSWsoftライセンスサーバからアップグレードされたライセンスキーを取得し、コントロールパネルに自動的にインストールします。

ライセンスキーのアップグレード

顧客ベースの拡張をしたり現在のライセンスのままサーバ上でホストできるサイトの数を増やしたい場合は、ライセンスキーのアップグレードが必要です。

ライセンスキーをアップグレードするには、以下の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの[サーバ]
- 2 ショートカットをクリックします。
- 3 [システム]
- 4 グループの[ライセンス管理]
- 5 アイコンをクリックします。
- 6  [コントロールパネルアップグレードを注文する]
- 7 をクリックします。
- 8 >SWsoftオンラインストアページで希望するアップグレードオプションを選択し、[送信]
- 9 をクリックします。
- 10 次に購入の詳細を指定しフォームを送信します。注文が処理されるとE-mailで通知されます。
- 11 E-mailで通知を受信したら、[ライセンス管理]
- 12 画面 ([サーバ]
- 13 →[ライセンス管理]
- 14) に戻り  [キー取得]
- 15 をクリックして注文したライセンスキーを取得します。PleskライセンスマネージャはPleskライセンスサーバから購入したライセンスキーを取得し、コントロールパネルに自動的にアップロードします。

以前使用していたライセンスキーへのロールバック

- 以前使用していたライセンスキーにロールバックするには、以下を実行してください。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [システム] グループの [ライセンス管理] アイコンをクリックします。
 - 3 [キーのロールバック] をクリックします。 前回インストールしたライセンスキーが復元されます。

コントロールパネルの保護

コントロールパネルへの管理アクセスの制限

セキュリティ上の不安を軽減する為、特定の IP アドレスからのコントロールパネルへの管理アクセスを制限します。

➤ **コントロールパネルへの管理アクセスを特定の IP アドレスやネットワークからだけ許可するには、以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [アクセス] に進みます。
- 2 [新しいネットワークの追加] をクリックし、必要な IP アドレスを指定します。 [OK] をクリックします。

サブネットの指定には、ワイルドカード記号(*)とサブネットマスクを使用できます。

- 3 [リストにないネットワークからの受信を拒否する] オプションを選択し、[設定] をクリックします。 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

➤ **特定の IP アドレスやネットワークからの管理アクセスを禁止するには、以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [アクセス] に進みます。
- 2 [新しいネットワークの追加] をクリックし、IP アドレスを指定します。 [OK] をクリックします。

サブネットの指定には、ワイルドカード記号(*)とサブネットマスクを使用できます。

- 3 [リスト上のネットワーク以外からの受信を許可する] オプションを選択し、[設定] をクリックします。 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

Plesk のデフォルトでは、同じログイン名とパスワードを使って複数のユーザがコントロールパネルにログインし、同時に複数のセッションを実行することができます。 この機能は管理機能を他のユーザに委任したり、間違えてログアウトせずにブラウザを閉じてしまいセッションの有効期限まで再度ログインできなくなってしまう場合などに有効です。 必要なればこの機能を無効にできます。

➤ **管理コントロールパネルへの同時セッションを禁止するには以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [編集] に進みます。
- 2 [複数セッションを許可する] チェックボックスの選択を外して [OK] をクリックします。

SSL 暗号化によるサーバ通信の保護

セキュリティ上の理由により、コントロールパネルへのアクセスはセキュアソケットレイヤーが有効なハイパーテキスト転送プロトコルにより提供されるセキュア接続を通してのみ可能です。Plesk 管理サーバで交換されるすべてのデータは暗号化されており、機密情報の傍受を防ぎます。データ暗号化のプロセスで使用される SSL 証明書はコントロールパネルのインストール中に自動的に生成され、サーバへインストールされます。いわゆる自己署名証明書です。認証局（CA）からの承認を受けていないため、コントロールパネルに接続しようとする Web ブラウザに警告メッセージが表示されます。

顧客の信頼を得るには信頼のおける認証局から SSL 証明書を購入し、コントロールパネルにインストールする必要があります。

以下のいずれかの方法で、SSL 証明書を入手できます。


- コントロールパネルの提供する機能を使用して SSL 証明書をジオトラスト社から購入。
または
- コントロールパネルから証明書署名リクエスト（CSR）を作成し、SSL 証明書を作成している任意の認証局へ送信。

注：コントロールパネルの機能を使用して MyPlesk.com オンラインストア経由で証明書を購入する場合は、証明書署名リクエスト作成にコマンドラインツールを使用しないでください。

- **MyPleskCom オンラインストア経由でジオトラスト社から SSL 証明書を購入し、コントロールパネルを保護するには、以下を実行してください。**
- 1 [サーバ] > [証明書] に進みます。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
 - 2 [新しい証明書の追加] をクリックします。
 - 3 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するホスト名の指定。例えば、以下のようになります。
your-domain.com
 - メールアドレスを入力します。
 - 4 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
 - 5 [証明書の購入] をクリックします。

秘密鍵と証明書署名リクエストが生成されますので、これは削除しないでください。MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。

- 6 既存のMyPlesk.comアカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
- 7 購入したい証明書の種類を選択します。
- 8 **[購入する]** をクリックし、証明書を注文します。 **[承認者メールアドレス]** ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。

承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。
- 9 証明書リクエストが処理されるとジオトラスト社から確認のメールが送信されます。 ユーザからの確認を受け取った後、そのユーザのメールアドレス宛に証明書を送信します。
- 10 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
- 11 SSL証明書レポジトリへ戻ります（ **[サーバ]** > **[証明書]** ）。
- 12 ページの中央にある **[参照]** をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。 証明書をクリックし、 **[ファイル送信]** をクリックします。 証明書がレポジトリにアップデートされます。
- 13 追加したばかりの証明書に該当するチェックボックスを選択し  **[セキュアコントロールパネル]** をクリックします。

➤ **他の認証局からのSSL証明書を使用してコントロールパネルを保護するには、以下を実行してください。**

- 1 **[サーバ]** > **[証明書]** に進みます。 リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
- 2 **[新しい証明書の追加]** をクリックします。
- 3 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。 SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。 1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。 入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するホスト名の指定。 例えば、以下ようになります。
your-domain.com
 - メールアドレスを入力します。
- 4 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。

- 5 [リクエスト] をクリックします。 秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、レポジトリに格納されます。
 - 6 証明書署名リクエスト (CSR) ファイルをダウンロードし自分のマシンに保存します。 その実行には、それぞれの📄アイコンをクリックします。
 - 7 ダウンロードが完了したら、ファイルをテキストエディタで開き、-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- と -----END CERTIFICATE REQUEST-----で囲まれたテキストをクリップボードにコピーします。
 - 8 お好みのメールクライアントソフトウェアを使用し、新しいメールメッセージを作成し、テキストをクリップボードから貼り付けます。 このメッセージを認証局に送信します。 認証局はあなたが提供した情報に応じてSSL証明書を作成します。
 - 9 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
 - 10 SSL証明書レポジトリへ戻ります ([サーバ] > [証明書]) 。
 - 11 ページの中央にある [参照] をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。 証明書をクリックし、[ファイル送信] をクリックします。 証明書がレポジトリにアップデートされます。
 - 12 追加したばかりの証明書に該当するチェックボックスを選択し👉 [セキュアコントロールパネル] をクリックします。
- *何らかの理由で自己署名証明書を作成する必要がある場合は、以下の手順に従ってください。*
- 1 [サーバ] > [証明書] に進みます。 リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
 - 2 [新しい証明書の追加] をクリックします。
 - 3 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。 SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。 1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。 入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するホスト名の指定。 例えば、以下のようになります。
your-domain.com
 - メールアドレスを入力します。
 - 4 [自己署名] ボタンをクリックします。 証明書が生成され、リポジトリに格納されます。

コントロールパネルのカスタマイズ

コントロールパネルのデスクトップ表示およびスタンダード表示（「Plesk のインターフェイスに慣れる」 『ページ数16』 の章に記載しています）にはそれぞれのカスタマイズ設定があり、コントロールパネルのそれぞれのエリアで変更されています。

デスクトップ表示のカスタマイズについては、「デスクトップ表示でのコントロールパネルのカスタマイズ」 『ページ数46』 のセクションをご参照ください。

スタンダード表示（コントロールパネルの、デスクトップ用以外のエリアおよび画面すべて）のカスタマイズについては、「スタンダード表示でのコントロールパネルのカスタマイズ」 『ページ数33』 のセクションをご参照ください。

コントロールパネルに、デスクトップ表示だけ、またはスタンダード表示だけ、または一度に両方表示することを選択できます。 それには、そのインターフェイス表示をサポートするライセンスキーを取得してインストールする必要があります。 ライセンスキーの機能に関係なく、他のコントロールパネルユーザに対してどの表示にするかを指定することもできます。

この章では以下のタスクを実行する方法についてご説明致します。

コントロールパネルのインターフェイス言語とテーマ（スキン）を変更 『ページ数31』

コントロールパネルから不要なボタンを削除 『ページ数33』

コントロールパネルにカスタム・ハイパーリンク・ボタンを追加 『ページ数44』

コントロールパネルにバナーエリアにカスタムロゴを設定 『ページ数43』

より多くのコントロールパネル言語サポートを追加 『ページ数40』

インターフェイステーマ（スキン）を追加 『ページ数42』

デスクトップから項目を追加または削除 『ページ数46』

インターフェース言語およびスキンの変更

- **自分のコントロールパネルおよび顧客のインターフェース言語およびスキンを変更するには、以下を実行してください。**
- 1 [サーバ] > [コントロールパネル] > [サーバプリファレンス] に進みます。
 - 2 以下を指定します。
 - a **デフォルトロケール。**新しいコントロールパネルユーザのデフォルトとして設定されるインターフェース言語を選択します。
 - b **デフォルトスキン。**新しいコントロールパネルユーザのデフォルトとして設定されるインターフェース言語を選択します。
 - c **管理者のインターフェース言語。**コントロールパネルの言語を選択します。
 - d **管理者のインターフェーススキン。**コントロールパネルのスキン（テーマ）を選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。

コントロールパネル画面では、レビューが必要となる場合がある以下の設定もあることにご留意ください（ほとんどのユーザにおいてはデフォルト値にしておくことをお勧め致します）。

- a **ボタンラベルの長さ。**ボタンの翻訳した表題が英語より長くなりコントロールパネルからはみ出すのを防ぐため、ここで長さを制限することができます。定義した制限よりも長いボタンの表題はすべて短縮され省略符号 (...) で終了します。
- b **インターフェース画面が完全にロードされるまでユーザはコントロールパネルで作業できなくなります。**コントロールパネルの準備が出来る前にユーザが作業しようとして発生するエラーを避けるには、これを選択したままにします。
- c **デフォルト・インターフェース・カスタマイズ・テンプレート。**ひとたび「インターフェース・カスタマイズ・テンプレートの使用」『ページ数33』に記載したようにコントロールパネルをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。
- d **デスクトップの事前設定。**ひとたび「デスクトップ事前設定の使用」『ページ数48』に記載したようにデスクトップをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。
- e **管理者のインターフェース・カスタマイズ・テンプレート。**ひとたび「インターフェース・カスタマイズ・テンプレートの使用」『ページ数33』に記載したようにコントロールパネルをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。

- f **管理者ログインにおける多重セッションの許可。** Plesk のデフォルトでは、同じログイン名とパスワードを使って複数のユーザがコントロールパネルにログインし、同時に複数のセッションを実行することができます。この機能は管理機能を他のユーザに委任したり、間違えてログアウトせずにブラウザを閉じてしまいセッションの有効期限まで再度ログインできなくなってしまった場合などに有効です。必要なければこの機能を無効にできます。
- g **フルホスト名。**
- h **Apache 再起動の間隔。** コントロールパネル経由で変更したホスティングアカウント設定はすべて、Web サーバが再起動しないと有効になりません。デフォルトでは、Web サーバは 15 分に 1 回以上は再起動しないように設定されています。この値はほとんどの場合に最適であり、このデフォルト設定のままにしておくことをお勧め致します。ホスティングアカウント設定に変更がなければ Web サーバは強制的に再起動されないことにご注意ください。
- i **トラフィック統計保持期間。** デフォルトでは統計は 3 ヶ月間保持されます。他の期間をここに指定したほうが良い場合もあります。
- j **ディスク容量および帯域幅使用量を計算する際に統計ユーティリティがカウントする項目。**

標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ

インターフェースカスタマイズテンプレートの使用

インターフェースカスタマイズテンプレートは Plesk ユーザに割り当てられたインターフェースカスタマイズオプションのセットです。インターフェース要素のカスタム設定ができ、その設定をテンプレートに保存できます。それからテンプレートを特定のクライアントアカウントに割り当てます。

デフォルトカスタマイズテンプレートは Plesk のインストール後に自動的に作成されます。最初に、デフォルトテンプレートによって、ユーザはコントロールパネルの全てのインターフェース要素へアクセスできるようになります。他に明確に指定されているテンプレートがない限り、デフォルトテンプレートは管理者を含むすべてのユーザアカウントに自動的に適用されます。デフォルトのテンプレートはコントロールパネルから削除できません。別のテンプレートをデフォルトとして設定することができます。テンプレート一覧ではデフォルトテンプレートは太字で表示されます。

よって、特定のクライアントに対しインターフェースのカスタマイズをする場合、貴方はデフォルトテンプレートを変更するか、自分のカスタマイズテンプレートを作成しユーザアカウントに割り当てることができます。

MyPlesk.com e-コマースポータル関連のボタンおよび現時点で無効な機能に関連するボタン（コントロールパネルでグレー表示になっています）だけを非表示にする必要がある場合は、インターフェースカスタマイズテンプレートを使用しなくても非表示にできます。それは「ボタンの表示と非表示」でご説明しています。

テンプレートの作成

➤ **テンプレートを作成してインターフェース要素にカスタムルールを指定するには、以下を実行してください。**

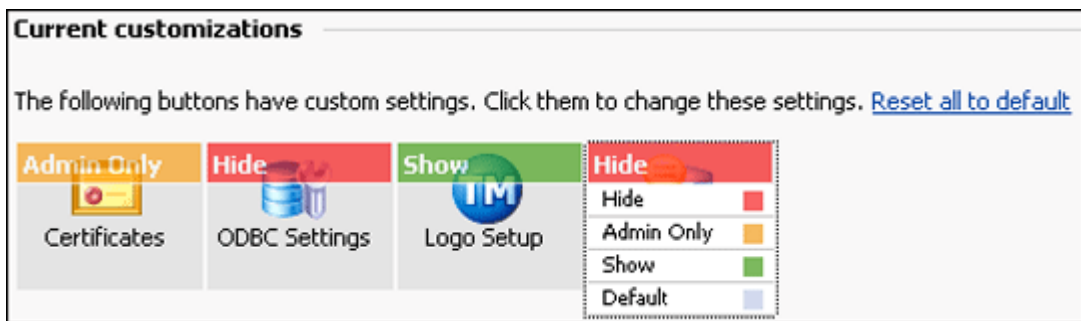
- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [インターフェーステンプレート] タブに進み、[インターフェーステンプレートを追加] をクリックします。
- 2 次のページで、新規のテンプレートの名前を入力します。このフィールドは必須です。
- 3 [デフォルト] チェックボックスを選択してこのテンプレートをデフォルトにします。

他に明確に指定されているテンプレートがない限り、デフォルトテンプレートはすべてのユーザアカウントに自動的に適用されます。

- 4 [ツールバー表示] をクリックして、インターフェース要素のルールをカスタマイズします。

ツールバーを使用してユーザアカウントの Plesk 画面上のボタンの外観をカスタマイズします。 ツールバーは Plesk 画面の下部に表示されます。 ツールバーがオンになっていると、Plesk インターフェイス画面の移動や別のボタンのルール定義ができます。

- 5 インターフェイス要素をカスタマイズする Plesk 画面へ移動します。
- 6 ツールバーの [カスタマイズ] ボタンをクリックし、カスタマイズモードを有効にします。
- 7 カスタマイズしたいボタンの上の透明な画面をクリックし、ドロップダウンメニュー内の以下のオプションを1つ選択します。
 - 非表示 – 管理者を含むすべてのユーザに対しこのボタンを非表示にします。
 - 管理者のみ – 管理者にはこのボタンを表示し、それ以外のすべてのユーザには非表示にします。
 - 表示 – すべてユーザに対し常にこのボタンを表示します。
 - デフォルト – 前回このボタンに対して行ったカスタマイズをリセットし、デフォルト設定に戻します。



- 8 ボタンのカスタマイズが終了したらツールバーの [OK] をクリックします。
- 9 [ツールバー非表示] をクリックしてカスタマイズモードを終了します。
- 10 インターフェイスカスタマイズテンプレート一覧へ戻ります（[サーバ] > [インターフェイス管理] > [インターフェーステンプレート]）。

作成したテンプレートがカスタマイズテンプレート一覧へ追加されます。これでテンプレートをユーザアカウントへ割り当てることができます。

ユーザアカウントへのテンプレートの割り当て

➤ **インターフェースへテンプレートを割り当てるには、以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [編集] に進みます。
- 2 [管理者インターフェース選択設定] で必要なカスタマイズテンプレートを選択し、[OK] をクリックします。

注： テンプレートリスト内では、管理者のインターフェースに現在使用されているテンプレートは斜体で表示されます。 デフォルトのテンプレート名は太字で表示されます。 デフォルトのテンプレートを使用している場合は、太字の斜体で表示されます。

➤ **クライアントアカウントへテンプレートを割り当てるには、以下を実行してください。**


- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [インターフェーステンプレート] タブに進みます。
- 2 テンプレートリスト内で、[使用] カラムの数字をクリックします。
この数字は現在そのテンプレートを使用しているクライアントアカウントの数を表示しています。
- 3 [新規クライアントの追加] をクリックしてテンプレートを別のクライアントアカウントに割り当てます。
- 4 リスト内のクライアントがそのテンプレートを使用していない場合は、1つまたは複数のクライアントアカウントを選択し [OK] をクリックします。

選択したクライアントアカウントにテンプレートが割り当てられます。

注： 新規のクライアントアカウントの作成中やクライアントアカウント選択設定の編集でも、クライアントへテンプレートを割り当てることができます。 新規アカウントを作成するには、ナビゲーションペインで [クライアント] をクリックして [新しいクライアントアカウントの追加] をクリックします。 クライアントアカウント選択設定を編集するには、ナビゲーションペイン内の [[クライアント] をクリックし、必要なクライアント名をクリックします。

テンプレートの削除


➤ コントロールパネルから1つまたは複数のテンプレートを削除するには、以下を実行してください。

- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [インターフェーステンプレート] タブに進みます。
- 2 右側のチェックボックスを使用し、1つまたは複数のテンプレートを選択します。
- 3  [選択対象の削除] をクリックします。
- 4 削除を確認して [OK] をクリックします。

指定したテンプレートがコントロールパネルから削除され、そのテンプレートを使用していたユーザにデフォルトテンプレートが割り当てられます。


デフォルトテンプレートの変更

➤ 別のテンプレートをデフォルトとして設定するには、以下を実行してください。

- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [インターフェーステンプレート] タブに進みます。
- 2 必要なテンプレートに該当するチェックボックスを選択します。
- 3  [デフォルト] をクリックします。テンプレートを明示的に指定していないすべてのユーザに、選択したテンプレートが適用されます。

テンプレートのエクスポートとインポート

➤ あるPleskサーバで作成したテンプレートを別のPleskサーバにインポートするには、以下を実行してください。

- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [インターフェーステンプレート] タブに進みます。
- 2  アイコンをクリックし、ファイルへエクスポートするテンプレートを保存します。
- 3 [ファイルダウンロード] ダイアログボックスで [保存] をクリックし、ハードドライブ上でファイルの保存先を指定します。
テンプレート設定が template_name.xml ファイルとして保存されます。
- 4 テンプレートファイルを別のPleskサーバに移行します。
- 5 別のPleskが有効になっているサーバで、[サーバ] > [インターフェース管理] > [インターフェーステンプレート] タブへ進み、[アップロード] をクリックします。
- 6 インポートされたテンプレートの名前を入力するか、ハードドライブ上にテンプレートを配置します。
ファイルは .xml 形式でなければなりません。
- 7 [OK] をクリックします。このテンプレートのカスタマイズ設定を表示します。ここではテンプレートの編集のため [ツールバーの表示] をクリックします。
- 8 設定が終了したら、[OK] をクリックします。マシンに新規テンプレートがアップロードされます。
- 9 このテンプレートをクライアントアカウントに割り当てます（「ユーザアカウントへのテンプレートの割り当て」のセクションを参照してください）。

ボタンの表示と非表示

定義済みのボタンを Plesk インターフェースから簡単に非表示にすることができます。この場合、ユーザは許可されていないコントロールやサポートされていない（サービスがインストールされていない）機能を見ることができません。

➤ **ボタンを非表示にするには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。
- 3 [インターフェーステンプレート] タブをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [選択設定] アイコンをクリックします。
- 5 チェックボックスを選択して、以下のコントロールのグループを非表示にできます。
 - 灰色のボタン。本来、灰色で表示されるアイコンは、インストールされていないためにコントロールパネルを通して管理できないサービスやコンポーネントを意味します。いくつかのサービスが使用できないことでユーザが失望しないように、このボタンを非表示にできます。使用できないボタンをすべて非表示にするには、[デフォルトですべてのグレーのボタンを非表示にする] チェックボックスを選択します。
 - 制限管理コントロール。ユーザに対して、ユーザが使用できない制限管理コントロールが表示されないようにするには、[ユーザが使用できない制限管理コントロールを隠す] チェックボックスを選択します。
 - 権限管理コントロール。ユーザに対して、ユーザが使用できない許可管理コントロールが表示されないようにするには、[ユーザが使用できない許可管理コントロールを隠す] チェックボックスを選択します。
- 6 [ボタンセット] でチェックボックスを選択して、以下のボタンセットまたはその他のコントロールパネル要素を非表示にできます。
 - MyPlesk.com オンラインストアにより提供されるサービスに関連するボタン。ドメイン登録サービスや SSL 証明書を再販する場合は、[ドメイン登録のボタンを非表示にする]、[証明書購入のボタンを非表示にする]、[追加サービスのボタンを非表示にする] チェックボックスを選択します。MyPlesk.com に関連するすべてのボタンはすべてのユーザレベルでコントロールパネルから削除されます。
 - メール転送コントロール ドメイン内に存在しないメール受信者宛に送られたメールに対する返信ルールをユーザが自分で設定して使用できないようにするには、[メール返信コントロールを非表示にする] チェックボックスを選択します。
 - サードパーティのサービスを促進するコントロールパネルの項目は、Fotolia Web サイト(ストックフォト)へのリンクおよび新規にホスティングされた Web サイト用の Web メールアプリケーション内のデフォルトページに表示されている www.moreover.com のニュースフィードです。

7 [OK] をクリックします。

➤ **非表示のボタンをインターフェースで表示させるには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。
- 3 [インターフェーステンプレート] タブをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [選択設定] アイコンをクリックします。
- 5 インターフェースで再度表示させる非表示のボタンに該当するチェックボックスのチェックを外します。
- 6 [OK] をクリックします。

スーパー管理者によるオーバーライド

スーパー管理者 (root) は、管理者権限を持つユーザに対してさえも（例えカスタマイズモードにあったとしても）Plesk コントロールパネルに決して表示されない一連のコントロールを定義することができます。このためには、以下を実行します。

- 1 Pleskコントロールパネル経由でインターフェースをカスタマイズします。
- 2 `/plesk_installation_directory/var/` に `root.controls.lock` という名前の空のファイルを作成します。
- 3 MySQLデータベースサーバにログインし非表示コントロールの状態を示す値を入手します。

```
# mysql -uadmin -Dpsa -p
mysql> select page, control from itmpl_data;
+-----+-----+
| /server/server.php3 | key_info |
+-----+-----+
```

- 4 これらの値をコロンで区切って `/plesk_installation_directory/var/root.controls.lock` ファイルに追加します。

```
/server/server.php3:key_info
```

- 5 ファイルを保存します。



このファイルに追加した値によってコントロールパネル経由で作成されたカスタマイズはオーバーライドされます。

インターフェース言語のインストールとアンインストール

SWsoft サイトから新規の言語パックをダウンロードしコントロールパネルにインストールできます。コントロールパネルで使用できる言語の数は購入したライセンスキーによって決まります。許可されている以上の数の言語をインストールしようとすると、コントロールパネルから警告が発せられます。

➤ **コントロールパネルにインストールされているインターフェース言語を表示するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。以下の情報が表示されます。
 - 言語パックの現在のステータスが言語ステータスアイコンに表示されます。🟢 はユーザが言語パックにアクセスできることを意味し、🔴 はアクセスできないことを意味し、🟡 は言語パックの数が現在のライセンスによるサポートの上限数を超えているためユーザがその言語パックを使用できないことを意味します。

注：コントロールパネルユーザが言語を使用できないようにできます。それには、アイコンをクリックします。ユーザが言語を使用できるようにするには、をクリックします。

- 【言語コード】は4文字の言語コードです。
- 【言語】は言語の名前を表します。
- 【国】はこの言語を母国語としている国を表します。
- 【使用中】はインターフェースでその言語を使用しているすべてのレベルのコントロールパネルのユーザの数を表します。

➤ **SWsoft Web サイトからダウンロードした新規言語パックをインストールするには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの【サーバ】ショートカットをクリックします。
- 2 【コントロールパネル】グループの【インターフェース管理】アイコンをクリックします。
- 3 【ロケールの追加】ボタンをクリックします。
- 4 言語パックファイルへのパスを入力するか、【参照】ボタンでファイルの位置を指定します。

RPM ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .rpm の言語パックファイルをご利用ください。


DEB ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .deb の言語パックファイルをご利用ください。

FreeBSD ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .tgz または .tbz の言語パックファイルをご利用ください。

MacOS ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .sh の言語パックファイルをご利用ください。

- 5 【OK】をクリックして言語をシステムにインストールします。

➤ **コントロールパネルから言語パックをアンインストールするには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの【サーバ】ショートカットをクリックします。
- 2 【コントロールパネル】グループの【インターフェース管理】アイコンをクリックします。
- 3 適切なチェックボックスを選択して、【選択対象を削除】をクリックします。次のページで削除を確認してください。

削除した言語パックを他のユーザが使用している場合は、そのインターフェース言語は自動的にデフォルト言語に設定されます。Plesk ディストリビューションパックのデフォルト言語 (en-US) は削除できません。


コントロールパネルテーマ（スキン）のインストールとアンインストール

自分のコントロールパネルのカスタムスキンを開発して使用することができます。サードパーティが作成したスキンを使用するのは、スキンパッケージに悪質なコードが含まれている可能性があるため危険です。信頼できるソースから支給されるスキンのみを使用するよう強くお勧めします。

➤ **現在インストールされているスキンを表示するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。
- 3 [スキン] タブをクリックします。

➤ **スキンパッケージをダウンロードするには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。
- 3 [スキン] タブをクリックします。
- 4 適切な  アイコンをクリックするか、スキン名をクリックし、[スキンのダウンロード] をクリックします。
- 5 スキンファイルをパックしたいアーカイブの種類を選択し、[OK] をクリックします

スキンのダウンロードの準備ができると、ファイルのダウンロードのダイアログウィンドウが表示されます。

- 6 [保存] をクリックし、ファイル名とダウンロードするスキンパッケージファイルを保存する場所を指定して [保存] をクリックします。

これでダウンロードしたアーカイブファイルの内容を変更して自分のスキンを作成できます。Plesk コントロールパネルのカスタムスキンを作成する方法については、スキン解説文書 [サーバ] > [インターフェース管理] > [スキン] > [スキン解説] をご参照ください。

➤ **コントロールパネルに新規のスキンをインストールするには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。
- 3 [スキン] タブをクリックします。

- 4 [新規スキンの追加] をクリックします。スキンパッケージファイルのロケーションを指定し、[OK] をクリックします。
- 既にインストールされているスキンの内容を更新するには、以下を実行してください。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。
 - 3 [スキン] タブをクリックします。
 - 4 スキン名をクリックし、[スキンのアップデート] をクリックします。スキンパッケージファイルのロケーションを指定し、[OK] をクリックします。
- リポジトリから1つまたは複数のスキンを削除するには、以下を実行してください。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [コントロールパネル] グループの [インターフェース管理] アイコンをクリックします。
 - 3 [スキン] タブをクリックします。
 - 4 該当するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象の削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

注： 特定のユーザのコントロールパネルで現在使用されているスキンを削除すると、そのユーザのコントロールパネルの外観がデフォルトのスキンに自動的に変更されます。デフォルトのコントロールパネルスキンは削除できません。

カスタムロゴバナーによるコントロールパネルの再ブランディング

トップフレームのデフォルト Plesk ロゴバナーを自分のロゴに置き換えることができます。顧客は彼らのコントロールパネルにログインしたときにそれを目にします。このロゴに Web サイトへのハイパーリンクをつける事もできます。

ロゴには GIF、JPEG、もしくは PNG 形式のファイルを使用し、ダウンロード時間を少なくするため 100 キロバイト以下にしてください。画像の高さは 50 ピクセルをお勧め致します。

- **ロゴの画像を設定するには以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [コントロールパネル] グループの [ロゴ設定] アイコンをクリックします。


- 3 事前設定ファイルへのパスを指定するか、[参照] をクリックしてファイルの位置を指定します。 [開く] をクリックします。
- 4 ユーザがロゴをクリックした際にジャンプするハイパーリンクを作成するには、希望のURLを[ロゴの新規URLを入力]ボックスに入力します。
- 5 [OK] をクリックして情報を送信します。

Plesk のデフォルトロゴに戻すには、[デフォルトロゴ] をクリックします。


カスタムハイパーリンクボタンの追加と削除





➤ Plesk コントロールパネルにカスタムハイパーリンクボタンの追加して、顧客が自分のコントロールパネルからそれを見ることができかどうかを指定するには、以下を実行します。

- 1 [サーバ] > [カスタムボタン] に進んで [新しいボタンを追加] をクリックします。
- 2 以下を実行してボタンのプロパティを指定します。
 - [ボタンラベル] ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。 ナビゲーションペインに配置するには、[ロケーション] ドロップダウンボックスの[ナビゲーションペイン]を選択します。それぞれのクライアントのホームページやデスクトップに配置するには、[クライアントホームページ] オプションを選択します。それぞれのドメインオーナーのホームページやデスクトップ(ドメインオーナーは貴方のリセラーの顧客になります)に配置するには、[ドメイン管理ページ] オプションを選択します。
 - ボタンの優先度を指定します。 Plesk は定義した優先度に従ってコントロールパネル上のカスタムボタンを配置します。 数字が小さいほど優先度が高くなります。 ボタンは左から右へ並べられます。
 - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、[参照] をクリックしてそのファイルを参照します。 ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームやデスクトップに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお勧め致します。
 - [URL] ボックスにボタンに付加するハイパーリンクを入力します。
 - チェックボックスを使用し、URL にドメイン名、FTP ログイン、FTP パスワード、他の転送するデータを含めるかどうか指定します。 これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
 - [コンテキストヘルプヒントコンテンツ] 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
 - 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、[コントロールパネルの中に URL を開く] チェックボックスをチェックして下さい。このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くこととなります。



- このボタンをコントロールパネルにアクセスしている顧客やリセラーやその顧客からも見えるようにするには、[すべてのサブログインに表示します] チェックボックスを選択します。
- 3 作成を完了したら [OK] をクリックします。
- コントロールパネルからハイパーリンクボタンを削除するには、以下を実行します。
- 1 [サーバ] > [カスタムボタン] に進みます。
 - 2 削除するボタンに対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] アイコンをクリックします。

デスクトップ表示でのコントロールパネルのカスタマイズ


- デスクトップから項目を追加または削除するには以下を実行します。
- 1 [デスクトップ] >  [デスクトップをカスタマイズ] に進みます。
 - 2 [サーバ情報] グループを表示するかどうかと、表示する項目を指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。
 - 3 コントロールパネル経由で実行したいタスクを指定します。デスクトップに適切なショートカットが配置されます。[選択したタスク] リストはどのショートカットが既にデスクトップに配置されているを示します。[使用可能なタスク] リストはデスクトップにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - デスクトップにショートカットを追加するには、[使用可能なタスク] リストで必要なタスクを選択し [追加 >>] をクリックします。
 - デスクトップからショートカットを削除するには、[選択したタスク] リストから必要のないタスクを選択し [<< 除] をクリックします。
 - 4 デスクトップ上にカスタムボタンを表示させるには、[ツール] で [カスタムボタン] チェックボックスを選択します。
 - 5 [統計] と [お気に入り] グループを表示するかどうかと、そこに何の項目を表示するかを指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。

[お気に入り] グループは項目へのリンクやデスクトップに追加されたコントロールパネル画面を示します。それぞれのコントロールパネル画面で  [お気に入りに追加] または  [ショートカットの作成] アイコンをクリックして選択した項目が、このグループに含まれます。
 - 6 [OK] をクリックします。
- デスクトップの [お気に入り] グループに項目を追加するには以下を実行します。
- 1 必要なコントロールパネル画面に進みます。
 - 2 画面右上隅の  [お気に入りに追加] または  [ショートカットの作成] アイコンのいずれかをクリックします。
 - 3 ショートカットのカスタムラベルおよび説明を指定するには、[デフォルトの使用] チェックボックスの選択を外してラベルおよび説明を指定し、[OK] をクリックします。

➤ **【お気に入り】グループのショートカットのラベルまたは説明を変更するには以下を実行します。**



- 1 デスクトップ上で変更したいショートカットをクリックします。
- 2 画面右上隅の  【お気に入りの編集】 または  【ショートカットの編集】 アイコンをクリックします。
- 3 ラベルおよび説明を希望通りに変更し [OK] をクリックします。

または


- 1 デスクトップ上で変更したいショートカットに対応する  アイコンをクリックします。
- 2 ラベルおよび説明を希望通りに変更し [OK] をクリックします。

➤

➤ **デスクトップの【お気に入り】グループから項目を削除するには以下を実行します。**

- 1 デスクトップ上で削除したいショートカットをクリックします。
- 2 画面右上隅の  【お気に入りの編集】 または  【ショートカットの編集】 アイコンをクリックして、【削除】 をクリックします。

または


- 1 デスクトップ上で削除したいショートカットをに対応する  アイコンをクリックして、【削除】 をクリックします。

デスクトップ事前設定の使用



デスクトップ事前設定を変更し適用することによって、デスクトップに表示する項目を変更することができます。事前設定とはインターフェース要素の設定などです。インターフェースの事前設定を複数作成して必要なときに切り替えることができます。顧客やリセラーの顧客向けにインターフェースの外観を事前に定義できます。


➤ **テンプレートを使用してデスクトップをカスタマイズするには以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [デスクトッププリセット] タブに進み、デスクトッププリセット一覧から [デフォルト管理者デスクトップ] ショートカットをクリックします。

既存のものをベースに新規の事前設定を作成したい場合は、該当する  アイコンをクリックします。

- 2 設定の事前設定名を指定します。
- 3 この事前設定をインターフェースに適用するには、[デフォルト] チェックボックスを選択します。
- 4 [サーバ情報] グループを表示するかどうかと、表示する項目を指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。
- 5 コントロールパネル経由で実行したいタスクを指定します。デスクトップに適切なショートカットが配置されます。[選択したタスク] リストはどのショートカットが既にデスクトップに配置されているを示します。[使用可能なタスク] リストはデスクトップにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - デスクトップにショートカットを追加するには、[使用可能なタスク] リストで必要なタスクを選択し [追加 >>] をクリックします。
 - デスクトップからショートカットを削除するには、[選択したタスク] リストから必要のないタスクを選択し [<< 除] をクリックします。
- 6 デスクトップにカスタムボタンを表示するには、[使用可能なタスク] リストの上の [カスタムボタン] チェックボックスを選択します。
- 7 デスクトップに新規のカスタムハイパーリンクボタン作成の機能を持つショートカットを表示するには、[使用可能なタスク] リストの下の [以下のボタンをフッターに表示、新規カスタムボタンの作成] チェックボックスを選択します。

- 8 **【統計】** および **【お気に入り】** グループを表示するかどうかと、そこに何の項目を表示するかを指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。 **【お気に入り】** グループは項目へのリンクやデスクトップに追加されたコントロールパネル画面を示します。それぞれのコントロールパネル画面で  **【お気に入りに追加】** または  **【ショートカットの作成】** をクリックして選択した項目が、このグループに含まれます。
 - 9 **【OK】** をクリックします。
- **リセラーや複数のドメイン（クライアントアカウント）を持つ顧客向けにデスクトップをカスタマイズするには、以下を実行してください。**
- 1 **【サーバ】 > 【インターフェース管理】 > 【デスクトッププリセット】** タブに進み、デスクトッププリセット一覧から **【デフォルトクライアントデスクトップ】** ショートカットをクリックします。

既存のものをベースに新規の事前設定を作成したい場合は、該当する  アイコンをクリックします。
 - 2 設定の事前設定名を指定します。
 - 3 この事前設定をインターフェースに適用するには、**【デフォルト】** チェックボックスを選択します。
 - 4 コントロールパネル経由でユーザが実行するタスクを指定します。デスクトップに適切なショートカットが配置されます。**【選択したタスク】** リストはどのショートカットが既にデスクトップに配置されているを示します。**【使用可能なタスク】** リストはデスクトップ上に配置されていないタスクのショートカットを示します。
 - デスクトップにショートカットを追加するには、**【使用可能なタスク】** リストで必要なタスクを選択し **【追加 >>】** をクリックします。
 - デスクトップからショートカットを削除するには、**【選択したタスク】** リストから必要のないタスクを選択し **【<< 除】** をクリックします。
 - 5 デスクトップにカスタムボタンを表示するには、**【使用可能なタスク】** リストの上の **【カスタムボタン】** チェックボックスを選択します。
 - 6 デスクトップに新規のカスタムハイパーリンクボタン作成の機能を持つショートカットを表示するには、**【使用可能なタスク】** リストの下の **【以下のボタンをフッターに表示、新規カスタムボタンの作成】** チェックボックスを選択します。
 - 7 **【統計、お気に入り】** グループの表示や、そこに何の項目を表示するかを指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。

【お気に入り】グループは項目へのリンクやユーザがデスクトップに追加したコントロールパネル画面を示します。それぞれのコントロールパネル画面で★【お気に入りに追加】または📌【ショートカットの作成】をクリックして選択した項目が、このグループに含まれます。

8 【OK】をクリックします。

➤ **複数のドメイン（ドメインオーナーアカウント）を持つリセラーの顧客向けにデスクトップをカスタマイズするには、以下を実行してください。**

1 【サーバ】 > 【インターフェース管理】 > 【デスクトッププリセット】 タブに進み、デスクトッププリセット一覧から【デフォルトドメインオーナーデスクトップ】ショートカットをクリックします。

既存のものをベースに新規の事前設定を作成したい場合は、該当する📌アイコンをクリックします。

2 設定の事前設定名を指定します。

3 この事前設定をインターフェースに適用するには、【デフォルト】チェックボックスを選択します。

4 コントロールパネル経由でユーザが実行するタスクを指定します。デスクトップに適切なショートカットが配置されます。【選択したタスク】リストはどのショートカットが既にデスクトップに配置されているを示します。【使用可能なタスク】リストはデスクトップ上に配置されていないタスクのショートカットを示します。

- デスクトップにショートカットを追加するには、【使用可能なタスク】リストで必要なタスクを選択し【追加 >>】をクリックします。
- デスクトップからショートカットを削除するには、【選択したタスク】リストから必要のないタスクを選択し【<< 除】をクリックします。



5 デスクトップにカスタムボタンを表示するには、【使用可能なタスク】リストの上の【カスタムボタン】チェックボックスを選択します。

6 デスクトップに新規のカスタムハイパーリンクボタン作成の機能を持つショートカットを表示するには、【使用可能なタスク】リストの下の【以下のボタンをフッターに表示、新規カスタムボタンの作成】チェックボックスを選択します。

7 【統計、お気に入り】グループの表示や、そこに何の項目を表示するかを指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。

【お気に入り】グループは項目へのリンクやユーザがデスクトップに追加したコントロールパネル画面を示します。それぞれのコントロールパネル画面で★【お気に入りに追加】または📌【ショートカットの作成】をクリックして選択した項目が、このグループに含まれます。

8 【OK】をクリックします。

- **コンフィグレーション事前設定をXML形式でダウンロードするには、以下を実行してください。**
- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [デスクトッププリセット] タブに進みます。
 - 2 ダウンロードしたい事前設定に該当するチェックボックスを選択し  [ファイルにエクスポート] をクリックします。
 - 3 ファイル名と保存先の場所を指定し [OK] をクリックします。
- **コンフィグレーション事前設定をXML形式でアップロードするには、以下を実行してください。**
- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [デスクトッププリセット] タブに進み、[アップロード] をクリックします。
 - 2 事前設定ファイルへのパスを指定するか、[参照] をクリックしてファイルを検索します。
 - 3 コントロールパネルに既に登録されている事前設定を間違えて上書きしてしまうことを避けるには、[同じ名前と種類の事前設定を上書きする] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。
 - 4 事前設定を適用するにはその名前をクリックし、[デフォルト] チェックボックスを選択し [OK] をクリックします。
- **事前設定を削除するには、以下を実行してください。**
- 1 [サーバ] > [インターフェース管理] > [デスクトッププリセット] タブに進みます。
 - 2 削除する事前設定に該当するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

セッションアイドル時間の変更

Plesk ではどのセッションでもアイドル時間を変更することができます。

- **セッションのセキュリティパラメータを変更するには以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [コントロールパネル]グループの [セッション設定] をクリックします。
 - 3 適切なフィールドに**セッションアイドル時間**を分で入力します。セッションアイドル時間の指定よりも長くセッションがアイドル状態にあった場合、コントロールパネルはセッションを終了します。
 - 4 [OK] をクリックします。

- **すべてのパラメータをデフォルト値に戻すには以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [コントロールパネル]グループの [セッション設定] をクリックします。
 - 3 [デフォルト] をクリックします。セッションアイドル時間がデフォルト値の30分 に設定されます。
 - 4 [OK] をクリックします。

章 5

サーバの設定とメンテナンス

Plesk ソフトウェアをサーバにインストールしコントロールパネルを設定した後、システムおよびすべてのサービスを設定する必要があります。この章の各セクションでは、コントロールパネル経由で Plesk 管理のサーバを設定する方法について説明致します。

IP アドレスの追加と削除

インストール後、Plesk はネットワーク設定ファイルからすべての IP アドレスを読み出します。これらの IP アドレスは、DNS ドメインおよび Web サイトのホスティングに使用できます。

手動で行ったネットワーク設定ファイルへの変更は Plesk で認識されない場合があるため、サーバで使用する新規の IP アドレスを取得した場合は、コントロールパネルを使用してアドレスを追加する必要があります。

Plesk では、すべての IP アドレスを顧客に割り当てる前に共用にするか専用にするかを決めることができます。これにより、コントロールパネルでその区別ができ、専用 IP アドレスを一度に複数の顧客に割り当てないようにします。専用 IP アドレスは 1 人の顧客に割り当てられ、共用 IP アドレスは複数のユーザアカウント間で共有されます。

認証デジタル証明書による SSL 保護および匿名 FTP サービスでは、専用 IP アドレスに基づく専用ホスティングアカウントのみ使用できます。共有ホスティングアカウントも SSL 保護を利用できますが、このような保護付きのサイトを閲覧した場合、ブラウザにエラーメッセージが表示されます。

注： 今回のバージョンの Plesk コントロールパネルでは、専用の IP アドレスは Exclusive IP アドレスと呼ばれます。

➤ **現在の IP アドレスを自分で確認するには、以下を実行してください。**

1 [サーバ] > [IPアドレス] に進みます。

IP アドレスがリストと以下の補足情報が表示されます。

- IP アドレスがネットワークインターフェースで正しく設定されている場合、[S] (ステータス) 列のアイコンに🟢が表示されます。IP アドレスがネットワークインターフェースから削除されていると、アイコンに🔴が表示されます。
- [T] (タイプ) には、アドレスが専用 IP アドレスとして単一の顧客に割り当てられている場合は👑が、アドレスが複数の顧客間で共有されている場合は👥が表示されます。

- [IPアドレス]、[サブネットマスク]、[インターフェース]の各列は、どのIPアドレスがどのネットワークインターフェース上にあるかを示します。
 - [クライアント]列は、特定のIPアドレスを割り当てたユーザアカウントの番号を示します。ユーザを名前で表示するには、[クライアント]列で各番号をクリックします。
 - [ホスティング]カラムはIPアドレスがホストするWebサイトの数を表示します。そのWebサイトのドメイン名を表示するには[ホスティング]列で各番号をクリックします。
- 2 IPアドレスのリストとそのステータスを更新するには、[IP再読み込み]をクリックします。


➤ **サーバに新規のIPアドレスを追加するには、以下を実行してください。**


- 1 [サーバ] > [IPアドレス]に進んで[新しいIPアドレスを追加]をクリックします。
- 2 [インターフェース]ドロップダウンボックスから、新規のIPのネットワークインターフェースを選択します。サーバにインストールされたすべてのネットワークカードが、このドロップダウンボックスに表示されます。
- 3 該当するボックスに、IPアドレスとサブネットマスクを入力します（例：123.123.123.123/16）。
- 4 新規IPアドレスのタイプ（共有または専用）を[IPのタイプ]ラジオアイコンを使用して選択します。
- 5 ドロップダウンボックスから、新規IPアドレスのSSL証明書を選択します。以下の証明書を選択することができます。
 - **デフォルト証明書** - Plesk ディストリビューションパッケージに添付する証明書。ただし、この証明書は認証局により署名されていないため、Webブラウザに認識されません（警告メッセージが表示されます）。デフォルト証明書は、https プロトコルを使用してコントロールパネル (<https://<Plesk>サーバ名またはIP>:8443/>) にアクセスする場合に使用します。
 - **その他の証明書** - SSL 証明書のリポジトリに追加した（自己署名または認証局による署名済み）証明書（証明書の追加については、「SSL 暗号化によるサイト保護」のセクションを参照してください）。
- 6 [OK] をクリックします。

➤ **IPアドレスをサーバから削除するには、以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [IPアドレス]に進みます。
- 2 それぞれのチェックボックスを選択し、**✗** [選択対象の削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

- ユーザにIPアドレスを割り当てるには、以下を実行してください。
 - 1 [サーバ] > [IPアドレス] に進んで [クライアント] カラムでそれぞれの番号をクリックし、[新規クライアントの追加] をクリックします。
 - 2 必要なユーザアカウントを選択し [OK] をクリックします。

- ユーザのIPアドレスを取り消すには、以下を実行してください。
 - 1 [サーバ] > [IPアドレス] に進んで [クライアント] カラムでそれぞれの番号をクリックします。
 - 2 それぞれのチェックボックスを選択し、 [選択対象の削除] をクリックします。
 - 3 削除を確認して [OK] をクリックします。

- ユーザがIPアドレスでサーバ上のWebリソースを参照したときに、どのWebサイトを表示するかを指定するには、以下を実行してください。
 - 1 [サーバ] > [IPアドレス] に進んで [ホスティング] カラムでそれぞれの番号をクリックします。このIPでホスティングされるすべてのサイトが一覧表示されます。
 - 2 必要なサイトを選択し  [デフォルトとして設定] をクリックします。

- IPアドレスの割り当てタイプ(共有、専用)を変更する、またはIPアドレスに別のSSL証明書を割り当てるには、以下を実行してください。
 - 1 [サーバ]>[IPアドレス]に進んで必要なIPアドレスをクリックします。
 - 2 必要なIPアドレス割り当てタイプとSSL証明書を選択し、[OK] をクリックします。

DNS サービスの設定

コントロールパネルは BIND DNS サーバと共に動作し、Web サイトをホストしているのと同じマシン上で DNS サービスを実行できます。

新しく追加されたドメインの DNS ゾーン設定は自動で行われます。コントロールパネルに新規のドメイン名を追加すると、ゾーンファイルはサーバ全体の DNS ゾーンテンプレートに従って生成され、ネームサーバデータベースに登録されます。ネームサーバはゾーンのプライマリ（マスター）DNS サーバとして働くように指示されます。

以下が可能となります。

- テンプレートからのリソースレコードの追加および削除
- 自動ゾーン設定とカスタム設定を以前のドメインベースのものに置換
- プロバイダや他の組織が貴方のサイトに DNS サービスを実行しているときはこのマシンのドメインネームサービスをオフに切り替えてください。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートのデフォルトレコードを表示するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。リソースレコードテンプレートがすべて表示されます。

<ip> と <domain> テンプレートは生成されたゾーンで本当の IP アドレスとドメイン名に自動的に置き換えられます。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートに新規のリソースレコードを追加するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [新しいレコードを追加] アイコンをクリックします。

- 4 リソースの種類を選択し、希望のレコードプロパティを指定します
生成されたゾーンで本当の IP アドレスとドメイン名に自動的に置き換えられる <ip> と <domain> を使用することができます。また、ドメイン名を指定する場合にワイルドカード記号(*)を使用でき、必要な値を正確に指定できます。

- 5 [OK] をクリックします。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートから新規のリソースレコードを削除するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。

- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 削除するレコードテンプレートに該当するチェックボックスを選択し、
✕ [選択対象を削除] をクリックします。
- 4 削除を確認して [OK] をクリックします。

Plesk はゾーン名、ホスト名、管理者のメールアドレス、シリアル番号を自動的に更新し、Start of Authority (SOA) レコードパラメータのデフォルト値をゾーンファイルに書き込みます。デフォルト値はコントロールパネル経由で変更することができます。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートの Start of Authority (SOA) レコード設定を変更するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 [SOA選択設定] をクリックします。
- 4 希望する値を指定します。
 - [TTL] 他の DNS サーバがそのレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 日です。
 - [更新] セカンダリネームサーバがプライマリネームサーバに対して、ドメインゾーンのファイルへ何か変更が加えられたかどうかを確認する頻度です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
 - [再試行] セカンダリサーバが失敗したゾーン転送を再試行するまで待つ時間です。この時間は更新インターバルよりは短いのが普通です。Plesk のデフォルト値は 1 時間です。
 - [期限切れ] そのゾーンが変更または更新されなかった場合、更新インターバルが経過した後、セカンダリサーバが問い合わせに回答するのを止めるまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 週間です。
 - [最小値] セカンダリサーバが負の応答をキャッシュするまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
- 5 [OK] をクリックします。新規の SOA レコードのパラメータが新規に作成されたドメイン向けに設定されます。

デフォルトでは、DNS ゾーン転送は各ゾーンに含まれる NS レコードが指定するネームサーバにしか許可されません。ドメイン名レジストラがすべてのゾーンへの転送許可を必要とする場合は、以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。

- 3 [ツール] グループの [共通ACL] アイコンをクリックします。すべてのゾーンへのDNSゾーン転送を許可されているすべてのホストが表示されます。
 - 4 [新しいアドレスの追加] アイコンをクリックします。
 - 5 レジストラのIPまたはネットワークアドレスを指定して [OK] をクリックします。
- サードパーティDNSサーバを使用しており自分のDNSサーバを稼働させていない場合は、コントロールパネルのDNSサーバをオフに切り替えてください。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
 - 3 [ツール] グループの [無効化] アイコンをクリックします。
- サーバ全体のDNSテンプレートの最初の設定を復元するには、以下を実行してください。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
 - 3 [ツール] グループの [デフォルト] アイコンをクリックします。

DNSサーバがクエリに対して再帰的なサービスを提供するべきかどうかを指定することができます。

再帰的なサービスが許可されている場合、DNSサーバはクエリを受けると、要求元の宛先IPアドレスを見つけるのに必要な検索手順をすべて実行します。再帰的なサービスが許可されていない場合、DNSサーバは要求されたりソースがどこにあるかが分かっているサーバを見つけて要求元をそのサーバにリダイレクトするためだけの最低限の数のクエリしか実行しません。そのため、再帰的なサービスはより多くのサーバリソースを消費し、特にサーバがネットワーク外のクライアントからの再帰的なクエリを受けると設定されている場合はサービス拒絶攻撃を受けやすくなります。

Pleskをインストールした後で、内蔵のDNSサーバはデフォルトでは貴方のサーバおよび貴方のネットワーク内に置かれているサーバからの再帰的なクエリだけを受けようになっています。これが最適な設定です。Pleskの前のバージョンからアップグレードした場合は、DNSサーバのデフォルトではすべてのホストからの再帰的なクエリを受けようになっています。

- 再帰的なドメインネームサービスについてこの設定を変更するには以下を実行してください。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。

- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 [ツール]グループの [DNSプリファレンス]アイコンをクリックします。
- 4 必要なオプションを選択します。
 - すべてのホストからの再帰的クエリを許可するには [すべてのホスト] を選択します。
 - 自分のサーバや自分のネットワーク上のホストからの再帰的クエリだけを許可するには [ローカルネット] を選択します。
 - 自分のサーバからの再帰的クエリだけを許可するには [ローカルホスト] を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

Plesk をファイアウォールの背後で実行するための設定

Plesk をファイアウォールの背後で実行すると、Plesk が提供するドメインホスト名の分解能について特定の問題に直面するかもしれません。Plesk で新規の DNS ドメインを設定すると、そのゾーンファイルはドメイン名と貴方の Plesk サーバのある IP アドレスと関連のあるリソースを含みません（例：192.168.1.1 のようなインターネットネットワークアドレス）。192.168.x.x という IP アドレスはプライベートサーバでの使用のため Internet Assigned Numbers Authority (IANA) により予約されているので、インターネットユーザはこのドメイン名にアクセスできません。この問題の対策として、ドメイン名とドメインのゾーンファイル内のファイアウォールマシンの IP アドレスを関連付ける必要があります（ [ドメイン] > [ドメイン名] > [DNS] ）。

新しく追加されたドメイン名と IP アドレスを自動的に関連付ける方法として、DNS ゾーンテンプレート（ [サーバ] > [DNS] ）の使用をお勧め致します。

11.22.33.44 上で動作するファイアウォールにより保護されたプライベートネットワーク内の 192.168.1.1 上で動作する Plesk サーバの設定方法は以下の通りです。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 Aタイプのリソースレコードをすべて探し出します。どれも編集できないので、削除して新規のレコードを作成します。それぞれのAレコードの [名前] 列の値をそのままにしておき、 [値] 列の <ip> テンプレートはファイアウォールホストのIPアドレスである11.22.33.44に置き換えます。
- 4 ファイアウォールを設定して適切なアドレス変換ができるようにします。

メールサービスの設定

コントロールパネルはドメインにメールサービスを提供する Qmail メールサーバとともに動作します。インストール後、メールサーバは自動的に設定され使用できますが、デフォルト設定が希望に合うかどうか確認するようお勧め致します。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。サーバ全体のメール選択設定の画面が [選択設定] タブで開きます。
- 3 サーバを通して送信されるメールメッセージのサイズを制限したい場合は、[最大メールサイズ] ボックスに希望の値をキロバイト単位で入力します。特に制限しない場合は、空欄にします。
- 4 メールリレーモードを選択します。

クローズドリレーでは、メールサーバはこのサーバ上にメールボックスを持っているユーザへのメールしか受け付けません。顧客は貴方の出力 SMTP サーバを通して一切メールを送信できません。従って、メールリレーをクローズにすることはお勧めしません。

リレー認証後、顧客だけが貴方のメールサーバを通してメールの送受信ができます。[要認証] オプションを選択したままにしておき、許可方法を指定することをお勧め致します。

- **POP3 認証。** POP3 認証では、ユーザが POP サーバの認証に成功すると、20 分間（デフォルト値）メールサーバを通してメールの送受信が可能となります。この間隔を変更するには [ロック時間] ボックスで他の値を指定してください。
 - **SMTP 認証。** SMTP 認証では、外部のアドレスにメールメッセージを送る場合、メールサーバの認証が必要になります。メールサーバは SMTP 認証の LOGIN、CRAM-MD5、PLAIN メソッドをサポートします。
- 5 簡単なパスワードを許可しないことで辞書攻撃からユーザを保護する場合は、[辞書内のメールボックスパスワードの確認] オプションを選択します。

辞書攻撃とは、誰かが様々な言語の組み合わせを試すプログラムを実行して有効なユーザ名およびパスワードを探し当てようとすることです。多くのユーザは不用意にパスワードを選択するので辞書攻撃は成功しやすいと言えます。

- 6 メールアカウント名の形式を選択します。

[短縮形も完全形も使用を許可] オプションを選択すると、ユーザはメールアドレスの @ 記号の左側部分（例：username）だけを指定しても、またはメールアドレスをすべて（例：username@your-domain.com）指定しても、メールアカウントにログインすることができます。

メールユーザが異なるドメインに居て同一のユーザ名およびパスワードを使用していると認証問題が起こることがあるため、それを避けるために [完全なメールアカウント名の使用のみ許可] オプションの選択をお勧め致します。

メールサーバが完全なメールアドレス名だけをサポートするように設定すると、メールボックスに暗号化されたパスワードはなく異なるドメインに同じユーザ名およびパスワードがないことを確認するまでは、短縮形のアカウント名をサポートするように戻すことはできません。

7 [OK] をクリックして変更を送信します。

注: SpamAssassin スпамフィルタや、DNS ブラックホールリストまたは SPF (送信側ポリシーフレームワーク) ベースの保護システムなどのアンチスパムシステムを設定するには、「アンチスパム保護のセットアップ」『ページ数61』のセクションに進んでください。

アンチスパム保護のセットアップ

ユーザをスパムから保護するには、コントロールパネルの以下のツールを使用できます。

- **SpamAssassin スпамフィルタ**。スパムを識別する為のローカルまたはネットワークテストを広範囲で行う強力なスパムフィルタです。

スパムフィルタを設定することで、メールサーバに届いた疑わしいメッセージを削除したり、そのようなメッセージの件名を変更し「X-Spam-Flag: YES」や「X-Spam-Status: Yes」ヘッダを追加することができます。件名の変更は自分のコンピュータにインストールされているフィルタプログラムでメールフィルタを行いたいユーザに便利です。

SpamAssassin についての詳細は、<http://spamassassin.apache.org> をご参照ください。

SpamAssassin フィルタを設定してオンにするには、「SpamAssassin スпамフィルタのセットアップ」『ページ数62』のセクションに進んでください。

- **DNS ブラックホールリスト**。このスパム防止システムは動的な IP アドレスの広範囲なリストと同様にスパムの既知の、または文書化されたソースを含むデータベースへのメールサーバにより作成された DNS 照会プログラムをベースにしています。データベースからの応答としては、メールサーバに「550」エラーが返されるか、要求された接続が拒否されます。

DNSBL データベースで作業できるようにメールサーバを設定するには、「DNS ブラックホールリストに基づいたスパム防止の有効化」『ページ数64』セクションに進んでください。

- **SPF (送信側ポリシーフレームワーク)**。このスパム防止システムは DNS クエリベースでもあります。偽造のメールアドレスから送信されたスパムの量を減らすようにデザインされています。SPF により、インターネットドメインオーナーはドメインのユーザにメールを送信することを認証されているマシンのアドレスを指定することができます。すると、SPF を実装している受信側は、そのドメインから送信されているとしながらドメインが認証するロケーションからの送信に失敗しているメールを疑わしいものとして処理することができます。

SPF について詳細は<http://www.openspf.org/howworks.html> をご参照ください。

SPFに基づいたフィルタリングを有効化するには、「送信側ポリシーフレームワークシステムのサポートのセットアップ」『ページ数64』のセクションに進んでください。

- **サーバ全体のブラックリストとホワイトリスト。**ブラックリストとホワイトリストは標準のメールサーバ機能です。ブラックリストを使用して、メールが送られてきても受け入れないドメインを指定できます。ホワイトリストは、常にメールを受け入れるマシンのIPアドレスやネットワークを指定します。

サーバ全体のブラックリストとホワイトリストを設定するには、「サーバ全体のブラックリストとホワイトリストのセットアップ」『ページ数66』のセクションへ進んでください。

SpamAssassin スпамフィルタのセットアップ

➤ **SpamAssassin スпамフィルタを有効にするには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 3 ユーザがそれぞれのメールボックスに対するスパムフィルタの優先度を自分で設定できるようにするには、[ユーザごとの選択設定を許可] チェックボックスを選択します。
- 4 スпамフィルタが使用するシステムリソースの量を調整するには、1から5までの値を [スパム作業プロセスの上限数 (1-5)] ボックスに入力します（1が最小の負荷で、5が最大になります）。デフォルト値の使用をお勧め致します。
- 5 スпамフィルタの検出感度を調整するには、[スパムとみなすのに必要なスコアの数] ボックスに希望の値を入力してください。

SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名行に対して複数の異なるテストを実行します。その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高くなるほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージの特定は 8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージが全てスパムと分類されるようにフィルタ感度が設定されます。

- ユーザが現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、[スパムとしてみなすのに必要なスコアの数] ボックスの値を 6 などに下げてください。
 - スпамフィルタでジャンクとみなされたためにユーザがメールを受信できない場合、[スパムとしてみなすのに必要なスコアの数] ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてください。
- 6 スпамとみなされたメッセージをマークする方法を指定します。

サーバレベルではサーバ全体のスパムフィルタでスパムを自動的に削除するようには設定できません。この設定は各メールボックスでのみ可能です。サーバ全体では、メッセージをスパムとしてマークするオプションのみ選択できます。

「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダがデフォルトではメッセージソースに付加され、またスパムフィルタにより件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、**[スパムと認識された各メッセージの件名の最初に以下のテキストを追加]** ボックスに入力してください。スパムフィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白のままにしてください。件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに `_SCORE_` と入力してください。

- 7 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、**[ブラックリスト]** タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。
 - ブラックリストに項目を追加するには、**[アドレスを追加]** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**[参照]** で指定し**[OK]** をクリックします。もしくは、**[リストから]** オプションを選択し**[メールアドレス]** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一字を意味します 例えば、以下ようになります。 [address@spammers.net](#), [user?@spammers.net](#), [*@spammers.net](#)] 。 [*@spammers.net](#) を指定すると [spammers.net](#) というドメインからの全てのメールをブロックします。追加したエントリを保存するには、**[OK]** をクリックして追加を確認して、もう一度**[OK]** をクリックしてください。
 - ブラックリストからエントリを削除するには、**[ブラックリスト]** タブからエントリを選択し**[選択対象を削除]** をクリックします。削除を確認して**[OK]** をクリックします。
- 8 特定の送信者からのメールを確実に受信するには、**[ホワイトリスト]** タブをクリックしてスパムフィルタのホワイトリストにそのE-mailアドレスまたは完全なドメイン名をを追加します。
 - ホワイトリストにエントリを追加するには、**[アドレスの追加]** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**[参照]** で指定し**[OK]** をクリックします。もしくは、**[リストから]** オプションを選択し**[メールアドレス]** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一字を意味します 例えば、以下ようになります。 [address@mycompany.net](#), [user?@mycompany.net](#), [*@mycompany.net](#)) 。 [*@mycompany.net](#) を指定すると [mycompany.net](#) というドメインのメールアドレスが全てホワイトリストに追加されます。追加したエントリを保存するには、**[OK]** をクリックして追加を確認して、もう一度**[OK]** をクリックします。
 - ホワイトリストからエントリを削除するには、**[ホワイトリスト]** タブからエントリを選択し**[選択対象を削除]** をクリックします。削除を確認して**[OK]** をクリックします。

- 9 スпамフィルタの設定が終了したら、[有効化] アイコンをクリックして [OK] をクリックします。

これで受信するメールはすべてサーバ側でフィルタリングされます。デフォルトではスパムフィルタはスパムメールを削除しません。「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダをメッセージに追加して、スパムとみなされた各メッセージの件名の最初に「*****SPAM*****」という文字列を追加するだけです。

[ユーザごとの選択設定の許可] オプションを有効にしている場合は、ユーザはスパムフィルタが自動的に迷惑メールを削除するように設定することができます。サーバ設定を上書きしてメールボックスごとのスパムフィルタに学習させるように自分のブラックリストとホワイトリストをセットアップすることもできます。

特定のメールボックス用にスパムフィルタを変更したい場合は「スパムからのメールボックスの保護」のセクションに進みます。

DNS ブラックホールリストに基づいたスパム防止の有効化

サーバで無料および支払い済みのサブスクリプション・ブラックホールリストをご利用いただけます。 <http://spamlinks.net/filter-dnsbl-lists.htm>
<http://spamlinks.net/filter-dnsbl-lists.htm> で使用したい DNSBL サーバを選択してください。

- **DNSBL ベースのスパム防止を有効にするには以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 [DNSブラックホールリストに基づいたスパム防止の有効化] チェックボックスを選択します。
 - 4 [DNSBLサービスのDNSゾーン] 入力ボックスにメールサーバが照会するホスト名を入力します（例：sbl.spamhaus.org）。
 - 5 [OK] をクリックします。

これで、既知のスパマーからのメールメッセージはエラーコード 550（接続拒否）表示とともに拒否されます。

送信側ポリシーフレームワークシステムのサポートのセットアップ

- **サーバに送信側ポリシーフレームワークをセットアップするには以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。サーバ全体のメール選択設定の画面が [選択設定] タブで開きます。
 - 3 [SPFスパム保護の有効化] チェックボックスを選択し、メールをどう扱うかを指定します。

- SPF チェックの結果に関係なくすべての着信メッセージを受け取るには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [受信 SPF ヘッダを作成するだけ、拒否はしない] オプションを選択します。このオプションをお勧め致します。
 - DNS 検索問題のため SPF チェックに失敗した場合も SPF チェックの結果に関係なくすべての着信メッセージを受け取るには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [DNS 検索問題の場合は一時的エラーを生成する] オプションを選択します。
 - 問題となっているドメインの使用を許可されていない送信元からのメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が fail と判断したらメールを拒否する] オプションを選択します。
 - 問題となっているドメインの使用を許可されていないと思われる送信元からのメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が softfail と判断したらメールを拒否する] オプションを選択します。
 - ドメインに SPF の記録がないため SPF が認証しているのかわからないのが不明な送信元からのメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が neutral と判断したらメールを拒否する] オプションを選択します。
 - 何らかの理由により SPF チェックを通過しなかった（例えば送信元のドメインが SPF を実装しておらず、SPF チェックが "unknown" ステータスを返した）場合にメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が 通過と判断しなかったメールを拒否する] オプションを選択します。
- 4 メールサーバによって SPF チェックが行われる前のスパムフィルタに適用される追加のルールを指定するには、そのルールを [SPF ローカルルール] ボックスに指定します。
- 信頼できるユーザのオープンデータベースからのメッセージのチェックにルールを追加することをお勧め致します（例えば「include:spf.trusted-forwarder.org」）。SPF ルールについて詳細は <http://www.ietf.org/internet-drafts/draft-schlitt-spf-classic-02.txt> をご参照ください。
- 5 SPF レコードを発行しないドメインに適用するルールを指定するには、[SPF 推測ルール] ボックスにルールを入力します。
- a/24 mx/24 ptr を指定すると、スパムフィルタの受信 SPF ラインの結果が良くなります。
- 6 メッセージが拒否された場合に SMTP 送信者に戻される任意のエラー通知を指定するには、それを [SPF 説明テキスト] ボックスに入力します。何も入力されなければ、デフォルトテキストが通知に使用されます。
- 7 [OK] をクリックして設定を完了します。

サーバ全体のブラックリストとホワイトリストのセットアップ

- **指定したドメインからのメールを拒否するには以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 [ブラックリスト] タブをクリックします。
 - 4 [ドメインの追加] アイコンをクリックします。
 - 5 メールを受け取りたくないドメインの名前を指定します。例えば、「evilspammers.net」となります。
 - 6 [OK] をクリックします。
 - 7 追加するドメインが複数ある場合は上記のステップ4から6を繰り返します。
- **特定のドメインまたはネットワークからのメール受信を許可するには以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 [ホワイトリスト] タブをクリックします。
 - 4 [ネットワークの追加] アイコンをクリックします。
 - 5 メールを受け取りたいIPアドレスまたはIPアドレスの範囲を指定します。
 - 6 [OK] をクリックします。
 - 7 追加するアドレスが複数ある場合は上記のステップ4から6を繰り返します。

アンチウイルスの設定


メールユーザにアンチウイルス保護を提供するに当たって、Dr. Web または Kaspersky アンチウイルスソリューションのどちらかをご利用いただけます。Dr. Web および Kaspersky アンチウイルスは両方ともサーバのメールトラフィックをリアルタイムでスキャンできますが、Kaspersky アンチウイルスだけが特定のファイルタイプの添付ファイルをチューニングおよびフィルタリングできます。

そのプログラムは両方とも年間更新の追加のライセンスキーが必要です。現在の価格についてはプロバイダにご確認いただくか、SWsoft のサイト <https://jpy.swsoft.com/http://www.swsoft.com/en/buyonline/plesk8/> をご覧ください。

➤ **Dr. Web または Kaspersky アンチウイルスをインストールするには以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [アップデーター] に進みます。
- 2 ご使用のPleskのバージョンをクリックします。
- 3 コンポーネント一覧から、[Dr.Webアンチウイルス] または [Kaspersky アンチウイルス] のどちらかを選択します。
- 4 [インストール] をクリックします。

インストール完了後に、以下の手順で選択したアンチウイルスプログラムのライセンスキーを取得してインストールします。

- 5 [サーバ] > [ライセンス管理] に進みます。
- 6 [新しいキーの注文] をクリックします。使用可能なアドオンが一覧表示されたSWsoftオンラインストアが別のウィンドウで開きます。
- 7 このページで、[Dr.Webアンチウイルス] または [Kasperskyアンチウイルス] の隣のチェックボックスを選択して [カートに追加] をクリックします。
- 8 Pleskアドオンが既存のライセンスキーに追加されるため、Plesk番号確認システム画面が開きます。この機能を追加するライセンスキーの番号を入力して [送信] をクリックします。
- 9 次に、通貨、キーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとメールで通知が来ます。
- 10 メールで通知を受信したら、[ライセンス管理] 画面に戻り（ [サーバ] > [ライセンス管理] ）  [キーの取得] をクリックして注文したライセンスキーを取得します。PleskライセンスマネージャはSWsoftライセンスサーバからアップグレードされたライセンスキーを取得し、コントロールパネルにインストールします。
- 11 [サーバ] > [メール] に進みます。

12 [アンチウイルスプリファレンス] でアンチウイルスを選択して [OK] をクリックします。

Dr.Web をインストールした場合は、メールボックスごとにしか、しかもメールボックスを設定した後にして、アンチウイルス保護を有効にできません。 デフォルトでは、ウイルス定義は Dr.Web のサイトから 5 時間ごとに取得されます。この設定はコントロールパネル経由で変更することはできません。

メールボックスのアンチウイルス保護を設定するには「ウイルスからのメールボックスの保護」のセクションに進んでください。

Kaspersky アンチウイルスをインストールした場合は、

<http://www.swsoft.com/jp/products/plesk/docs/>

<http://www.swsoft.com/en/products/plesk/docs/> から「Kaspersky Antivirus Module Administrator's Guide」をご参照ください。

Mailman メーリングリストソフトウェアの設定

顧客が自分のメーリングリストやニュースレターを実行できるようにするには、貴方のサーバに GNU Mailman パッケージをインストールして（Plesk インストールの際にもできます）、メーリングリスト管理者アカウントを設定する必要があります（そうしないと稼働しません）。

➤ **コントロールパネルからメーリングリスト管理者アカウントを設定するには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [Mailmanの設定] アイコンをクリックします。
- 3 メーリングリストおよびその設定の管理に使用するユーザ名およびパスワードを指定します。
- 4 [OK] をクリックします。

一度 Mailman 管理者アカウントを設定すれば、以下の URL からメーリングリストソフトウェアを設定したり管理者ログイン名およびパスワードを変更したりできます。

<http://lists.yourservername.tld/mailman/admin/mailman>

注：Mailman 管理者アカウントを設定すると、コントロールパネルから [Mailman の設定] アイコンにアクセスすることはできません。

Plesk のデータベースホスティング設定

ホストユーザのデータベースを 1 台のサーバにも、あるいは多数の異なるサーバにもホスティングすることができます。リモートサーバにユーザデータベースがあるとマルチサーバのインストールに便利です。管理、バックアップ、リソース利用には集中型データベースホスティングが適しているためです。しかし、単一 Plesk サーバをご使用の場合は、すべてのデータベースをそこに保存しておくことをお勧め致します。

➤ **ホスティングマシンでリモートデータベースサーバを使用するには以下が必要です。**

- 1 リモートデータベースサーバのセットアップ。
 1. MySQL または PostgreSQL ソフトウェアのインストール。
 2. データベース管理者アカウントのセットアップ。
 3. データベースサーバへのネットワークアクセスの有効化。
- 2 リモートデータベースで作業するよう Plesk の設定。

リモートデータベースホスティングの設定

Plesk 管理のサーバをリモートデータベースサーバとして使用する場合は MySQL ソフトウェアをインストールする必要はありません。Plesk には MySQL ソフトウェアが内蔵されており、Plesk のインストール時に自動的にインストールされます。その場合、このデータベースへのネットワークアクセスを有効化して Plesk と登録するだけで済みます。

➤ **MySQL データベースサーバをセットアップするには以下を実行してください。**

- 1 オペレーティングシステムディストリビューションディスクから MySQL ディストリビューションパッケージをコピーするか、www.mysql.com サイトからダウンロードしてサーバに保存してください。
- 2 サーバに root でログインして RPM ディストリビューションを保存したディレクトリに変更します。プロンプトで以下のコマンドを入力します。

```
rpm -ivh mysql_file_name.rpm
```

- 3 データベース管理者パスワードを設定します。プロンプトで以下のコマンドを入力します。

```
mysqladmin -u root password your_desired_password  
your_desired_password を好きなように変更します。
```

- 4 データベースサーバの登録に進みます。

➤ **PostgreSQL データベースサーバをセットアップするには以下を実行してください。**

- 1 オペレーティングシステムディストリビューションディスクから PostgreSQL ディストリビューションパッケージをコピーするか、www.postgresql.org サイトからダウンロードしてサーバに保存してください。
- 2 データベースをホスティングしたいサーバに root でログインして、ディストリビューションパッケージを保存したディレクトリに変更します。
- 3 オペレーティングシステムに合ったパッケージをインストールします。
 - RPM ベースの Linux システムについては、以下のコマンドをプロンプトで入力してください。

```
rpm -ivh postgresql_file_name.rpm
```

- deb パッケージベースの Linux システムについては、以下のコマンドを発行してください。

```
apt-get install package_name
```

- FreeBSD システムについては、パッケージからインストールするには以下のコマンドを発行してください。

```
pkg_add postgresql-<version>.tgz
```

- ポートからインストールするには以下のコマンドを発行してください。

```
cd /usr/ports/databases/postgresql<version>-server
```

インストールパッケージをきれいにします。

- 4 ファイル `/var/lib/pgsql/data/postgresql.conf` をテキストエディタで開きます。 PostgreSQLバージョン8未満をインストールしている場合は `tcpip_socket = true` という行をこのファイルに追加します。 PostgreSQLバージョン8以上をインストールしている場合は `listen_addresses = '*'` という行をこのファイルに追加します。

```
# local DATABASE USER METHOD [OPTION]
local samegroup all password
# host DATABASE USER IP-ADDRESS IP-MASK METHOD [OPTION]
host samegroup all 0.0.0.0 0.0.0.0 md5
```

- 5 ファイル `/var/lib/pgsql/data/pg_hba.conf` をテキストエディタで開いて以下の行があることを確認します。

- 6 PostgreSQLを再起動させるには以下のコマンドをプロンプトで発行します。

```
service postgresql restart
```

- 7 データベースサーバ管理者パスワードを設定するには以下のコマンドをプロンプトで発行します（「your_desired_password」はお好きなものに変更してください）。

```
psql -d template1 -U postgres  
alter user postgres with password 'your_desired_password';
```

- 8 データベースサーバの登録に進みます。

➤ **データベースの登録には以下を実行してください**


- 1 Pleskにログインします。
- 2 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 3 [サービス] グループの [データベースサーバ] アイコンをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [データベースサーバの追加] アイコンをクリックします。
- 5 データベースサーバの選択設定を指定します。
 - データベースサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
 - データベースサーバが使用しているポート番号を指定します。 デフォルトでは MySQL サーバはポート 3306 で PostgreSQL はポート 5342 です。デフォルトポートをご使用の場合は [ポート番号] は空白のままでも構いません。
 - データベースサーバで動作しているデータベースタイプを指定します。
 - このデータベースサーバを顧客データベースのホスティングのデフォルトにするには [このデータベースを MySQL のデフォルトにする] チェックボックスを選択します。 PostgreSQL データベースサーバをご使用の場合は [このサーバを PostgreSQL のデフォルトとして使用] チェックボックスを選択します。
 - データベースサーバ管理者のログイン名およびパスワードを指定します。
- 6 [OK] をクリックします。

➤ **Plesk で作成したすべてのデータベースに影響を与えるデータベースホスティング選択設定をセットアップするには以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [データベースサーバ] > [選択設定] に進みます。

- 2 顧客のデータベースのメンテナンスを簡単にするには、**[データベースプレフィックスの強制]** チェックボックスを選択します。新規に作成されたデータベースの名前はすべて、クライアントの ログイン名_データベース名 のようになります。それによって特定のPleskユーザ関連のデータベースを置くことができます。このチェックボックスを選択しなくても、新規データベースの作成の際にPleskはクライアントのログイン名をデータベース名入力ボックスに入れることをご留意ください。それを編集したり削除したりすることは可能です。
- 3 Pleskサーバでデータベースの作成が許可されているかどうかを指定してください。一部のアプリケーションはリモートデータベースをサポートしておらず、同じサーバでホスティングされているデータベースに限り処理できます。デフォルトオプション **[これらのサイトアプリケーション用にデータベースのローカルホスティングを許可]** を選択することをお勧め致します。そうしないと、そのアプリケーションを使用することができません。
- 4 **[OK]** をクリックします。

データベースサーバの管理

- データベースサーバを管理するには以下を実行してください。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [データベースサーバ] アイコンをクリックします。
- 3 必要なデータベースサーバに対応するアイコン  をクリックします。データベース管理ツールのWebインターフェースが別のブラウザウィンドウに開きます。

- MySQL データベースサーバ管理者パスワードを変更するには以下を実行してください。

- 1 MySQLデータベースサーバにrootでログインします。
- 2 MySQLにrootでログインします。
- 3 プロンプトで以下のコマンドを入力します。

```
mysql> SET PASSWORD for ROOT = PASSWORD('new_password');
```

「root」がユーザアカウントで、「new_password」が新規管理者のパスワードです。

- 4 Pleskコントロールパネルにログインするには、以下の操作を実行します。
- 5 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 6 [サービス] グループの [データベースサーバ] アイコンをクリックします。
- 7 データベースサーバ名をクリックします。
- 8 新規管理者パスワードを入力し [OK] をクリックします。

- PostgreSQL データベースサーバ管理者パスワードを変更するには以下を実行してください。

- 1 PostgreSQLデータベースサーバにrootでログインします。
- 2 PostgreSQLにrootでログインします。
- 3 プロンプトで以下のコマンドを入力します。

```
ALTER USER root WITH PASSWORD 'new_password';
```

- 4 Pleskコントロールパネルにログインするには、以下の操作を実行します。
- 5 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。

- 6 [サービス] グループの [データベースサーバ] アイコンをクリックします。
- 7 データベースサーバ名をクリックします。
- 8 新規管理者パスワードを入力し [OK] をクリックします。

➤ データベースの登録を解除するには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [データベースサーバ] アイコンをクリックします。
- 3 データベースサーバ名の右側のチェックボックスを選択します。
- 4 **×** [選択対象の削除] をクリックします。
- 5 操作を確認して [OK] をクリックします。

➤ データベースがあるか、または顧客のデータベースのホスティングにデフォルトとして割り当てられているデータベースサーバを Plesk から登録解除するには以下を実行してください。

- 1 データベースサーバからデータベースを削除します。
 1. ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 2. [サービス] グループの [データベースサーバ] アイコンをクリックします。
 3. Pleskから登録解除したいデータベースサーバのホスト名をクリックします。
 4. [データベース] タブをクリックします。
 5. リストの右上隅のチェックボックスを選択してすべてのデータベースを選択します。
 6. **×** [選択対象の削除] をクリックします。
 7. 削除を確認して [OK] をクリックします。
- 2 他のデータベースサーバデフォルトを作成します。
 1. 画面上部のパスバーで [データベースサーバ] ショートカットをクリックします。
 2. デフォルトを作成したいデータベースサーバのホスト名をクリックします。削除しようとしているデータベースサーバタイプ (MySQLまたはPostgreSQL) と同じになります。

3. [このサーバをMySQLのデフォルトとする]チェックボックスを選択します。 PostgreSQLデータベースサーバをご使用の場合は [このサーバをPostgreSQLのデフォルトとして使用] チェックボックスを選択します。
4. [OK] をクリックします。
- 3 データベースサーバのリストに戻ります（ [サーバ] > [データベースサーバ] ）。
- 4 必要なくなったデータベースサーバに対応するチェックボックスを選択します。
- 5 **×** [選択対象の削除] をクリックします。
- 6 操作を確認して [OK] をクリックします。

重要: この方法ではサイトアプリケーションのデータベースを削除することはできません。 それを削除するには、それをしようとしているドメインからそれぞれのサイトアプリケーションをアンインストールする必要があります。

データベース管理の詳細については「データベースの配置」 『ページ数150』のセクションを参照してください。

Adobe ColdFusion のサポートを有効化

- *Adobe ColdFusion* をインストールするには以下を実行してください。
- 1 ColdFusionディストリビューションを購入したらPleskサーバにコピーします。
 - 2 サーバに「root」でログインしてcoldfusion-70-lin.binインストールファイルを実行します。
 - 3 言語を選択してENTERを押します。
 - 4 説明を読んでENTERを押します。
 - 5 エンドユーザライセンス契約を熟読して同意します。 事前インストールチェックが実行されます。
 - 6 インストールタイプを選択します。 オプション [ColdFusion MXの新バージョンをシリアル番号でインストール] を選択してシリアル番号を入力します。 ENTERを押します。
 - 7 インストールのタイプを選択します。 [サーバ設定] オプションを選択したままにして1を押します。
 - 8 Adobe ColdFusionをまだインストールしていないので2またはENTERを押します。
 - 9 インストールオプションを選択して4を押しインストールを続けます。

- 10 インストールフォルダへの絶対パスを指定します。デフォルトインストールフォルダは `/opt/coldfusionmx7`です。ENTERを押します。
- 11 ColdFusionの前バージョンがインストールされていれば、設定を移行するよう選択できます。もしくはENTERを押して続けてください。
- 12 Webサーバの設定。2を押してインストールを続けます。
- 13 **[Runtimeユーザ名]** フィールドを空白のままにしておきます。ENTERを押します。
- 14 ColdFusion MXアドミニストレータへのアクセスをコントロールするのに使用するパスワードを指定します。
- 15 ColdFusion RDS（リモート開発サービス）を無効にします。「n」を入力します。
- 16 インストールを確認してENTERを押します。
- 17 インストールが完了したらENTERを押してインストーラから出ます。
- 18 サーバがLinux for 64-bitプラットフォームを実行している場合は `/etc/init.d/coldfusionmx7`および `[path_to_coldfusion_installation] /bin/coldfusion`で以下の行をコメントアウトしてください。

```
SUSEFLAG=`grep 'SuSE Linux 8.1\|UnitedLinux 1.0' /etc/SuSE-release  
/etc/UnitedLinux-release /etc/UnitedLinux-release 2> /dev/null`  
if [ ! "$SUSEFLAG" ]; then  
LD_ASSUME_KERNEL=2.2.9  
export LD_ASSUME_KERNEL  
fi
```

- 1 管理者としてPleskコントロールパネルにログインします。
- 2 左側のナビゲーションペインの **[サーバ]** ショートカットをクリックします。
- 3 右フレームの **[アップデーター]** アイコンをクリックします。
- 4 適切なリリースバージョンに対応するリンクをクリックします。
- 5 **[PleskへのColdFusionサポート]** の項目に対応するチェックボックスを選択して **[インストール]** をクリックします。実行されたらインストールを確認します。
- 6 選択したコンポーネントがインストールされたらサーバ管理者画面で **[ColdFusion設定]** アイコンをクリックします（Pleskコントロールパネル > **[サーバ]** ）。
- 7 ColdFusionインストールディレクトリへのパスを指定して **[OK]** をクリックします。

➤ **サーバから Adobe ColdFusion をアンインストールするには以下を実行してください。**

1 rootでログインします。

2 以下のコマンドを入力してcf_root/uninstallディレクトリに行きます。

```
cd cf_root/uninstall
```

3 以下のコマンドを実行します。

```
./uninstall.sh
```

4 プログラムが完了したらcf_rootディレクトリ下に残っているファイルをすべて削除します。

5 管理者としてPleskコントロールパネルにログインし、ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックしてから [コンポーネント] アイコンをクリックします。

6 [更新] アイコンをクリックします。

インストール済みコンポーネントのリストが更新されます。コントロールパネルはColdFusionがアンインストールされたのを認識してColdFusion関連のコントロールをコントロールパネル画面から削除するか、もしくは (component is not installed) というコメントを付けて選択できないようにします。

Miva e-コマースアプリケーションのサポートを有効化

顧客が Miva e-コマースソリューションを使えるようにするには、Miva Empresa パッケージを（Plesk インストール時にインストールしていなければ）Plesk ディストリビューションからサーバにインストールしてそれぞれのホスティングアカウントで Miva アプリケーションのサポートを有効にする必要があります。

Miva Fasttrack および Miva Merchant オンラインストアアプリケーションは Plesk と一緒に標準 Web アプリケーションとして出荷されており、コントロールパネルのアプリケーションヴォルトセクションからインストールすることができます（[ドメイン] > [ドメイン名] > [アプリケーションヴォルト] > [新規アプリケーションの追加]）。ただし顧客が Miva をインストールするには Miva または SWsoft からライセンスを取得してそのシリアル番号を指定する必要があります。

Miva ソリューションについて詳細は

http://docs.smallbusiness.miva.com/en-US/merchant/WebHost/webhelp/web_host_resources.htm をご参照ください。

- **Miva Empresa パッケージをインストールするには以下を実行してください。**
 - 1 [サーバ] > [アップデーター] に進みます。
 - 2 [Plesk 8.1.1] ショートカットをクリックします。
 - 3 [Miva Empresa サポート] の項目を検索しその左側のチェックボックスを選択します。
 - 4 [インストール] をクリックします。これで Miva Empresa サーバ環境がインストールされました。

- **新規に作成したすべてのホスティングアカウントについて Miva アプリケーションのサポートをドメインテンプレートを使用して有効にするには以下を実行してください。**
 - 1 [ドメイン] > [ドメインテンプレート] に進みます。
 - 2 必要なテンプレート名をクリックします。
 - 3 [Miva サポート] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

- **既存のホスティングアカウントについて Miva アプリケーションのサポートを有効にするには以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。

- 2 必要なドメイン名に対応するチェックボックスを選択して [一括操作] をクリックします。
- 3 [ホスティング] グループで [Mivaサポート] フィールドの左側の [オンに切り替え] オプションをクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。

➤ **個々のホスティングアカウントについてMivaアプリケーションのサポートを有効にするには以下を実行してください。**

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [設定] に進みます。
- 2 [Mivaサポート] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

サイトに Miva Fasttrack または Miva Merchant をインストールするには、「アプリケーションのインストール」 『ページ数153』 の指示に従ってください。

統計の設定

インストール後、以下についてコントロールパネルの統計ユーティリティを設定してください。

- 送受信のトラフィックのカウント
- Web コンテンツ、ログファイル、データベース、メールボックス、Web アプリケーション、メーリングリストアーカイブ、バックアップファイルに使用されるディスク容量のカウント
- 過去 3 ヶ月分のトラフィック統計の保存

➤ これらの設定を確認または調整するには、以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [サーバプレファレンス] アイコンをクリックします。
- 3 [システムプレファレンス] グループで、顧客のために帯域幅使用量統計をどのくらいの期間保存するかを指定します。
- 4 ディスク容量および帯域幅使用量の算出で考慮すべき項目を指定します。
- 5 [OK] をクリックします。

統計を表示する必要がある場合は、その方法について「統計の表示」『ページ数240』の章をご参照ください。

メール通知システムの設定

コントロールパネルは管理者とその顧客にディスク容量および帯域幅の有効範囲をメール送信により通知します。ただしデフォルト設定では、ドメインおよび Web サイトのオーナーは通知を受けません。ドメインおよび Web サイトのオーナーも自分のドメインや Web サイトで何が起きているかを知る必要があるため、彼らへのリソース有効範囲の通知を有効にするようお勧め致します。

リソース有効範囲の他にも、以下の場合にコントロールパネルは適切なユーザへ通知を行うことができます。

- 新規のユーザアカウントを作成した時
- 新規のドメインを追加した時
- ホスティングアカウントが期限切れになった時（期限はユーザアカウントと Web サイトで別々に定義されます）
- ヘルプデスクで顧客から新規のサポート依頼（トラブルチケット）があった時

- サポートの依頼が処理されトラブルチケットがヘルプデスクでクローズされた時
 - 既存のトラブルチケットに新規のコメントが投稿された時
 - 顧客が同じ問題にサイド直面したため、クローズしたトラブルチケットが再度オープンした時
- **通知システム設定を表示または変更するには、以下を実行してください。**
- 1 [サーバ] > [通知] に進みます。
 - 2 [通知] テーブルのチェックボックスを選択し、イベントについて通知を受信するコントロールパネルユーザまたは外部メールユーザを指定します。
 また、[ドメイン管理者] カラムのすべてのチェックボックスを選択してリセラーの顧客に彼らの Web サイトで何が起きているかを通知するようお勧め致します。
 - 3 デフォルトの通知テキストを表示または編集するには、[テキスト] カラムのそれぞれのアイコンをクリックします。
 通知では、実際の値と置換されるタグを使用できます（以下の表を参照してください）。
 - 4 ユーザアカウントとドメイン（Webサイト）をホスティングするアカウントの期限通知をいつ行うかを指定します。 デフォルトでは、通知は期限切れの10日前に行われます。 [OK] をクリックします。

表. 通知メッセージに使用されるタグ

イベントタイプ	通知に使用されるタグ	タグが意味するデータ
ユーザアカウントの作成	<client> または <client_contact_name>	ユーザの姓および名
	<client_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<password>	コントロールパネルで認証されるユーザのパスワード
	<hostname>	コントロールパネルアクセスのためのホスト名
ユーザアカウントの有効期限	<client_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<client> または <client_contact_name>	ユーザの姓および名
	<expiration_date>	ユーザアカウントの有効期限

サーバへの新規ドメイン名の追加	<domain_name> または <domain>	ドメイン名
	<client_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<client> または <client_contact_name>	ユーザの姓および名
	<ip>	ドメインがホストされる IP アドレス
ドメイン (Web サイト) ホスティングアカウントの有効期限	<domain_name> または <domain>	ドメイン名
	<client_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<client_contact_name> または <client>	ユーザの姓および名
	<expiration_date>	アカウントの有効期限
リソースの有効範囲	<domain> または <domain_name>	ドメイン名
	<client_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<client> または <client_contact_name>	ユーザの姓および名
	<disk_usage>	ディスク使用量の情報
	<disk_space_limit>	アカウントに割り当てられるディスク容量に関する情報
	<traffic>	帯域幅使用量に関する情報
	<traffic_limit>	アカウントに割り当てられる帯域幅の量に関する情報

ヘルプデスクの イベント	<ticket_id>	システムにより自動的に割り当てられるトラブルチケット識別番号
	<reporter>	リセラーや複数のドメインの顧客からリクエストが送信されるとそのユーザのユーザ名を、リセラーの顧客（ドメインオーナー）からリクエストが送信されるとそのユーザのドメイン名を、そしてそのリクエストがメールにより送信された場合はそのユーザのメールアドレスを返します
	<server>	ホスト名
	<ticket_comment>	チケットまたは投稿されたコメントの内容

ヘルプデスクの設定

ヘルプデスクは、顧客がサポートを必要としている時に貴方に連絡するのに便利な機能です。ヘルプデスクをセットアップして有効にしておくと、リセラー、ドメインオーナー、メールユーザなど、コントロールパネルへのアクセスが許可されているすべてのユーザがヘルプデスクにアクセスできるようになります。さらに、問題レポートをメールで提出することを許可できます。

ヘルプデスクはリセラーおよびその顧客により投稿されたすべてのレポートを表示します。リセラーのヘルプデスクには、そのリセラーおよび顧客から投稿されたレポートのみが表示されます。ドメインオーナーのヘルプデスクには、そのドメインオーナーおよびそのドメインで管理されているメールユーザから投稿されたレポートのみが表示されます。

➤ **ヘルプデスクを設定し、顧客が問題レポートをコントロールパネルから投稿できるようにするには、以下を実行してください。**


- 1 [ヘルプデスク] > [一般設定] に進みます。
- 2 [顧客にチケット送信を許可する] チェックボックスを選択します。
- 3 デフォルトとして顧客に提供されるトラブルチケットのキュー、優先度、カテゴリを選択します。

新規のチケットを投稿する際に、ユーザはどのような方法で問題を解決（キュー）したいか、リクエストの優先度（優先度）、どのカテゴリに関連する問題か（カテゴリ）を指定できます。キュー、優先度、カテゴリは抽象エンティティです。これはシステムには影響を及ぼしませんが、最初にどの問題を解決すべきかを判断するのに役立ちます。それぞれ3つの事前定義済みのキューと優先度レベル、そして次の9つの事前定義済みのカテゴリ（データベース、DNS、FTP、一般、ホスティング、メール、メーリングリスト、サイトアプリケーション、Tomcat Java）があります。これらの項目を削除して、自身の項目を追加することができます。

- 4 [ツール] グループの [有効化] をクリックし、[OK] をクリックします。

➤ **すべてのユーザにメールによる問題レポート提出を許可するには、以下を実行します**

- 1 helpdesk@your-domain.com といったような任意のメールアドレスでPOP3メールボックスを作成します。
- 2 そのメールボックスから問題レポートを定期的を取得し、ヘルプデスクに投稿するよう、ヘルプデスクを設定します。
- 3 ヘルプデスクのメールアドレスを顧客に通知します。

- **すべてのユーザにメールによるヘルプデスクへの問題レポート提出を許可するには、以下を実行してください。**
- 1 [ヘルプデスク] > [メールゲート設定] に進みます。
 - 2 以下の設定を指定します。
 - **通知送信者名および通知送信者の返信用アドレス。** ヘルプデスクに投稿されたレポートがメールにより取得されると、ヘルプデスクはレポートの送信者に受信通知を送信します。 レポート送信者はその受信通知に返信することにより、その後もレポートにコメントを追加できます。 従って、[通知送信者の返信用アドレス] ボックスでヘルプデスクのメールアドレスを指定し、「<company name> Help Desk」といったフレーズを [通知送信者名] ボックスに入力するようお勧め致します。 <company name> には自分の組織の名称を入力し、引用符は含めないようにしてください。
 - **POP3 サーバ：** メールが取り出される POP3 サーバです。
 - **POP3 ログイン：** メールサーバで認証されるユーザ名です。
 - **新規 POP3 パスワード：** メールサーバでの認証およびメールボックスからの問題レポート取得時に使用されるパスワードです。
 - **POP3 パスワードの確認：** 確認のためにパスワードを再度入力します。
 - **次の頻度でメールを検索：** ヘルプデスクがどれくらいの頻度で新規のレポートを検索するのかを指定します。
 - **チケット件名の書き出し文字：** メールメッセージ件名（問題レポート）の書き出し文字の指定です。これはスパムをフィルタリングするのに役立ちます。件名に指定した文字の組み合わせを持たないメールメッセージは削除されます。
 - 3 [ツール] グループの [有効化] をクリックし、[OK] をクリックします。
- **キューを表示、追加、編集または削除するには、以下を実行してください。**
- 1 [ヘルプデスク] > [キュー] に進みます。 キューがリストに表示されます。
 - **新規のキューを追加するには [新しいキューの追加] をクリックし、[タイトル] ボックスに任意の数字を入力し、[有効化] チェックボックスを選択したままで [OK] をクリックします。**
 - **キューを編集するには、[タイトル] カラム内のタイトルをクリックします。必要に応じて編集し [OK] をクリックします。**
 - **新規のレポートを投稿する際にユーザが一時的にキューを選択できないようにするには、[タイトル] カラム内のタイトルをクリックして [有効化] チェックボックスの選択を外し、[OK] をクリックします。**
 - **キューを削除するには、該当するチェックボックスを選択して  [選択対象を削除] をクリックします。**

➤ **優先度を表示、追加、編集または削除するには、以下を実行してください。**

- 1 [ヘルプデスク] > [優先度] に進みます。優先度がリストに表示されます。
 - 新規の優先度を追加するには [優先度の追加] をクリックし、[タイトル] ボックスに任意の文字列を入力し、[有効化] チェックボックスを選択したままで [OK] をクリックします。
 - 優先度を編集するには、[タイトル] カラム内のタイトルをクリックします。必要に応じて編集し [OK] をクリックします。
 - 新規のレポートを投稿する際にユーザが一時的に優先度を選択できないようにするには、[タイトル] カラム内のタイトルをクリックして [有効化] チェックボックスの選択を外し、[OK] をクリックします。
 - 優先度を削除するには、該当するチェックボックスを選択して **✖** [選択対象を削除] をクリックします。

➤ **カテゴリを表示、追加、編集または削除するには、以下を実行してください。**

- 1 [ヘルプデスク] > [カテゴリ] に進みます。カテゴリがリストに表示されます。
 - 新規のカテゴリを追加するには [新しいカテゴリの追加] をクリックし、[タイトル] ボックスに任意の文字列を入力し、[有効化] チェックボックスを選択したままで [OK] をクリックします。
 - カテゴリを編集するには、[タイトル] カラム内のタイトルをクリックします。必要に応じて編集し [OK] をクリックします。
 - 新規のレポートを投稿する際にユーザが一時的にカテゴリを選択できないようにするには、[タイトル] カラム内のタイトルをクリックして [有効化] チェックボックスの選択を外し、[OK] をクリックします。
 - カテゴリを削除するには、該当するチェックボックスを選択して **✖** [選択対象を削除] をクリックします。

➤ **顧客にメールによるヘルプデスクへのレポート提出を許可しないようにするには、以下を実行してください。**

- 1 [ヘルプデスク] > [メールゲート設定] に進みます。
- 2 [ツール] グループの [無効化] をクリックします。

➤ **すべての顧客およびリセラーにヘルプデスクの使用を許可しないようにするには、以下を実行してください。**

- 1 [ヘルプデスク] > [一般設定] に進みます。
- 2 [ツール] グループの [無効化] をクリックします。

「ヘルプデスクを使用した顧客の問題の解決」のセクションもご参照ください。

システム日時の調整

インターフェースから手動でサーバの日時を設定し、サーバの時間をネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバと同期させることができます。

➤ システム日時の設定を調整するには、以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [システム時間] をクリックします。
- 3 時間と日付の設定を必要に応じて編集して、タイムゾーンを選択します。

タイムゾーンの変更を有効にするには、Plesk サーバをリブートする必要があります。

- 4 ネットワークタイムプロトコルを実行しているサーバのサーバ時間と同期をとるには [システム時間の同期をとる] チェックボックスを選択して、有効なIPアドレスまたはドメイン名を指定します。 利用可能なNTPサーバの一覧については、

<http://ntp.isc.org/bin/view/Servers/WebSearch?search=open+access&scope=text>

<http://ntp.isc.org/bin/view/Servers/WebSearch?search=open+access&scope=text>をご参照ください。

- 5 [OK] をクリックします。




注： [システム時間を同期する] 機能を有効にすると、手動で [システム日時] フィールドに入力した日時はすべて上書きされます。 入力するドメイン名もしくはIPアドレスが正しいNTPサーバのものであることを確認することも重要です。これが間違っていた場合は、この機能は働かず、サーバは現在の時間設定のまま稼働し続けます。

サービスの起動、停止、再起動


コントロールパネルから様々な Plesk サービスの起動、停止、再起動をモニターすることができます。

サービスのステータスを確認するには、以下を実行してください。


- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 サーバ管理者ページで [サービス管理] をクリックします。

サービスの現在の状態は以下のアイコンで示されます。 は動作中のサービスを、 は停止したサービスを、 はインストールされていないかまたはライセンスキーがその管理機能をサポートしていないことを示します。


サービスを開始するには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 サーバ管理者ページで [サービス管理] をクリックします。
- 3 開始するサービスに対応する  アイコンをクリックします。

サービスを再開するには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 サーバ管理者ページで [サービス管理] をクリックします。
- 3 再開するサービスに対応する  アイコンをクリックします。

サービスを停止するには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 サーバ管理者ページで [サービス管理] をクリックします。
- 3 停止するサービスに対応する  アイコンをクリックします。

Web サービスの中断を防ぐ Web サーバの パイプログの有効化

300 以上ものドメインや Web サイトを自分のサーバ上でホスティングする場合、Apache Web サーバのパイプログを有効にする必要があります。それには以下を実行してください。

- 1 サーバシェルにログインします。
- 2 MySQLデータベースサーバにログインします。
- 3 コマンド `mysql -uadmin -p`cat /etc/psa/.psa.shadow` psa -e "replace into misc (param,val) values ('apache_pipelog', 'true');" を実行します。`
- 4 MySQLをログアウトします。
- 5 コマンド `websrvmng -v -a` を実行します。

メールサーバメッセージキューおよびト ラブルシューティングメール混雑のモニ ター

顧客からメールサーバ経由で E-mail が送信できないと苦情が来た場合、それはメールサーバが過負荷で受信メッセージの量に対応できていないことを意味します。誰かがメールサーバからスパムを送ったり、メール送信の qmail 送信デーモンがおちているときに起こることがあります。

メールサーバを通常の状態に戻すには、メールサーバのメッセージキューの不要なメッセージを削除します。

メッセージキューのメッセージを見てそれを削除するには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの **[サーバ]** ショートカットをクリックします。
- 2 **[サービス]** グループの **[メール]** アイコンをクリックします。
- 3 **[メールキュー]** タブをクリックします。次の情報が表示されます。
 - 配送されなかったメッセージの総数。メッセージがメールサーバに到着するとまずメインキューに追加されます。それからメールサーバの事前プロセスが、メッセージを同じサーバ上のローカルメールアカウントに配送するのかりモート受信用のメールアドレスに配送するのかを判断します。事前プロセスのあと、ローカルメール受信宛てメッセージはローカルキューに置かれ、リモート受信宛てメッセージはリモートキューに置かれます。配送されるとメッセージはキューから削除されます。
 - メッセージプロパティ： 件名、送信元、宛先、キュータイプ（ローカル、リモート、事前プロセスがされていない）、メッセージがユーザのコンピュータから送信された日、メッセージがキューに置かれてからの時間、メッセージサイズ。
- 4 特定の件名のメッセージを見つけるには、**[キュー]** ドロップダウンボックスでキューを選択し、見つけたい文字列を **[件名]** ボックスに入力し、**[検索]** をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには **[すべて表示]** をクリックします。
- 5 特定の送信元からのメッセージを見つけるには **[高度な表示]** リンクをクリックしてメールアドレスを **[送信元]** ボックスに入力して **[検索]** をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには **[すべて表示]** をクリックします。

- 6 特定の宛先へのメッセージを見つけるには [高度な表示] リンクをクリックしてメールアドレスを [宛先] ボックスに入力して [検索] をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには [すべて表示] をクリックします。
- 7 メッセージを日や経過時間やサイズで見つけるには [高度な表示] リンクから必要な値をそれぞれ [日]、[経過時間]、または [サイズ] ボックスに入力して [検索] をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには [すべて表示] をクリックします。
- 8 メッセージをキューから削除するには、該当するチェックボックスを選択して **X** [選択対象を削除] をクリックします。すべてのメッセージをキューから削除するには、メッセージリストの右上隅のチェックボックスを選択して **X** [選択対象を削除] をクリックします。

タスクのスケジューリング

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプトが実行されるタスクスケジューラ機能をサーバで実行します。

重要：ユーザ「root」の代わりにコントロールパネルユーザのタスクスケジューリングを禁止するには、サーバのファイルシステムの `/plesk_installation_directory/var/` に `root.crontab.lock` という名前の空のファイルを作成します。

Plesk のインストール時に、以下のタスクが自動的に作成されます。

- `autoreport.php` - クライアントおよびドメインに毎日、毎週、毎月配送されます (3つの別々のタスク)
- `backupmng` - 30分ごとにドメインのスケジュールされたバックアップを開始
- `statistics` - トラフィックやディスク容量などの、ドメインの制限に関する統計を生成
- `mysqldump.sh` - 3つのMySQLデータベース (psadump、MySQL、Hordeデータベース) のバックアップコピーを作成

これらのタスクはすべてドメイン統計やデータベースやレポートに関連しているため、これらのタスクは変更したり削除したりしないことをお勧め致します。

注：ドメインベースごとにタスクのスケジューリングを行うこともできます。それには以下と同じ手順を踏みますが、ただし [サーバ] > [スケジューラタスク] に進む代わりに [ドメイン] > [ドメイン名] > [スケジューラタスク] に進んでください。

➤ **タスクをスケジューリングするには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [スケジュール済みタスク] アイコンをクリックします。
- 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
- 4 [新しいタスクを追加] をクリックします。
- 5 コマンドを実行する時間を指定します。
 - 分 - 0~59 の値を入力
 - 時 - 0~23 の値を入力
 - 日 - 1~31 の値を入力
 - 月 - 1~12 の値を入力するか、ドロップダウンボックスから月を選択
 - 曜日 - 0~6 (日曜日が0) の値を入力するか、ドロップダウンボックスから曜日を選択

UNIX クローンタブエントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、次の作業を実行できます。

- 複数の値をコンマ区切りで入力します。ハイフンで区切った2つの数字は、包括的範囲を意味します。例えば、ある月の4日、5日、6日、20日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
- アスタリスクを挿入すると、そのフィールドに入力できるすべての値を指定できます。例えば、タスクを毎日実行するには、[日] テキストボックスに「*」と入力します。

Nごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」の組み合わせを入力します。Nはそのフィールドの適切な値です（分、時、日、月）。例えば、[分] フィールドに「*/15」を入力すると、15分ごとに起動するようにタスクがスケジュールされます。

月および週は省略名（Aug、Jul、Mon、Satなどの最初の3文字）で入力できます。ただし、省略名はコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することができません。

- 6 実行するコマンドを指定します。 [コマンド] 入力ボックスに入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **スケジュールリングされたタスクの実行を一時的に保留するには以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [スケジュール済みタスク] アイコンをクリックします。
- 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
- 4 保留したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
- 5 [有効化] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

➤ **スケジュールリングされたタスクを再開するには以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [スケジュール済みタスク] アイコンをクリックします。
- 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
- 4 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
- 5 [有効化] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

➤ **タスクをキャンセルするには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [スケジュール済みタスク] アイコンをクリックします。
- 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
- 4 スケジューリングを解除したいタスクの左側のチェックボックスを選択します。
- 5 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
- 6 削除を確認して [OK] をクリックします。

モジュールによる Plesk 機能の拡張

Plesk の当バージョンでは、アップグレードしなくてもコントロールパネルの機能性を拡張することができます。それには、SWsoft またはサードパーティが開発したモジュールで追加の機能を持ったコンポーネントをインストールします。

モジュールは簡単にインストールおよび削除ができ、直接コントロールパネルから設定できます。

このモジュールは自己解凍型シェルスクリプトである単一 RPM パッケージもしくはオペレーティングシステムに合ったその他の形式で提供されます。モジュールをコマンドラインからインストールすることもできます。コントロールパネルでモジュールをサーバにインストールすると、モジュール構成画面が表示されます。

以下のモジュールを Plesk 8 でご利用いただけます。

Acronis TrueImage サーバ管理モジュール - サーバオペレーションを停止せずにサーバディスクのバックアップイメージを作成し、システム全体を簡単かつ素早く復元することが可能です。

***Battlefield 2 ゲームサーバモジュール** - Battlefield 2 ゲームサーバをインストールおよび管理できます。

***Counter-Strike ゲームサーバモジュール** - ゲームを作成および管理するための Half-Life: Counter-Strike をインストールおよび更新できます。

ファイアウォールモジュール - 無認可のアクセスからホストおよびプライベートネットワークを守ります。

SiteBuilder2 のリモート管理モジュール - SiteBuilder2 のリモート管理機能を提供します。

Samba Fileserver 構成モジュール - SMB ネットワークのディレクトリ共有に有効です。

仮想プライベートネットワークモジュール - インセキュアなチャネル上でセキュアなネットワークを構築します。

Watchdog モジュール - Plesk コントロールパネルサービスをモニターしてサーバのセキュリティ脆弱性をスキャンします。

アスタリスク (*) の付いた Plesk モジュールのご利用には追加ライセンスキー『ページを参照24』のインストールが必要です。

FreeBSD システムで Plesk をインストールするとすべてのモジュールはデフォルトでインストールされます。RPM/Deb パッケージベースのシステムで Plesk をインストールするとインストールしたいモジュールを選択することができます。

モジュールのインストール

モジュールを Plesk サーバにインストールするには 2 つの方法があります。コントロールパネルから（推奨）とコマンドラインからです。

➤ **コントロールパネルからモジュールをインストールするには以下を実行してください。**

- 1 コントロールパネルに管理者でログインします。
- 2 ナビゲーションペインの [モジュール] ショートカットをクリックします。
- 3 [管理モジュール] をクリックします。
- 4 [新しいモジュールを追加] をクリックします。
- 5 モジュールパッケージを選択して [OK] をクリックします。

➤ **コマンドラインからモジュールをインストールするには以下を実行してください。**

- 1 Plesk がインストールされているサーバに root でログインします。
- 2 コマンド
`/plesk_installation_directory/admin/bin/modulemng --install --file=<module_filename>` を実行します。「`/plesk_installation_directory`」は Plesk をインストールしているディレクトリです。

例：

```
/usr/local/psa/admin/bin/modulemng --install  
--file=cs-gs-1.0.0-rh9.build72041021.16.i586.rpm
```

注： Plesk に付随するすべてのモジュールは Plesk ディストリビューションの `/opt/modules` にあります。

モジュールの設定および管理

モジュールの使用を開始する前にそれを設定する必要があります。設定手順は各モジュールによって異なります。コントロールパネルでモジュールをサーバにインストールすると、モジュール設定画面が表示されます。コマンドラインでモジュールをサーバにインストールすると、Plesk 経由で設定しなければなりません。




➤ **モジュール設定画面にアクセスするには以下を実行してください。**

- ナビゲーションペインで [モジュール] ショートカットを選択し、モジュール名の付いたボタンをクリックします。

または

- ナビゲーションペインで [モジュール] ショートカットを選択し、[モジュールの管理] をクリックします。モジュールのリストでリンクとして提供されているモジュール名をクリックします。


使用にライセンスキーのインストールが必要なモジュールもいくつかあります。使用期間を調べるには、モジュール製造業者の Web サイトか、コントロールパネルの [モジュール管理] 画面をご参照ください。インストールされた各モジュールにはアイコンを伴った対応するリストエントリがあり、ライセンスキーが必要かどうかを表示しています。以下を示す 3 種類のアイコンがあります。

-  - モジュールはライセンスキーを必要としません
-  - モジュールはライセンスキーを必要としており、そのキーはインストール済みです
-  - モジュールはライセンスキーを必要としますが、そのキーはインストールされていません

SWsoft が提供するモジュールがライセンスキーを必要とする場合は、ライセンスマネージャ機能を利用して SWsoft から入手することができます。それ以外の場合は、モジュールのライセンスキーのインストールに関する情報をモジュール製造業者から入手してください。

モジュールの削除

Plesk からモジュールを削除するには 2 つの方法があります。コントロールパネルから（推奨）とコマンドラインからです。

- **コントロールパネルを使用してモジュールを削除するには以下を実行してください。**
 - 1 コントロールパネルに管理者でログインします。
 - 2 ナビゲーションペインの [モジュール] ショートカットをクリックします。
 - 3 [管理モジュール] をクリックします。
 - 4 削除するモジュールに対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックします。
- **コマンドラインからモジュールを削除するには以下を実行してください。**
 - 1 Plesk がインストールされているサーバに root でログインします。
 - 2 コマンド

```
/plesk_installation_directory/admin/bin/modulemng  
--remove --module=<module_codename>
```

を実行します。

例：

```
/usr/local/psa/admin/bin/modulemng --remove --module=cs-gs
```

以下のコマンドを実行してモジュールのコードネームを調べることができます。

```
# echo "SELECT name, display_name FROM psa.Modules;" | mysql -u admin  
-p<admin_password> psa
```

章 6

顧客へのサービス

この章では、ユーザアカウント、Web サイト、メールアカウントの設定と管理に関する詳細な手順を示します。

顧客へのサービスを開始する前に

ここでは、新規の顧客とサイトにより早く簡単に対応するのに役立つ、いくつかの自動化の手順を扱います。

ユーザアカウントの設定の簡略化



複数のユーザにサービス提供する予定であれば、新規顧客のユーザアカウントの設定を簡略化する、クライアントテンプレートと呼ばれるアカウント設定のプリセットを作成できます。このテンプレートは、すべてのリソース使用の割り当て、ユーザアカウントに定義できる権限と制限を対象とします。

➤ クライアントテンプレートを作成するには、以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
- 2 [ツール] グループの [クライアントテンプレート] アイコンをクリックします。
- 3 [新規クライアントテンプレートの追加] をクリックします。
- 4 以下のテンプレートのプロパティを指定してください。
 - **テンプレート名** このテンプレートの名前を指定します。新規ユーザアカウントの設定の間に、必要なテンプレートを名前で選択するように要求されます。したがって、ホスティングプランのいずれかに対応する、または割り当てられたリソース量を記述する意味のある名前を選択することをお勧め致します。例えば、Reseller account、5GB disk space、100 domains などです。
 - **コントロールパネルへのアクセス**。顧客が自分のアカウントとサイトを管理する場合、コントロールパネルにアクセスできるかどうかを指定します。
 - **ドメイン作成**。顧客が新規サイトにホスティングアカウントを設定できるかどうかを指定します。
 - **物理的ホスティング管理**。顧客がホスティングアカウントの設定、ホスティングアカウント機能の変更、およびプログラミング言語とスクリプト言語のサポートのオン/オフ切り替えを実行できるかどうかを指定します。

- **PHP セーフモード管理。** 顧客が自分のサイトで PHP セーフモードをオフに切り替えることが出来るかどうかを指定します。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するよう設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode>
http://php.net/features.safe-modeをご参照ください。Web アプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はホスティングアカウントプロパティで [PHP 'safe_mode' on] チェックボックスの選択を外してセーフモードをオフに切り替えてください (Hosting グループで [ドメイン] > [ドメイン名] > [設定] アイコン)。
- **サーバへの Shell アクセスの管理** カスタマが Secure Shell プロトコル経由でサーバ shell にアクセスし、自分の顧客にもそれを許可することができるかどうかを指定します。
- **ハードディスククォータ割り当て。** 顧客が自分の Web サイト用に、および顧客自身の顧客の Web サイト用にディスク空き容量でハードクォータを割り当てられるかどうかを指定します。
- **サブドメイン管理。** 顧客が自分のドメイン内で追加サイトを設定し、顧客自身の顧客にも追加サイトの設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ドメインエイリアスの管理。** 顧客が自分のドメイン内で代替ドメイン名を追加設定し、顧客のユーザにも代替ドメイン名の追加設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理。** 顧客が自分のサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **匿名 FTP 管理。** 顧客が自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用する為には、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **タスクのスケジューリング。** 顧客がシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **ドメイン制限調整。** 顧客が自分のアカウントのリソース割り当てを調整できるかどうかを指定します。
- **DNS ゾーン管理。** 顧客が自分のドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。
- **Java アプリケーション管理** 顧客がコントロールパネルを使用して、Web サイトに Java アプリケーションおよびアプレットをインストールできるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理**顧客が GNU Mailman ソフトウェア提供のメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。

- **スパムフィルタ管理。** 顧客が SpamAssassin スパムフィルタ使用でき、フィルタリングの設定をカスタマイズできるかどうかを指定します
- **アンチウイルス管理。** 顧客が送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **バックアップと復元機能** 顧客がコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。 バックアップファイルをサーバに保存するのを許可するには [ローカルリポジトリ] チェックボックスを選択します。 顧客が任意の FTP サーバを使用してバックアップを保存するのを許可するには、 [リモート(FTP)リポジトリ] チェックボックスを選択します。
- **ユーザインターフェース。** 顧客が使用できるユーザインターフェースのタイプ、すなわち標準、デスクトップ、または両方から指定します。
- **デスクトップ管理。** 顧客が自分のデスクトップインターフェースをカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **リモート XML インターフェースの使用機能。** 顧客が自分の Web サイトを、カスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを指定します。 Web サイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発に XML インターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がリセラーのサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。 Plesk コントロールパネルの XML インターフェース (別名 Plesk API RPC) の使用方法の詳細は、
<http://download1.swsoft.com/Plesk/Plesk8.1/Doc/plesk-8.1-api-rpc/index.htm> をご参照ください。
- **ドメインの上限数。** 顧客がサーバでホスティングできるドメイン名/Web サイトの合計数を指定します。 これにはサーバでホスティングされる Web サイトと、他のサーバでホスティングされる Web サイトを示すドメインフォワーダが含まれます。 ドメインエイリアス (このサーバでホスティングされるサイトの追加ドメイン名) とサブドメインは別にカウントされ、このリソースタイプにより制限されません。
- **サブドメインの上限数。** 顧客がホスティングできるサブドメインの合計数を指定します。
- **ドメインエイリアスの上限数。** 顧客が自分の Web サイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。

- **ディスク容量。** 顧客に割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。ユーザのドメイン/Web サイトに関連するすべてのファイルが占有するディスク容量が含まれます。Web サイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。この割り当てを超えると、ユーザアカウントとドメイン名/Web サイトは自動的に停止せず、各ユーザとユーザの顧客のメールアドレスに適切な注意が送信されるのみで、リソースの使用過多がユーザまたはユーザの顧客のコントロールパネルのユーザ名の左に表示されるアイコン (ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックしたときに表示されるクライアントのリストを参照)、またはドメイン名 (ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックしたときに表示されるドメイン名のリストを参照) により示されます。
- **トラフィックの上限量。** 1 か月の間に、顧客の Web サイトから転送できるデータの量をメガバイトで指定します。制限に達すると、適切な通知がユーザまたはユーザの顧客のメールアドレスに送信され、リソースの使用過多が、コントロールパネルのユーザ名の左に表示される、該当するアイコン (ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックしたときに表示されるクライアントのリストを参照)、またはドメイン名 (ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックしたときに表示されるドメイン名のリストを参照) により示されます。
- **Web ユーザの上限数。** 顧客が自分のドメイン内の他のユーザ用にホスティングできる、個人用 Web ページの合計数を指定します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。詳細については「個人用 Web ページのホスティング」『ページ数170』のセクションをご参照ください。
- **データベースの上限数** 顧客がサーバでホスティングできるデータベースの合計数を指定します。
- **メールボックスの上限数。** 顧客がサーバでホスティングできるメールボックスの合計数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** 各メールボックスに割り当てられるディスク空き容量をキロバイトで指定します。
- **メールフォワーダの上限数** 顧客が設定できるメールフォワーダの合計数を指定します。
- **メール自動応答の上限数。** 顧客が設定できるメール自動応答の合計数を指定します。
- **メーリングリストの上限数。** 顧客がサーバでホスティングできるメーリングリストの合計数を指定します。ユーザにメーリングリストを提供するには、GNU Mailman ソフトウェアをインストールする必要があります。
- **Java アプリケーションの上限数。** サーバでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数を指定します。

- **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、顧客のすべてのドメイン/Webサイトは停止されます。そのWeb、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、リセラーおよびその顧客（ドメインオーナー）はコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名やWebサイトを元の操作に戻すために、手動でユーザアカウントを更新しなければなりません。ナビゲーションペインで**[クライアント]**をクリックし、必要なクライアント名をクリックし、**[制限]**アイコンをクリックし、他の期間を**[有効期間]**ボックスに指定し、**[OK]**をクリックしてから、**[ツール]**グループの**[有効化]**アイコンをクリックします（**[クライアント]** > **[クライアント名]**）。
- **IPアドレス割り当て。** 顧客に割り当てたい共用IPアドレスを指定します。自動的に専用IPアドレスを供給するには**[クライアントに専用IPアドレスを割り当てる]**チェックボックスを選択して、自分のIP範囲から取得するIPアドレスの番号を指定して顧客に割り当てます。

5 **[OK]** して、テンプレートの作成を終了します。

新規ユーザアカウントのセットアップ中に必要なテンプレートを選択するとアカウントが作成され、定義したリソースが割り当てられます。

➤ **テンプレートを変更するには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの**[クライアント]**ショートカットをクリックします。
- 2 **[ツール]**グループの**[クライアントテンプレート]**アイコンをクリックします。
- 3 必要なテンプレート名をクリックします。
- 4 必要に応じて設定を修正し**[OK]**をクリックします。

テンプレートを変更してもそのテンプレートで作成した既存のユーザアカウントは変更されません。

➤ **不要になったテンプレートを削除するには、以下を実行してください。**


- 1 ナビゲーションペインの**[クライアント]**ショートカットをクリックします。
- 2 **[ツール]**グループの**[クライアントテンプレート]**アイコンをクリックします。
- 3 不要になったテンプレート名に対応するチェックボックスを選択します。
- 4 **✗ [選択対象を削除]** をクリックします。削除を確認して**[OK]** をクリックします。

ドメインおよび Web サイトの設定の簡略化

極めて多数のドメインで多数のユーザを扱う場合は、前もって設定された設定を作成する必要がある可能性があります。この設定はドメインテンプレートとみなされ、これにより新規ドメインや新規 Web サイトのアカウントのホスティングの設定が簡略化されます。テンプレートは全てのリソース使用割り当てや、ホスティングアカウントの権限および制限の定義や、メール転送および Web 統計の保存の設定を網羅します。

➤ **ドメインテンプレートを作成するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 [ツール] グループの [ドメインテンプレート] アイコンをクリックします。
- 3 [ドメインテンプレートの追加] をクリックします。
- 4 以下のテンプレートのプロパティを指定してください。
 1. **テンプレート名** このテンプレートの名前を指定します。新規ユーザアカウントの設定の間に、必要なテンプレートを名前を選択するように要求されます。したがって、ホスティングプランのいずれかに対応する、または割り当てられたリソース量を記述する意味のある名前を選択することをお勧め致します。例えば、メールホスティング、ディスク容量 1GB、メールボックス 500 などです。
 2. **存在しないユーザへのメール** ドメイン全体のメール返信オプションを指定します。誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、"this address no longer accepts mail (このアドレスはメールを受け取ることができません)" という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。
 - 気にいらなければデフォルトの通知を変更します（[メッセージ付き返信] オプションを選択したままで、別のメッセージを入力ボックスに入力します）。
 - 不達メールを他のメールアドレスに転送します（[アドレスに転送] オプションを選択し、必要なメールアドレスを指定します）。または、
 - そのメールを承認せずに拒否します（[拒否] オプションを選択します）。この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名宛ての大量のスパムにより生じたメールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。
 1. **Web メール**。このドメイン内のメールボックスのユーザは Web メールアプリケーションをベースにしたブラウザを通じて自身のメールを読めるようにすべきかどうかを指定します。
 2. **サブドメインの上限数**。このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
 3. **ドメインエイリアスの上限数**。サイトオーナーが自分の Web サイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。

4. **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されず。全てのドメインおよびWebサイトに関連する全てのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。Webサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。超過すると、ドメイン名やWebサイトは自動的に停止されることはなく、貴方と貴方のクライアントのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックしてドメイン名のリストをご参照ください）。
5. **トラフィックの上限量。** 1ヶ月間にWebサイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。制限量に達すると、貴方と貴方のクライアントのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックしてドメイン名のリストをご参照ください）。
6. **Web ユーザの上限数。** ドメインオーナーが自身のドメインの下の他のユーザのためにホストできる個人Webページ数を指定します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのWebアドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。個人Webページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、【Web ユーザーへのスクリプトの使用の許可】チェックボックスも選択してください。詳細については「個人用Webページのホスティング」『ページ数170』のセクションをご参照ください。
7. **データベースの上限数** 1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
8. **メールボックスの上限数。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
9. **メールボックスクォータ。** 1つのドメイン内の各メールボックスに割り当てられるディスク容量をキロバイトで指定します。
10. **メールフォワーダの上限数** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
11. **メール自動応答の上限数。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
12. **メーリングリストの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされたGNU Mailmanソフトウェアにより提供されます。顧客が使用したいにもかかわらずインストールされていない場合には貴方がインストールすることができます。メーリングリストを使用できるようにするには、【選択設定】グループの下の【メーリングリスト】チェックボックス内にチェックマークを入れることも必要です。
13. **Java アプリケーションの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメインにインストールできるJavaアプリケーションまたはアプレットの数上限を指定します。

14. **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメインおよび Web サイトは停止されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名や Web サイトを元の操作に戻す為に、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。ナビゲーションペインで **[ドメイン]** をクリックし、必要なドメイン名をクリックし、**[制限]** アイコンをクリックし、他の期間を **[有効期間]** ボックスに指定し、**[OK]** をクリックしてから、**[ツール]** グループの **[有効化]** アイコンをクリックします（**[ドメイン]** > **[ドメイン名]**）。
15. **ログローテーション** Web サーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。ホームページ上でデバッグするためにこういった生ログファイルのコンテンツを表示する必要がある場合は、必要なドメイン名をクリックし、**[ログマネージャ]** をクリックし、次に必要なログファイル名をクリックします。これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。
 - **[ログローテーションの有効化]** チェックボックスを選択します。
 - ログファイルを再利用する時期を指定し、
 - サーバに格納する、Plesk の統計ユーティリティが処理した各ログファイルのインスタンス数を指定し、
 - 圧縮する必要があるかどうかを指定します。
 - そして処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
16. **トラフィック統計保持。** 帯域幅使用量の統計がサーバに保管される期間を月で指定します。
17. **DNS** Web ホスト上の DNS サーバがドメイン名ゾーンのためのマスター（プライマリ）ネームサーバとして動作するか、スレーブ（セカンダリ）ネームサーバとして動作するかを指定します。セカンダリサーバがプライマリからこのゾーンファイルのコピーを取得するだけである一方で、プライマリネームサーバはローカルで提供するゾーンファイルを格納します。通常 **[マスター]** オプションが選択されたままにします。
18. **物理的ホスティングアカウント** ドメイン名だけではなく、Web サイトもホストする場合、**[物理ホスティング]** チェックボックスを選択しホスティング機能を指定します。
 - **ハードディスククォータ。** ソフトクォータに加えて、制限に達した場合にさらに多くのファイルを Web スペースに書き込めないようにするいわゆるハードクォータを指定できます。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。

- **SSL 対応。** Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマース Web サイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかの Web サイトをホストする Web サーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとすると、ユーザに警告メッセージが表示されます。Web サイト用の SSL 暗号化を許可するには、**【SSL 対応】** チェックボックスを選択してください。
- **SSL コンテンツおよび非 SSL コンテンツを格納する為の単一のディレクトリの使用** デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（httpdocs ディレクトリ）を通じて全てのコンテンツを公開するのに便利なように、**【SSL および非 SSL コンテンツの格納用に単一ディレクトリの使用】** チェックボックスを選択してください。
- **FrontPage 対応** Microsoft FrontPage は人気のある Web サイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、**【FrontPage 対応】** および **【SSL 上の FrontPage 対応】** チェックボックスを選択し、**【FrontPage オーサリング】** オプションを **【有効】** に設定します。
- **動的 Web サイトおよびサーバサイド Web アプリケーションの開発に幅広く使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語が Web サーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Python、ColdFusion および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト。
- **Web 統計。** ドメインおよび Web サイトオーナーがサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、**【Web 統計】** メニュー（AWStats がお奨めです）および **【パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/ 経由でアクセス可能】** チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインや Web サイトのオーナーは自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、URL <https://your-domain.com/plesk-stat/> にある Web 統計にアクセスできます。

- **カスタムエラードキュメント**。サイトを訪れているビジターがWebサーバが見つけれないページを要求する場合、Webサーバによりエラーメッセージを伴った標準のHTMLページが生成され、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、**[カスタムエラードキュメント]** チェックボックスを選択します。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへの Shell アクセス** これにより、サイトオーナーはSecure Socket Shell接続を通じて信頼性を持ってWebコンテンツをサーバにアップロードできます。ただし、Shellアクセスを許可することによってもサーバセキュリティに対する潜在的な脅威がもたらされます。そこで、Shellアクセスを許可しないことをお奨めします。**[禁止]** オプションを選択したままにしてください。


5 **[OK]** して、テンプレートの作成を終了します。

新規ドメインまたはWebサイトのホスティングアカウントの設定中に、要求されたテンプレートを選択します。そうすれば、ホスティングアカウントが作成され、定義したリソースとホスティングサービスが割り当てられます。

➤ **単独のドメインまたはWebサイトの設定を修正するには以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの**[ドメイン]**ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 より多くのディスク容量や帯域幅やその他のリソースを割り当てるには、**[ドメイン]** グループの**[制限]** アイコンをクリックして必要に応じて設定を調整し、**[OK]** をクリックします。
- 4 ホスティングの機能を追加するには（プログラミング言語やスクリプトへの対応など）、**[ホスティング]** グループの**[設定]** をクリックして以下の設定を必要に応じて調整し、**[OK]** をクリックします。

➤ **複数のドメインまたはWebサイトの設定を修正するには以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの**[ドメイン]**ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名に該当するチェックボックスを選択します。
- 3 ドメインのリストの上部にある  **[一括操作]** アイコンをクリックしてください。
- 4 必要に応じて設定を修正し **[OK]** をクリックします。

➤ **新規に作成したアカウントに適用されるドメインテンプレートについての変更を反映させるには以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの**[ドメイン]**ショートカットをクリックします。
- 2 **[ツール]** グループの**[ドメインテンプレート]** アイコンをクリックします。
- 3 更新するドメインテンプレートに対応するテンプレート名をクリックします。

- 4 必要に応じて設定を修正し [OK] をクリックします。
テンプレートの修正は既存のドメインおよび Web サイトには影響を及ぼさないという点に注意してください。
- **不要になったテンプレートを削除するには、以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 [ツール] グループの [ドメインテンプレート] アイコンをクリックします。
 - 3 不要になったテンプレート名に対応するチェックボックスを選択します。
 - 4 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

顧客が使用できるパッケージ済みのアプリケーション

Plesk には顧客に提供するように選択したり、コントロールパネルのスク립トライブラリ（アプリケーションヴォルトから参照される）から削除したりできる多数の無料および有料のサイトアプリケーションが同梱されています。カスタムアプリケーションを配布することも可能です。

コントロールパネルのアプリケーションヴォルトからの無料アプリケーションは自動的に各顧客のアプリケーションプールに追加されます。ただし、有料のアプリケーションは購入後のみ顧客のプールに追加されます。

ヴォルト内のサイトアプリケーションの使用ルールを設定できます。例えば、自分で設定した条件（例えば、支払いを受領したあとにするなど）のもとでアプリケーションプールにアプリケーションを追加すれば、特定の無料アプリケーションを自分の顧客向けのみが利用できる有料アプリケーションにすることもできます。

無料アプリケーションを有料に変更すると、すべてのクライアントのアプリケーションプールからそのアプリケーションが削除されます。そこで、必要な場合にのみ、このアプリケーションをクライアントのアプリケーションプールに追加できます。有料アプリケーションを無料に変更すると、すべてのクライアントがそのアプリケーションを無料で使用できます。

表. Plesk アプリケーションヴォルトに同梱されるアプリケーション

アプリケーション名	説明	アプリケーション開発者のサイトへのリンク
AdvancedPoll	投票結果管理システム	http://www.proxy2.de

AnyInventory	棚卸し管理プログラム	http://anyinventory.sourceforge.net/ http://anyinventory.sourceforge.net/
AutoIndex	Web サイトディレクトリ索引システム	http://autoindex.sourceforge.net
b2evolution	ブログ	http://b2evolution.net
bbclone	カウンタ	http://www.bbclone.de
Brim	パーソナル・オンライン・オーガナイザ	http://www.brim-project.org/ http://www.brim-project.org/
Coppermine	フォトギャラリー	http://coppermine.sourceforge.net
CSLH	顧客サポート	http://www.proxy2.de
Docbase	知識ベース管理システム	http://docbase.sourceforge.net/ http://docbase.sourceforge.net/
Drupal	コンテンツ管理システムおよびブログエンジン	http://drupal.org/ http://drupal.org/
eGroupWare	グループアクティビティ調整のアプリケーション	http://www.egroupware.org/ http://www.egroupware.org/
gallery	フォトギャラリー	http://gallery.menalto.com
geeklog	ウェブログ	http://www.geeklog.net/ http://www.geeklog.net/
gtchat	チャット	http://www.gtchat.de
ilohamail	Web メールプログラム	http://ilohamail.org/ http://ilohamail.org/
Joomla!	コンテンツ管理システムおよび Web アプリケーションフレームワーク	http://joomla.org/ http://joomla.org/
Miva Merchant	オンラインストア	http://smallbusiness.miva.com/products/merchant/mm5/ http://smallbusiness.miva.com/products/merchant/mm5/
Miva Fasttrack	オンラインストア	http://smallbusiness.miva.com/products/merchant/mm5/

Mambo	コンテンツ管理システム	http://www.mamboserver.com
Mantis	問題トラッキングシステム	http://www.mantisbt.org/ http://www.mantisbt.org/
MediaWiki	知識ベースおよびコンテンツ管理システム	http://www.mediawiki.org/wiki/MediaWiki http://www.mediawiki.org/wiki/MediaWiki
Moodle	オンライン教育サイト作成のプログラム	http://moodle.org/ http://moodle.org/
MyOrgBook	オンラインオーガナイザ	http://www.myorgbook.com http://www.myorgbook.com
Noah's Classifieds	広告システム	http://classifieds.phpoutsourcing.com/ http://classifieds.phpoutsourcing.com/
openbiblio	ライブラリ	http://obiblio.sourceforge.net
osCommerce	E-コマースシステム	http://www.oscommerce.com
Owl	知識ベースおよび文書の保存システム	http://owl.sourceforge.net
phpAdsNew (Openads)	バナー回転管理および統計収集のトラッキングシステム	http://phpadsnew.com
phpBB	フォーラム	http://www.phpbb.com
phpBook	ゲストブック	http://www.smartisoft.com
phpBugTracker	バグトラッキングシステム	http://sourceforge.net/projects/phpbt
phpDig	検索システム	http://www.phpdig.net
phpMyFamily	系図システム	http://www.phpmyfamily.net
phpMyVisites	Web サイト統計	http://www.phpmyvisites.us/ http://www.phpmyvisites.us/
MyPhpMoney	個人用会計管理	http://myphpmoney.sourceforge.net
PHProjekt	グループアクティビティ調整のアプリケーション	http://www.phprojekt.com/ http://www.phprojekt.com/

PHP Surveyor	PHP Surveyor は PHP スクリプトのセットであり、MySQL と相互作用してオンライン調査の開発、実施、応答の収集を行います	http://phpsurveyor.sourceforge.net
phpWebsite	コンテンツ管理システム	http://sourceforge.net/projects/phpwebsite/ http://sourceforge.net/projects/phpwebsite/
phpWiki	誰でも公開ページを編集できる文書の保存および回復システム	http://phpwiki.sourceforge.net
pLog	ブログ	http://www.plogworld.net
pmachinefree	Web 公開プラットフォーム	http://pmachinepro.com/ http://pmachinepro.com/
PostNuke	コンテンツ管理システム	http://www.postnuke.com
PPWSE	Plesk プロフェッショナル Web サイトエディタは SWsoft が開発したコンテンツ管理システムです。SWsoft SiteBuilder に先行しています。	http://www.swsoft.com/en/products/plesk75reloaded/addons/ppwse/
Serendipity	コンテンツ管理システムおよびブログ	http://www.s9y.org/ http://www.s9y.org/
Sitebar	ブックマークサーバ	http://sourceforge.net/projects/sitebar http://sourceforge.net/projects/sitebar
Siteframe	コンテンツ管理システム	http://siteframe.org/ http://siteframe.org/
SMF	オンラインフォーラム	http://www.simplemachines.org/ http://www.simplemachines.org/
Tellme	ネットワークサービス (whois、traceroute)	http://kimihia.org.nz/projects/tellme/
TikiWiki	コンテンツ管理システム	http://tikiwiki.org/ http://tikiwiki.org/


TUTOS	ワークプロセス編成ツール。カレンダー、アドレスマネージャ、バグトラッキングシステム、プロジェクトタスク管理、タイムトラッキング、などがあります	http://www.tutos.org/homepage/index.html
Typo 3	コンテンツ管理システム	http://typo3.org
UebiMiau	Web メールクライアント	http://www.uebimiau.org/
WebCalendar	カレンダーおよびスケジュール管理システム	http://www.k5n.us/webcalendar.php
WebShopManager	WebShopManager によって集中型 Web ベースの管理システムから完全機能のオンラインストアを管理することができます	http://webshopmanager.com/ http://webshopmanager.com/
WordPress	公開プラットフォーム (ブログ)	http://www.wordpress.org
XOOPS	コンテンツ管理システム	http://www.xoops.org/ http://www.xoops.org/
XRMS	顧客リレーション管理	http://xrms.sourceforge.net


➤ **ヴォルト内のアプリケーションの情報を表示するには以下を実行してください。**


- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [アプリケーションヴォルト] アイコンをクリックします。

ヴォルトに保存されているすべてのアプリケーションは [サイトアプリケーションパッケージ] グループで一覧表示されています。

左から一番目のカラムのアイコンは以下のサイトアプリケーションの種類を示します。


 - ライセンスキーが必要ない無料のサイトアプリケーション。無料の Plesk デフォルトインストールに含まれており、貴方がサービスを提供する各顧客のアプリケーションプールに自動的に追加されます。


 - ライセンスキーが必要な有料のサイトアプリケーション。SWsoft から追加購入します。

 - ライセンスキーが必要な有料のサイトアプリケーション。SWsoft から追加購入し、当面はキーがインストールされません。

注：Plesk Professional Web サイトエディタなどの有料アプリケーションのライセンスキーを購入してインストールするには、「Plesk アドオン向け追加ライセンスキーのインストール」 『ページ数24』のセクションをご参照ください。

二番目のカラム（サイトアプリケーション名の左側）のアイコンは貴方が定義した以下のサイトアプリケーション使用量ルールを示します。

 - チャージ無料。すべてのクライアントのアプリケーションプールに自動的に追加されます。

 - 有料。特定の条件下で貴方によってのみクライアントのアプリケーションプールに追加されます。

【名前】 カラムはサイトアプリケーションの名前を表示します。

【バージョン】 カラムはアプリケーションのバージョンを表示します。

【リリース】 カラムはサイトアプリケーションのリリース番号を表示します。

【インスタンス】カラムはWeb サイトにアプリケーションが何回配置されたかを示します。

【クライアント】 カラムはサイトアプリケーションを使用するユーザの数を表示します。


【説明】 カラムは各サイトアプリケーションの簡単な説明を提供します。

➤ **アプリケーションヴォルトにアプリケーションを追加するには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [アプリケーションヴォルト] アイコンをクリックします。
- 3 [新しいアプリケーションパッケージを追加] をクリックします。
- 4 [参照] をクリックしてRPMパッケージまたはshellインストールスクリプトフォーマットのRPMパッケージのアプリケーションの位置を指定し、[OK] をクリックします。

これでアプリケーションはアプリケーションヴォルトにインストールされ、顧客のアプリケーションプールに追加したり必要なサイトにインストールしたりできるようになりました（それによって顧客のプールにアプリケーションが自動的に追加されます）。

➤ **アプリケーションヴォルトからアプリケーションを削除するには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [アプリケーションヴォルト] アイコンをクリックします。
- 3 削除するアプリケーションに対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] アイコンをクリックします。

- 4 削除を確認して [OK] をクリックします。

アプリケーションパッケージはサーバアプリケーションヴォルトから削除されますが、ユーザのサイトにインストールされたアプリケーションインスタンスは消去されません。
- **ある無料アプリケーションを有料にしたり、有料から無料にするには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [アプリケーションヴォルト] アイコンをクリックします。
 - 3 対応するサイトアプリケーション名の左側の、2番目のカラムのアイコンをクリックします。
- **顧客のアプリケーションプールに有料アプリケーションを追加するには以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [アプリケーションヴォルト] アイコンをクリックします。
 - 3 [クライアント] カラムでハイパーリンク番号をクリックします。
 - 4 [新規クライアントの追加] をクリックします。
 - 5 必要なユーザを選択し [OK] をクリックします。

サイトにアプリケーションをインストールする必要がある場合は、「アプリケーションのインストール」 『ページ数153』 セクションをご参照ください。

新規 Web サイトのコンテンツの事前定義

特定のファイルとディレクトリを新規にホストされる Web サイト用に作成された Web スペースに自動的に含めるようにコントロールパネルを設定できます。これは、役に立つスクリプトのセットであり、カスタムエラーメッセージであり、プレースホルダ index.html ページであり、その他ご希望のファイルである可能性があります。こういったファイルはサイトベースごとに取替え、編集、削除できます。

- **Web コンテンツが自動的に Web スペースに含まれるようにするためにコントロールパネルを設定するには以下の操作を実行します。**
 - 1 ローカルファイルシステム上で、必要なディレクトリを作成します。httpdocs、 httpsdocs、 cgi-bin、 anon_ftp、 error_docs などです。

- 2 必要なファイルを作成したディレクトリに配置します。Webページをhttpdocsおよびhttpsdocsディレクトリに、スクリプトをcgi-binディレクトリに、カスタムエラーメッセージをerror_docsディレクトリに配置します。
 - 3 ディレクトリおよびファイルをtgz、tar、 tar.gzまたはzipフォーマット内のアーカイブファイルにパックします。
ディレクトリはサブディレクトリではなく、必ずアーカイブファイルのrootに配置して下さい。
 - 4 Pleskコントロールパネルにログインするには、以下の操作を実行します。
 - 5 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 6 [サービス] グループの [スケルトン] アイコンをクリックします。
 - 7 アーカイブファイルをローカルコンピュータに配置するために [参照] ボタンをクリックしてファイルを選択し、 [ファイル送信] ボタンをクリックします。
- **Web サーバディレクトリおよびファイルのオリジナルの構造に戻すには、以下の操作を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [スケルトン] アイコンをクリックします。
 - 3 [デフォルト] ボタンをクリックします。

章 8

ユーザアカウントの管理

Plesk ユーザ階層は以下の 3 つのユーザレベルに制限されています。クライアントアカウント、ドメイン管理者アカウント、メールユーザアカウントです。こういったタイプのユーザはすべて自身の Web サイトおよびメールアカウントの管理のためにコントロールパネルにアクセスできます。

ホスティングサービスの再販や多数のドメイン/Web サイトのホスティングが必要な顧客のためにクライアントアカウントを作成する必要があります。その場合、リセラーは顧客のためにドメイン管理者アカウントを作成することができます。ドメイン管理者のアカウントはユーザのサイトがサーバー上でホストされたあとでのみ作成可能です。ドメイン管理者アカウントは 1 つのサイトの所有のみに制限されています。ただし、管理者は自身のドメインの下でメールホスティングサービスをその他のユーザに提供できます。そのためメールユーザアカウントがコントロールパネルにアクセスするために作成および生成されます。

ユーザアカウントの追加

この章では顧客またはリセラーの為に作成するクライアントレベルアカウントについて説明します。

ドメイン管理者のアカウントをリセラーの顧客用に作成する必要がある場合は、権限を与え、リソースを割り当てます。詳細は「Webサイトのホスティングアカウントの設定」『ページ数134』のセクションをご参照ください。



メールユーザのアカウントを作成する必要がある場合は「メールボックスの作成」のセクションをご参照ください。

➤ **新規の顧客またはリセラーを追加するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
- 2 [ツール] グループの [新しいクライアントアカウントの追加] アイコンをクリックします。
- 3 連絡先および請求先の情報を指定します。 担当者名、ログイン名、パスワードは必須項目です。
- 4 ユーザアカウントのテンプレートをあらかじめ定義してある場合、[テンプレート選択] ドロップダウンボックスから必要なテンプレートを選択します。
- 5 [クライアントのIPプール設定に進む] チェックボックスは選択したままにしておきます。ユーザに1つ以上のIPアドレスを割り当てる必要があるためです。この割り当てをしないと、顧客はサイトをホストすることができません。 [OK] をクリックします。
- 6 顧客にIPアドレスを割り当てます。 [利用可能なIP] ボックスでアドレスを選択し [追加>>] をクリックします。 E-コマースサイトのホスティングの顧客は専用IPアドレスを必要とします。 1つのサイトにつき1つの専用IPアドレスが必要です。
- 7 [OK] をクリックします。 これでクライアントアカウント管理画面が開きます。

顧客が自分のコントロールパネルアカウントにログインし操作を始めると、最初にこの画面が表示されます。 このため、この画面はクライアントホームページと呼ばれます。 コントロールパネルの環境を紹介するツアーに顧客を案内するため、クライアントの信用情報を使用してコントロールパネルにログインする必要がある場合があります。 詳しくは、「Plesk Client's Guide」をご参照ください。

- 8 テンプレートを使用してユーザアカウントを作成した後、顧客にリソースをプロビジョンするには、 [ツール] グループの [制限] アイコンをクリックします。
- 9 以下の設定を指定します。

- **ドメインの上限数。**顧客がサーバでホスティングできるドメイン名/Webサイトの合計数を指定します。これにはサーバでホスティングされるWebサイトと、他のサーバでホスティングされるWebサイトを示すドメインフォワーダが含まれます。ドメインエイリアス（このサーバでホスティングされるサイトの追加ドメイン名）とサブドメインは別にカウントされ、このリソースタイプにより制限されません。
- **サブドメインの上限数。**顧客がホスティングできるサブドメインの合計数を指定します。
- **ドメインエイリアスの上限数。**顧客が自分のWebサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ディスク容量。**顧客に割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。ユーザのドメイン/Webサイトに関連するすべてのファイルが占有するディスク容量が含まれます。Webサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。この割り当てを超えると、ユーザアカウントとドメイン名/Webサイトは自動的に停止せず、各ユーザとユーザの顧客のメールアドレスに適切な注意が送信されるのみで、リソースの使用過多がユーザまたはユーザの顧客のコントロールパネルのユーザ名の左に表示されるアイコン（ナビゲーションペインの【クライアント】ショートカットをクリックしたときに表示されるクライアントのリストを参照）、またはドメイン名（ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックしたときに表示されるドメイン名のリストを参照）により示されます。
- **トラフィックの上限量。**1か月の間に、顧客のWebサイトから転送できるデータの量をメガバイトで指定します。制限に達すると、適切な通知がユーザまたはユーザの顧客のメールアドレスに送信され、リソースの使用過多が、コントロールパネルのユーザ名の左に表示される、該当するアイコン（ナビゲーションペインの【クライアント】ショートカットをクリックしたときに表示されるクライアントのリストを参照）、またはドメイン名（ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックしたときに表示されるドメイン名のリストを参照）により示されます。
- **Webユーザの上限数。**顧客が自分のドメイン内の他のユーザ用にホスティングできる、個人用Webページの合計数を指定します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのWebアドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。詳細については「個人用Webページのホスティング」『ページ数170』のセクションをご参照ください。
- **データベースの上限数**顧客がサーバでホスティングできるデータベースの合計数を指定します。
- **メールボックスの上限数。**顧客がサーバでホスティングできるメールボックスの合計数を指定します。
- **メールボックスクォータ。**各メールボックスに割り当てられるディスク空き容量をキロバイトで指定します。

- **メールリダイレクトの上限数。** 1つの宛先に対して顧客が設定できるメールフォワーダの合計数を指定します。
- **メールグループの上限数。** 1つの宛先に対して顧客が設定できるメールフォワーダの合計数を指定します。
- **メール自動応答の上限数。** 顧客が設定できるメール自動応答の合計数を指定します。
- **メーリングリストの上限数。** 顧客がサーバでホスティングできるメーリングリストの合計数を指定します。 ユーザにメーリングリストを提供するには、GNU Mailman ソフトウェアをインストールする必要があります。
- **Java アプリケーションの上限数。** サーバでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数を指定します。
- **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を指定します。 この期間が終了すれば、顧客のすべてのドメイン/Webサイトは停止されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、リセラーおよびその顧客（ドメインオーナー）はコントロールパネルにログインできなくなります。 アカウントは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名や Web サイトを元の操作に戻すために、手動でユーザアカウントを更新しなければなりません。 ナビゲーションペインで **[クライアント]** をクリックし、必要なクライアント名をクリックし、**[制限]** アイコンをクリックし、他の期間を **[有効期間]** ボックスに指定し、**[OK]** をクリックしてから、**[ツール]** グループの **[有効化]** アイコンをクリックします（**[クライアント]** > **[クライアント名]**）。

10 **[OK]** をクリックします。

11 顧客がコントロールパネル経由で実行できるオペレーションを指定するには、そのユーザアカウントを事前定義済みのユーザアカウントテンプレートを使用せずに作成した場合は、**[ツール]** グループの **[権限]** をクリックします。

12 必要な権限を顧客に供与します。

- **コントロールパネルへのアクセス。** 顧客が自分のアカウントとサイトを管理する場合、コントロールパネルにアクセスできるかどうかを指定します。
- **ドメイン作成。** 顧客が新規サイトにホスティングアカウントを設定できるかどうかを指定します。
- **物理的ホスティング管理。** 顧客がホスティングアカウントの設定、ホスティングアカウント機能の変更、およびプログラミング言語とスクリプト言語のサポートのオン/オフ切り替えを実行できるかどうかを指定します。

- **PHP セーフモード管理。** 顧客が自分のサイトで PHP セーフモードをオフに切り替えることができるかどうかを指定します。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するよう設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> <http://php.net/features.safe-mode>をご参照ください。Web アプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はホスティングアカウントプロパティで [PHP 'safe_mode' on] チェックボックスの選択を外してセーフモードをオフに切り替えてください (Hosting グループで [ドメイン] > [ドメイン名] > [設定] アイコン)。
- **サーバへの Shell アクセスの管理** カスタマが Secure Shell プロトコル経由でサーバ shell にアクセスし、自分の顧客にもそれを許可することができるかどうかを指定します。
- **ハードディスククォータ割り当て。** 顧客が自分の Web サイト用に、および顧客自身の顧客の Web サイト用にディスク空き容量でハードクォータを割り当てられるかどうかを指定します。
- **サブドメイン管理。** 顧客が自分のドメイン内で追加サイトを設定し、顧客自身の顧客にも追加サイトの設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ドメインエイリアスの管理。** 顧客が自分のドメイン内で代替ドメイン名を追加設定し、顧客のユーザにも代替ドメイン名の追加設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理。** 顧客が自分のサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **匿名 FTP 管理。** 顧客が自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用する為には、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **タスクのスケジューリング。** 顧客がシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **ドメイン制限調整。** 顧客が自身のアカウントのリソース割り当てを変更 (この手順のステップ 9 で説明されています) できるかどうかを指定します
- **DNS ゾーン管理。** 顧客が自分のドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。
- **Java アプリケーション管理** 顧客がコントロールパネルを使用して、Web サイトに Java アプリケーションおよびアプレットをインストールできるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理**顧客が GNU Mailman ソフトウェア提供のメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。

- **スパムフィルタ管理。**顧客が SpamAssassin ソフトウェア提供の SpamAssassin スパムフィルタ使用できるかどうかを指定します。
- **アンチウイルス管理。**顧客が送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **バックアップ/復元の許可。**顧客がコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。サーバへのバックアップファイルの保存を許可するには [ローカルリポジトリ] チェックボックスを選択し、顧客がバックアップを保存するのに任意の FTP サーバを使用するのに許可するには [リモート(FTP)リポジトリ] チェックボックスを選択します。
- **リモート XML インターフェースの使用機能。**顧客が自分の Web サイトを、カスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを指定します。Web サイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発に XML インターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がリセラーのサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。Plesk コントロールパネルの XML インターフェース (別名 Plesk API RPC) の使用方法の詳細は、
<http://download1.swsoft.com/Plesk/Plesk8.1/Doc/plesk-8.1-api-rpc/index.htm> をご参照ください。
- **ユーザインターフェース。**顧客が使用できるユーザインターフェースのタイプ、すなわち標準、デスクトップ、または両方から指定します。
- **デスクトップ管理。**顧客が自分のデスクトップインターフェースをカスタマイズできるかどうかを指定します。

13 [OK] をクリックします。

これで顧客にコントロールパネルへの URL とログイン認証を通知することができます。

ユーザアカウントの変更

- **顧客の IP プールから IP アドレスを追加または削除するには、以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なクライアント名をクリックします。
- 3 [IPプール] をクリックします。
 - IP アドレスを割り当てるには、[新規 IP アドレスの追加] をクリックして [利用可能な IP] ボックスでアドレスを選択し (キーボードの [Ctrl] ボタンを押したまま必要なアドレスを左クリックすると複数の IP アドレスを選択できます)、[OK] をクリックします。
 - IP アドレスを削除するには、該当するチェックボックスをチェックして、**X** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

- IP アドレスに SSL 証明書を割り当てるには、必要な IP アドレスをクリックし [SSL 証明書] ドロップダウンボックスで証明書を選択して [OK] をクリックします。
 - ユーザが IP アドレスを使用してサーバの Web リソースを参照した際に(同じ IP アドレスを共有するサイトのみ) 開く Web サイトを指定するには、[ホスティング] カラムの数字をクリックし、ドメイン名を選択して★ [デフォルトとして設定] をクリックします。
- **連絡先情報を更新したりコントロールパネルへのアクセスの為のパスワードを変更するには、以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なクライアント名をクリックします。
 - 3 [ツール] グループの [編集] アイコンをクリックします。
 - 4 必要に応じて情報を入力し、 [OK] をクリックします。
- **ユーザの FTP パスワードを変更するには、以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ホスティング] グループの [設定] アイコンをクリックします。
 - 4 [新規FTPパスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新規パスワードの入力と確認を行います。
 - 5 [OK] をクリックします。
- **顧客がコントロールパネルを通じて実行できる操作の権限を変更するには、以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なクライアント名をクリックします。
 - 3 [ツール] グループの [権限] アイコンをクリックします。
 - 4 必要な権限を入力し、 [OK] をクリックします。
- **顧客に追加でリソースを割り当てるには、以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なクライアント名をクリックします。

- 3 [ツール] グループの [制限] アイコンをクリックします。
 - 4 リソース割り当てを入力して、 [OK] をクリックします。
- ユーザのコントロールパネルインターフェース言語およびスキンを変更するには、以下を実行してください。
- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なクライアント名をクリックします。
 - 3 [ツール] グループの [選択設定] アイコンをクリックします。
 - 4 インターフェース言語、スキン、インターフェースのカスタマイズテンプレートを指定して [OK] をクリックします。

リセラーの顧客（ドメイン管理者）のアカウントの変更

- **リセラーの顧客がコントロールパネルにアクセスするのを許可するには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ツール] [ドメイン] [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
 - 4 [ドメイン管理者のアクセスを許可する] チェックボックスを選択し、コントロールパネルへのアクセスの為のパスワード（ドメイン管理者のログイン名が常にその人物自身のドメイン名となります）を入力し、連絡情報を入力してユーザがコントロールパネルを通じて実行できるようにする操作を指定します。
 - 5 [OK] をクリックします。

- **連絡先情報を更新したりコントロールパネルへのアクセスの為のパスワードを変更するには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ツール] [ドメイン] [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
 - 4 必要に応じて情報を入力し、 [OK] をクリックします。


- **ユーザのFTPパスワードを変更するには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ホスティング] グループの [設定] アイコンをクリックします。
 - 4 [新規FTPパスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新規パスワードの入力と確認を行います。
 - 5 [OK] をクリックします。

- **サイトオーナーがコントロールパネルを通じて実行できる操作の許可を変更するには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ツール] [ドメイン] [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
 - 4 必要な権限を入力し、 [OK] をクリックします。

- **サイトオーナーに追加でリソースを割り当てるには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ツール] グループの [制限] アイコンをクリックします。
 - 4 リソース割り当てを入力して、 [OK] をクリックします。

- **ユーザのコントロールパネルインターフェース言語およびスキンを変更するには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ツール] [ドメイン] [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
 - 4 インターフェース言語、スキン、インターフェースのカスタマイズテンプレートを指定して [OK] をクリックします。

多数のホスティングアカウントへの類似の変更の実行

- 多数のホスティングアカウントに対して同時にホスティングオプションを変更するには、以下を実行します。
- 1 必要なホスティングアカウントを選択します。
 - 複数のドメイン管理者アカウントを一度に変更するには、ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックして該当するドメイン名のチェックボックスを選択します。
または
 - 複数のクライアント管理者アカウントを一度に変更するには、ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックして該当するドメイン名のチェックボックスを選択します。
 - 2  [一括操作] をクリックします。
 - 3 [権限] セクション (クライアントアカウントの編集時にのみ有効です) にすべてのクライアント権限のリストが表示されます。クライアントのアクションの可用性を変更するには、[有効化] または [無効化] するために適切なラジオボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。
 - 4 [制限] セクションにはすべてのホスティングアカウントの制限が表示されます。制限を変更するには、リストの左側で適切なドロップダウンボックスを選択します。必要に応じて、設定を調整して下さい。
 - 制限を削除するには [無制限] を選択します。
 - 具体的な値で制限を設定するには [値] を選択して指定の値を数字で入力します。
 - [増加(+)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント) を選択して数値を入力し、指定の値 (具体的な単位またはパーセントで) だけ対応する限度を増加させます。
 - [減少(-)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント) を選択して数値を入力し、指定の値 (具体的な単位またはパーセントで) だけ対応する限度を減少させます。
 - 変更しない場合には [変更しない] 値が選択されたままにします。
 - 5 [ホスティング] セクション (ドメイン管理者アカウントの編集時にのみ有効です) にすべてのホスティングパラメータのリストが表示されます。ドメインの機能の可用性を変更するには、[有効化] または [無効化] するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。
 - 6 [選択設定] セクションにはすべてのホスティングアカウントの選択設定が表示されます。ドメインの機能の設定を変更するには、[有効化] または [無効化] するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。

- 7 [サービス] セクション（ドメイン管理者アカウントの編集時にのみ有効です）で様々なドメインサービスの可用性を定義することができます。それには、[有効化] または [無効化] するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。
- 8 [OK] をクリックします。

ユーザアカウントの保留と保留解除

- ユーザアカウントおよびユーザサイトを保留するには、以下を実行してください。
 - 1 [クライアント] に進んで必要なクライアント名をクリックします。
 - 2 [ツール] グループの [無効化] をクリックします。

ユーザおよびその顧客（サイトオーナー）によるコントロールパネルへのアクセスが拒否されます。ユーザのドメイン/Web サイトは保留され、インターネットユーザは、そのユーザの Web、FTP、メールサービスにアクセスできなくなります。
- ユーザアカウントおよびユーザサイトの保留を解除するには、以下を実行してください。
 - 1 [クライアント] に進んで必要なクライアント名をクリックします。
 - 2 [ツール] グループの [有効化] をクリックします。
- ドメイン管理者アカウントのドメイン/Web サイトを保留するには、以下を実行してください。
 - 1 [ドメイン] に進んで必要なクライアント名をクリックします。
 - 2 [無効化] をクリックします。

ドメインおよび Web サイトは保留されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。
- ドメイン管理者アカウントのドメイン/Web サイトを保留を解除するには、以下を実行してください。
 - 1 [ドメイン] に進んで必要なクライアント名をクリックします。
 - 2 [有効化] をクリックします。

ユーザアカウントの削除

- Web サイトを持つユーザアカウントを削除するには、以下を実行してください。
 - 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
 - 2 削除するユーザアカウントに該当するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] アイコンをクリックします。
 - 3 削除を確認して [OK] をクリックします。
すべてのユーザサイトを持つユーザアカウントがサーバから削除されます。

- Web サイトを持つサイトオーナーアカウントをサーバから削除するには、以下を実行してください。
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 削除するドメイン/Webサイトに該当するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 3 削除を確認して [OK] をクリックします。
ドメイン管理者のアカウントとドメイン/Webサイトに関連するすべてのデータがサーバから削除されます。

Web サイトのホスティング

ドメイン名の取得

インターネットで Web サイトを公開する前に、ドメイン名登録機関に一意のドメイン名を登録する必要があります。ドメイン名は記憶しやすい Web サイトアドレスにします。

Web サイトを訪れるには、ドメイン名（例：your-domain.com）または URL（例：http://www.your-domain.com）をブラウザのアドレスバーに入力します。要求されたサイトを表示するには、ブラウザはまずその要求されたドメイン名に対応する IP アドレスを見つける必要があります。IP アドレスにより表現されるマシンのアドレス、つまりドメイン名は人の手を介して作成されるからです。ブラウザは分散 DNS 内のネームサーバを照会し、DNS は要求されたドメイン名を IP アドレスに変換してブラウザに IP アドレスを返します。そして、ブラウザは指定の IP アドレスの Web サーバに接続し、そこから Web ページを取得します。このようにして他のユーザがドメイン名を使用してサイトを探せるようにするには、DNS にドメイン名を登録する必要があります。

サイトのドメイン名を選ぶ際は、自分のビジネス、ブランド名、興味に関連した言葉の組み合わせを考えましょう。ドメイン名は記憶しやすいものにします。ドメイン名がいくつかの単語から成る場合、ハイフンで区切る必要があるかもしれません。これはサーチエンジンがそれぞれの単語を識別するのを容易にするためであり、ユーザはより早くサイトを見つけることができます。

潜在的な顧客が自分の Web サイトを見つける可能性を高めるためには、同じドメイン名のハイフンがないバリエーションも購入しておく必要があるかも知れません。your-domain.com、your-domain.net などです。ドメイン名が1つの単語から成る場合でも、ユーザのミススペルやタイプミスも考慮して、オリジナルのサイトにポイントするミススペルのバリエーションで1つ以上のドメイン名を購入する必要もあるかも知れません。実際の例として、次のようなものがあります。オリジナルの Web サイトのアドレス www.google.com を持つ Google サーチエンジンです。単語の隣同士のアルファベットを間違えて入力したり、余計なアルファベットを入力したりすることは誰にでもあるので、追加で3つのドメイン名がオリジナルサイトをポイントするよう設定されています。 www.googel.com と www.goolge.com と www.google.com です。

適切なドメイン名を決めたら、ご自分でドメイン名登録機関に登録するかサービスプロバイダに依頼してください。登録費用は登録機関により異なります（通常、年間4～10米ドルです）。

サービスプロバイダがそのオプションを有効にしていれば、Plesk 経由でドメイン名を登録および管理することが可能です。

- Plesk 経由でドメイン名を登録するには、ホームページの [登録] アイコンをクリックします。MyPlesk.com の Web サイトが開き、段階を追ったウィザードで登録手続きができます。

- Plesk 経由でドメイン名を管理するには、ホームページの【管理】アイコンをクリックします。MyPlesk.com の Web サイトが開き、ログインしてドメイン名を管理することができます。

Webサイトのホスティングアカウントの設定

➤ サーバ上でWebサイトをホストするには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なクライアントをクリックします。
- 3 [新しいドメインの追加] をクリックします。
- 4 登録したドメイン名と同じものを指定します。 www.your-domain.com のような一般的なURLでユーザがWebサイトのアクセスできるよう許可するには、 [www] チェックボックスは選択したままにします。

ドメイン名の前に www エイリアスをつけたるのは無料でできますが、この場合はブラウザに入力した文字に関係なくユーザに Web サイトへのアクセスを許可することになります。 www.your-domain.com と your-domain.com、どちらも同じサイトをポイントします。

- 5 このクライアント向けにすでにドメインテンプレートを作成しすべてのホスティング機能とリソース利用割り当てを定義している場合（「ドメインおよびWebサイトの設定の単純化」 『ページ数106』の章で説明されています）、 [テンプレート選択] ボックスで必要なテンプレートを選択します。
- 6 選択先のIPアドレスの数がある場合、 [IPアドレスの選択] ドロップダウンボックスから必要なアドレスを選択します。

SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトはIPアドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることを忘れないでください。

- 7 [ホスティング設定に進む] チェックボックスがチェックされていることを確認して、 [OK] をクリックします。
- 8 自分のマシンでWebサイトをホストするには、 [物理ホスティング] オプションを選択します。

この操作が完了すると、コントロールパネルがこのマシンの新しいドメイン名となるドメイン名サーバを設定し、新しいWebサイトをサーバするWebサーバを準備します。適切なリソースレコードを持つ新しいゾーンファイルがドメイン名サーバの設定ファイルとして追加され、WebスペースがWebサーバのディレクトリ内に作成され、必要なユーザアカウントがサーバ上に作成されます。

注： サイトが他のマシンでホストされる場合、コントロールパネルの DNS サーバをサイトの DNS ゾーンのサブの為だけに使用するには、**【フレーム転送】**または**【標準転送】**オプションのいずれかを選択します。スタンダード転送では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へリダイレクトされていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずにリダイレクトされます。例えば、以下ようになります。顧客が無料の個人 Web サイトをインターネットサービスプロバイダまたは無料の Web ホストを利用して持っていて、その Web サイトのアドレスが<http://www.geocities.com/~myhomepage>の場合に、顧客は第 2 レベルのドメイン名www.myname.comを購入し、その Web サイトへのドメインの転送を希望したとします。このような場合では、通常**【フレーム転送】**サービスを選択します。詳細については「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」の章をご参照ください。

9 ホスティングアカウントのプロパティを指定します。

- **SSL 対応。** Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマース Web サイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかの Web サイトをホストする Web サーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとすると、ユーザに警告メッセージが表示されます。Web サイト用の SSL 暗号化を許可するには、**【SSL 対応】**チェックボックスを選択してください。
- **SSL コンテンツおよび非 SSL コンテンツを格納する為の単一のディレクトリの使用** デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（httpdocs ディレクトリ）を通じて全てのコンテンツを公開するのに便利なように、**【SSL および非 SSL コンテンツの格納用に単一ディレクトリの使用】**チェックボックスを選択してください。
- **FTP ログインおよび FTP パスワード** FTP 経由のサーバへのサイトを発行するのに使用するユーザ名およびパスワードを指定します。**【パスワードの確認】**ボックスでパスワードを再入力してください。

- **ハードディスククォータ。** このサイトの Web スペースに割り当てるディスク容量をメガバイト単位で指定します。これは、制限に達した場合にさらに多くのファイルを Web スペースに書き込めないようにする、いわゆるハードクォータです。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。ハードクォータはサーバのオペレーティングシステムで有効化されます。[ハードディスククォータ] フィールドで「ハードディスククォータ対応なし」という旨のコメントが表示されていて、ハードクォータを使用したい場合は、サーバシェルにログインしてコマンド `quotaon -a` を実行します。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへの Shell アクセス** これにより、サイトオーナーは Secure Socket Shell 接続を通じて信頼性を持って Web コンテンツをサーバにアップロードできます。ただし、Shell アクセスを許可することによってもサーバセキュリティに対する潜在的な脅威がもたらされます。そこで、Shell アクセスを許可しないことをお奨めします。[禁止] オプションを選択したままにしてください。
- **FrontPage 対応** Microsoft FrontPage は人気のある Web サイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、[FrontPage 対応] および [FrontPage over SSL 対応] チェックボックスを選択し、[FrontPage オーサリング] オプションを [有効] に設定して、[FrontPage 管理者ログイン] および [パスワード] を指定します。
- **動的 Web サイトおよびサーバサイド Web アプリケーションの開発に幅広く使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語が Web サーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Python、ColdFusion および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するよう設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。Web アプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はホスティングアカウントプロパティで [PHP 'safe_mode' on] チェックボックスの選択を外してセーフモードをオフに切り替えてください (Hosting グループで [ドメイン] > [ドメイン名] > [設定] アイコン)。
- **Web 統計。** ドメインおよび Web サイトオーナーがサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、[Web 統計] メニュー (AWStats がお勧めです) で統計プログラムを選択して [パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/ 経由でアクセス可能] チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインや Web サイトのオーナーは自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、URL <https://your-domain.com/plesk-stat/> にある Web 統計にアクセスできます。

注： 統計プログラムを切り替えた場合、前に使用していた統計プログラムで作成したレポートはすべて削除され、新しいレポートがログファイルから情報を読み取ることで作成されサーバに保存されます。つまり、1ヶ月間しかログファイルを保存しないようにシステムを構成（[ドメイン] > [ドメイン名] > [ログマネージャ] > [ログローテーション]）すると、Web統計は最後の1ヶ月間しか有効ではありません。

- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターがWebサーバが見つけれないページを要求する場合、Webサーバによりエラーメッセージを伴った標準のHTMLページが生成、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、[カスタムエラードキュメント]チェックボックスを選択します。

10 [OK] をクリックします。

これで、サーバが新しいWebサイトを格納する準備が整いました。サイトのオーナーはこのサーバ上でサイトを公開できます。Webサイトの公開方法については、このガイドの「サイトの公開」『ページ数142』セクションをご参照ください。

注： このドメイン名を他のWebホストから転送する場合、ドメイン名レジストラとともにホストDNSアドレスを更新し、自分のネームサーバにポイントされるようにする必要があります。レジストラのWebサイトにログインし、ドメインのホストのポインタを管理するのに使用するフォームを配置し、現在のDNSホスト設定を自分のネームサーバのホスト名で書き換えます。新しいネームサーバの情報は、48時間以内にDNSシステム全体に行き渡ります。



このサーバでホストされるサイトのポイント先として複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。詳しくは、「サイトの追加のドメイン名（ドメインエイリアス）の設定」セクションをご参照ください。

ご自分のマシンで他のサーバ上でホストされているサイトへのポイント先として複数のドメインをホストする必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。詳しくは、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」の章をご参照ください。

1つのサイトで消費可能なリソースの量の制限

デフォルトでは、ドメインテンプレートを使用せずに設定した新しいWebサイトは帯域幅（データ転送）とディスク容量を制限なしで消費できます。

➤ **サイトで消費できるリソースの量を制限するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [制限] アイコンをクリックします。
 - 4 必要に応じて、リソース使用量割り当てを調整します。
 - **サブドメインの上限数。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
 - **ドメインエイリアスの上限数。** サイトオーナーが自分のWebサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
 - **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されず、全てのドメインおよびWebサイトに関連する全てのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。Webサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。超過すると、ドメイン名やWebサイトは自動的に停止されることはなく、貴方とサイトオーナーのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックすると表示されるドメイン名のリストをご参照ください）。それによって、Webサイトで何をするかはご自身で決めることができます。
- a 支払いの猶予期間後にドメインオーナーに通知してドメインまたはWebサイトを停止することができます（営業上あまりいい方法ではありませんが、その方法をとる場合は「ホスティングアカウントおよびWebサイトの保留と保留解除」セクションをご参照ください）。
- または
- b 顧客のアカウントのアップグレード（アカウントのアップグレードについての詳細は「ユーザアカウントの変更」『ページ数124』のセクションをご参照ください）。
- **トラフィックの上限量。** 1ヶ月間にWebサイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。制限量に達すると、貴方とサイトオーナーのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックすると表示されるドメイン名のリストをご参照ください）。Webサイトをより多くの人々が訪れるようになりより多くの帯域幅が必要になった場合は、アカウントのアップグレードをご検討ください（「ユーザアカウントの変更」『ページ数124』のセクションに出てくるアカウントのアップグレードについての記述をご参照ください）。

- **Web ユーザの上限数。** ドメインオーナーが自身のドメインの下の他のユーザのためにホストできる個人 Web ページ数を指定します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、**[Web ユーザーへのスクリプトの使用の許可]** チェックボックスを選択します。詳細については「個人用 Web ページのホスティング」『ページ数170』のセクションをご参照ください。
- **データベースの上限数** 1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
- **メールボックスの上限数。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** 1つのドメイン内の各メールボックスに割り当てられるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メールフォワーダの上限数** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
- **メール自動応答の上限数。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
- **メーリングリストの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは GNU Mailman ソフトウェアで提供されますので、顧客が使用する前に GNU Mailman がインストールおよび設定されている必要があります。
- **Java アプリケーションの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメインにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの数上限数を指定します。
- **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメインおよび Web サイトは停止されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名や Web サイトを元の操作に戻す為に、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。ナビゲーションペインで **[ドメイン]** をクリックし、必要なドメイン名をクリックし、**[制限]** アイコンをクリックし、他の期間を **[有効期間]** ボックスに指定し、**[OK]** をクリックしてから、**[ツール]** グループの **[有効化]** アイコンをクリックします（**[ドメイン]** > **[ドメイン名]**）。

5 **[OK]** をクリックします。

サイトのオーナーにコントロールパネルへのログインを許可する

➤ **サイトのオーナーが自分の Web を管理する目的でコントロールパネルへログインするのを許可するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ツール] [ドメイン] [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
- 4 [ドメイン管理者にアクセスを許可する] チェックボックスを選択します。
- 5 サイトのオーナーがコントロールパネルへのアクセスに使用するパスワードを入力します。

セキュリティ上の理由から、パスワードは 9 文字以上とし、アルファベット、数字、記号の組み合わせにする必要があります。辞書に載っていないような言葉や固有名詞は避けましょう。

- 6 ユーザのコントロールパネル外観に関連する設定を指定します。インターフェース言語、テーマ（スキン）、サイトのオーナーによりコントロールパネル内のカスタムボタンに表示される文字数の制限などです。
- 7 サイトのオーナーがコントロールパネルで複数のセッションを同時に実行できるようにするには、[複数のセッションの許可] チェックボックスを選択したままにします。
- 8 [インターフェース画面が完全にロードされるまでコントロールパネルでユーザが操作するのを禁止する] チェックボックスを選択したままにしてください。

そうすると、ユーザはコントロールパネルの準備ができるまでデータを送信したり操作を実行することができないようになります。

- 9 サイトのオーナーが自分のコントロールパネルで実行できる操作を指定します。
 - **物理的ホスティング管理。** ホスティングアカウントおよび Web スペースの完全な制御を許可または禁止します。
 - **FTP パスワード管理。** ユーザが自分の FTP アカウントパスワードを変更するのを許可または禁止します。
 - **サーバへの Shell アクセスの管理** [クライアントに Shell アクセスを許可する権限を与えない] オプションは選択したままにするようお奨めします。
 - **ハードディスククォータ割り当て。** Web スペースに割り当てられているディスククォータをサイトオーナーが自分で調整できるようにします。
 - **サブドメイン管理。** サイトオーナーにサブドメインの設定、修正、削除を許可または禁止します。
 - **ドメインエイリアスの管理。** サイトオーナーに追加のドメイン名を Web サイトに設定することを許可または禁止します。

- **ログローテーション管理。** サイトオーナーが処理済みのログファイルのクリーンアップを調整したり再利用するのを許可または禁止します。
- **匿名 FTP 管理。** サイトオーナーが自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定するのを許可または禁止します。Anonymous FTP を使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP を使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **タスクのスケジューリング。** サイトオーナーがシステム内でタスクをスケジューリングするのを許可または禁止します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **DNS ゾーン管理。** サイトオーナーに自分のドメインの DNS ゾーンの管理を許可または禁止します。この許可は経験豊かなユーザにのみ推奨されます。
- **Java アプリケーション管理** サイトオーナーに Web サイト上での Java アプリケーションおよびアプレットのインストールを許可または禁止します。
- **メーリングリスト管理** サイトオーナーに GNU Mailman ソフトウェアで提供されるメーリングリストの使用を許可または禁止します。
- **スパムフィルタ管理。** サイトオーナーに GNU Mailman ソフトウェアで提供されるスパムフィルタの使用を許可または禁止します。
- **アンチウイルス管理。** サイトオーナーに送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護の使用を許可または禁止します。
- **バックアップ/復元の許可。** サイトオーナーがコントロールパネルの機能を使用して、自分のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。バックアップファイルをサーバに保存するのを許可するには【ローカルリポジトリ】チェックボックスを選択します。サイトオーナーが任意の FTP サーバを使用してバックアップを保存するのを許可するには、【リモート(FTP)リポジトリ】チェックボックスを選択します。
- **ユーザインターフェース。** 使用できるユーザインターフェースのタイプ(標準、デスクトップ、または両方)を表示します。
- **デスクトップ管理。** サイトオーナーがデスクトップインターフェースをカスタマイズおよび管理できるかどうかを示します。

10 サイトオーナーの連絡情報を指定します。

11 [OK] をクリックします。

これで、顧客にコントロールパネルの URL、ログイン、パスワードを伝えることができるようになりました。URL は https://<user's_domain_name>:8443 となり、<user's_domain_name>の部分は www エイリアスなしのドメイン名です。サイトオーナーは、コントロールパネルへのログインに必要なログイン名として自分のドメイン名を指定する必要があります（例：your-domain.com）。

サイトの公開

自分のサイトを公開するということは、サイトを構成する Web ページ、スクリプト、グラフィックファイルを自分の Web スペースにアップロードすることです。以下のいずれかの方法で行います。

- FTP 接続経由
- Plesk ファイルマネージャ経由
- セキュア Shell 接続経由（Linux および FreeBSD オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）
- Microsoft FrontPage ソフトウェア経由（Microsoft Windows オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）

FTP はファイルをアップロードするのに最もよく利用され、最も簡単な方法です。

FTP 経由でのファイルのアップロード




- 1 FTPクライアントプログラムでサーバに接続します。この際、ホスティングアカウントの設定時に指定した、またはプロバイダから取得したFTPアカウントの信用情報を使用します。
ファイアウォールを設定している場合は、パッシブモードを有効にします。
- 2 HTTPプロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリにアップロードし、SSLプロトコル経由でセキュアに転送するべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリにアップロードします。
- 3 CGIスクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。
- 4 FTPセッションを終了します。

Plesk ファイルマネージャ経由でのファイルのアップロード

➤ Plesk ファイルマネージャ経由でファイルをアップロードするには、以下を実行します。


- 1 Pleskコントロールパネルにログインします。
- 2 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 3 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 4 [ホスティング] グループの [ファイルマネージャ] アイコンをクリックします。
- 5 ファイルとディレクトリを作成し、アップロードします。


HTTP プロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリに配置し、SSL プロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリに配置します。CGI スクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。


- 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成するには、 [新しいディレクトリを追加] ボタンをクリックします。
- 必要なディレクトリに新しいファイルを作成するには、 [新しいファイルを追加] を追加します。[ファイル作成] セクションでファイル名を指定します。さらに、ファイルマネージャで新しいファイルに `html` タグを挿入できるようにするには、[html テンプレートを使用] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。新しいページが開くので、ここで新しいファイルのコンテンツ、つまり `html` 形式にフォーマットされたソースを入力します。完了したら、[OK] をクリックします。
- ローカルマシンからファイルをアップロードするには、 [新しいファイルを追加] をクリックし、[ファイルソース] ボックス（または [参照] ボタンでファイルの場所を指定します）でそのファイルの保存場所へのパスを指定して [OK] をクリックします。


Web コンテンツをファイルマネージャまたは FTP 経由でアップロードすると、コントロールパネルはファイルやディレクトリへの適切なアクセス権限を自動的に設定します。権限は「`rwX rwx r--`」などの文字の組み合わせの 3 セットで表現されます。最初のセットはそのファイルまたはディレクトリのオーナーがどのような権限を持つかを示しており、2 番目のセットはそのファイルまたはディレクトリが属するユーザグループとそのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限、3 番目のセットは他のユーザ（その際とを訪れたインターネットユーザなどのその他大勢）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を現しています。R はファイルまたはディレクトリを読み取る権限、W は書き込む権限、X はディレクトリ内のファイルまたは内観を決定する権限をそれぞれ意味します。


ファイルまたはディレクトリに対する許可を変更するには、[権限] 列でそのセットの許可を示すそれぞれのハイパーリンクをクリックします。必要に応じて権限を修正し [OK] をクリックします。


ファイルのソースコードを編集するには、 をクリックします。


ビルトインの Visual Editor 内の Web ページを編集するには (Microsoft Internet Explorer ユーザのみ利用可能)、 をクリックします。HTML ファイルを編集するときはデフォルトで Plesk は内部 WYSIWYG エディタを開きます。HTML ファイルのソースコードを編集するには [Html] をクリックします。WYSIWYG モードに戻るには [デザイン] をクリックします。

ファイルを表示するには  をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには  をクリックします。ここで新しい名前を入力して [OK] をクリックします。

ディレクトリやファイルを新しい位置にコピーまたは移動するには、チェックボックスを使って適切なディレクトリやファイルを選択して  [コピー/移動] をクリックします。ディレクトリやファイルがコピーされる先またはその名前を指定し、コピーをする場合は [コピー] を、移動する場合は [移動] をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには、 [タッチ] をクリックします。タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。

ファイルまたはディレクトリを削除するには、該当するチェックボックスを選択して  [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

SSH 接続によるサイトのアップロード

ローカルコンピュータ上で Linux または FreeBSD の OS を使用しサーバシェルにアクセスするには「scp」コマンドを使用してファイルやディレクトリをサーバにコピーします。ファイルをコピーするには `scp your_file_name login@remoteserver.com:path` を、ディレクトリ全体をコピーするには `scp -r your_directory_name login@remoteserver.com:path` を指定します。

すると、Plesk コントロールパネルに搭載されている SSH ターミナル Web アプリケーションを使用して、アカウント上のファイルやディレクトリで作業ができるようになります ([ドメイン] > [ドメイン名] > [SSH ターミナル]) 。

Microsoft FrontPage によるサイトの公開

Microsoft FrontPage は次の 2 つの Web サイトに対応しています。ディスクベースの Web サイトとサーバーベースの Web サイトです。ディスクベースのサイトとは、ローカルハードディスク上で作成した後に Web サーバに公開する FrontPage Web サイトのことです。サーバーベースのサイトとは、Web サーバ上で直接作成および作業する Web サイトで、別途の公開手続きが必要ありません。ここでは、ディスクベースの Web サイトの公開方法についてのみ説明します。

データベースの Web サイトは、FTP または HTTP を通じて公開できます。サーバが FrontPage Server Extensions を実行していれば、サイトを HTTP の場所に公開することになります 例えば、以下のようになります。 <http://your-domain.com/MyWebSite>。サーバが FTP をサポートしていれば、FTP の場所に公開することになります 例えば、以下のようになります。 <ftp://ftp.your-domain.com/myFolder>。

公開後、FrontPage Server Extensions によりサイトを管理できます。

➤ **FrontPage Server Extensions 管理インターフェースにアクセスするには、以下の操作を実行します。**

- 1 Pleskにログインします。
- 2 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 3 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 4 SSLによって保護されていないサイトを管理するには、 [FP Webadmin] をクリックします。 SSLが使用できるサイトを管理するには、 [FP-SSL Webadmin] をクリックします。
- 5 FrontPage管理者のログイン名とパスワードを入力し、 [OK] をクリックします。

FrontPage server extensions の使用方法については、オンラインヘルプ ([FP Webadmin] > [ヘルプ]) または Microsoft の Web サイトをご参照下さい。

Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由で公開

➤ **FTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

- 1 FrontPageプログラムを開きます。
- 2 FrontPageのWebサイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
- 3 [リモートWebサイト] ビューに行きます。 [Webサイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモートWebサイト] ボタンをクリックします。
- 4 [リモートWebサイトのプロパティ] を設定します。
 - ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
 - リモート Web サーバとして [FTP] を選択します。
 - [リモート Web サイトロケーション] ボックスに、ホスト名 (例 : <ftp://ftp.your-domain.com>) を入力します。
 - [FTP ディレクトリ] ボックスで、ホスティング会社から提供されたものがあれば FTP ディレクトリに入力します。 特定できるものがない場合は、空欄のままにしておいて下さい。
 - コンピュータまたはネットワークがファイアウォールによって保護されているときは、 [パッシブ FTP の使用] チェックボックスを選択して下さい。

- 5 [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。
[リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
- 6 ウィンドウの右下隅にある [Webサイトの公開] ボタンをクリックします。

Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由で公開

➤ **FrontPage Server Extensions をサポートするサーバ上にHTTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

- 1 FrontPage プログラムを開きます。
- 2 FrontPage の Web サイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
- 3 [リモート Web サイト] ビューに行きます。 [Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
- 4 ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
- 5 [リモート Web サーバタイプ] にある [リモート Web サイト] タブで、 [FrontPage または SharePoint Services] をクリックします。
- 6 [リモート Web サイトロケーション] ボックスで、フォルダやファイルを公開したいリモート Web サイトのインターネットアドレスをプロトコルを含めて (例えば、 <http://www.your-domain.com>) 入力するか、 [参照] をクリックしてサイトの位置を決めます。
- 7 次のいずれかを実行します。
 - 重要な情報を妨害から守る安全な通信チャネルを確立するため、Secure Sockets Layer (SSL) を使用するには、 [暗号化接続の要求(SSL)] をクリックします。 Web サーバ上で SSL 接続を行うには、公認認証局から機密保護証明を受けてサーバを設定しなければなりません。サーバが SSL をサポートしていないときは、このチェックボックスのチェックを外します。 そうしないと、フォルダやファイルをリモート Web サイトに公開できません。
 - Web ページを公開する際に特定のタイプのコードを削除するには、 [HTML の最適化] タブ上で希望のオプションを選択します。
 - 公開のためのデフォルト選択を変更するには、 [公開] タブ上で希望のオプションを選択します。
- 8 [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。
 [リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
- 9 ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。

Adobe Dreamweaver によるサイトの公開

Dreamweaver からサイトを公開する前に、サイトプロパティを定義する必要があります。つまり、Dreamweaver にサイトファイルがコンピュータのどこにあるかを知らせ、サイトを公開したいサーバを指定する必要があります。

➤ **Dreamweaver でサイトを定義するには以下を実行してください。**

- 1 [サイト] メニューから [新規サイト] をクリックします。 サイト定義画面が開きます。
- 2 [高度] タブをクリックします。
- 3 [ロケール情報] カテゴリで以下を指定します。
 - [サイト名]。これが Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。
 - [ローカルルートフォルダ]。すべてのサイトファイルが保存されているコンピュータのフォルダです。例えば、c:\My Site となります。
 - [デフォルト画像フォルダ]。サイトのグラフィックファイルが保存されているフォルダを指定します。例えば、c:\My Site\images となります。
 - [HTTP アドレス]。ドメイン名を指定します。例えば、<http://your-domain.com> となります。
- 4 [カテゴリ] メニューから [リモート情報] 項目を選択します。
- 5 [アクセス] メニューから [FTP] オプションを選択します。恐らく、貴方のサーバは FTP (ファイル転送プロトコル。通常、ファイルをインターネット上で転送するのに使用されます) 経由の公開をサポートしています。
- 6 以下の設定を指定します。
 - [FTP ホスト]。先頭に ftp:// を付けずに FTP ホスト名を入力します。例えば、your-domain.com となります。
 - [ホストディレクトリ]。サイトを置くサーバ上のディレクトリを指定します。ほとんどの場合、httpdocs です。
 - [ログイン名およびパスワード]。FTP アカウントにアクセスするログイン名とパスワードを指定します。
 - [受動 FTP の使用]。コンピュータがファイアウォール内であればこのオプションを選択します。
- 7 正しいログイン名およびパスワードが指定され、Dreamweaver がサーバに接続できることを確認するために、[テスト] ボタンをクリックします。
- 8 [OK] をクリックして設定を保存します。

➤ **サイトを公開するには以下を実行してください。**

- 1 Dreamweaverでサイトを開きます。
- 2 [サイト]メニューで[置く]オプションを選択します(またはCtrl+Shift+Uを同時に押します)。

サイトのプレビュー

サーバ上にサイトを公開したら、実際のホスティング環境で正しく機能しているか確認したいと思うかも知れません。たとえドメイン名に関する情報がドメインネームシステムに広がっていなくても、お好みのWebブラウザを通じてプレビューできます。ただし、プレビューにおいてはMacromedia FlashとCGIスクリプトは動作しません。

➤ **サイトをプレビューするには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ホスティング]グループの[サイトプレビュー]をクリックします。

データベースの配置

Web サーバにデータ処理アプリケーションを組み込むか、Web ページをダイナミックに生成させたい場合には、データを格納し検索するためのデータベースが必要になることでしょう。その場合、サイト用に新しいデータベースを作成するか、または以前に MySQL や PostgreSQL データベースにバックアップしたデータを取り込むことが可能です。

データベースの作成またはインポート

➤ **ホスティングアカウントに新しいデータベースを作成するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [データベース] をクリックします。
- 4 [新しいデータベースを追加] をクリックします。
- 5 データベースの名前を入力します。
名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします (64 文字まで)。
- 6 使用するデータベースタイプを選択します。データベースのタイプは、MySQL または PostgreSQL です。 [OK] をクリックします。
- 7 データベース管理者の信用情報を設定するには、[新しいデータベースユーザを追加] をクリックします。
- 8 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
- 9 [OK] をクリックします。

➤ **既存のデータベースを取り込むには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [データベース] をクリックします。
- 4 [新しいデータベースを追加] をクリックします。
- 5 データベースの名前を入力します。名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします (64 文字まで)。
- 6 使用するデータベースタイプを選択します。データベースのタイプは、MySQL または PostgreSQL です。 [OK] をクリックします。

- 7 データベース管理者の信用情報を設定するには、**【新しいデータベースユーザを追加】** をクリックします。
- 8 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 **【OK】** をクリックします。
- 9 **【ツール】** グループの **【DB WebAdmin】** アイコンをクリックします。
phpMyAdmin（またはphpPgAdmin）データベース管理ツールのインターフェイスが別のブラウザウィンドウに開きます。
- 10 左フレームにある **【Query window】** アイコンをクリックします。
- 11 **【ファイルのインポート】** タブをクリックします。
- 12 データが含まれているテキストファイルを選択し、**【進む】** をクリックします。
- 13 **【テキストファイルからデータを挿入】** リンクをクリックします。

データベースおよびそのコンテンツを管理するには、MySQL、PostgreSQL クライアントやPleskコントロールパネルからアクセスできるWebベースのデータベース管理ツール（**【ドメイン】**>**【ドメイン名】**>**【データベース】**>**【データベース名】**>**【DB WebAdmin】**）を使用して下さい。

データベースユーザアカウントの作成

Webサイトの管理を他の人たちと協力して行い、皆がデータベースにアクセスできるようにするには、別々のユーザアカウントを作成する必要があります。

- **データベースユーザアカウントを作成するには、以下を実行します。**
- 1 **【ドメイン】** > **【ドメイン名】** > **【データベース】** > **【データベース名】** に進み、**【新しいデータベースユーザを追加】** をクリックします。
- 2 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 **【OK】** をクリックします。

データベースユーザパスワードの変更

- **データベースユーザのパスワードを変更するには、以下を実行します。**
- 1 **【ドメイン】** > **【ドメイン名】** > **【データベース】** > **【データベース名】** > **【データベースユーザ名】** に進みます。
- 2 新しいパスワードを入力し **【OK】** をクリックします。

データベースユーザアカウントの削除

- データベースユーザアカウントを削除するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [データベース] をクリックします。
 - 4 データベース名をクリックします。 データベースユーザのリストが開きます。
 - 5 削除するユーザアカウントに対応するチェックボックスを選択します。
 - 6 **×** [選択対象を削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

データベースの削除

- データベースとそのコンテンツを削除するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [データベース] をクリックします。
 - 4 削除するデータベースに対応するチェックボックスを選択します。
チェックボックスが灰色に表示された場合、これはこのデータベースがサイトアプリケーションによって使用され、それぞれのアプリケーションを削除することによってのみ削除できることを意味します。
 - 5 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 6 削除を確認して [OK] をクリックします。

アプリケーションのインストール

Webサイトをゲストブック、フォーラム、カウンター、フォトギャラリー、Eコマースソリューションなどの価値ある機能を持ったものとするために、Plesk Webアプリケーションライブラリ（[ドメイン] > [ドメイン名] > [Webアプリケーション]）から各アプリケーションをインストールできます。

➤ **サイトにアプリケーションをインストールするには、以下の操作を実行します。**


- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Webアプリケーション] に進み、[新規アプリケーションのインストール] をクリックします。インストールできるサイトアプリケーションのリストが表示されます。
- 2 リストから必要なWebアプリケーションを選択し、[ターゲットドメイン]メニューからこのアプリケーションをインストールしたいドメインを選択します。

サイトアプリケーションのヘルプを表示するにはをクリックします。このサイトアプリケーションに関する一般情報などのヘルプページが別のブラウザウィンドウで開きます。


- 3 [インストール] をクリックします。一部のアプリケーションはライセンス契約を表示します。ライセンス契約を熟読し、同意した場合は[同意します] チェックボックスを選択して[次へ >>] をクリックします。
- 4 アプリケーションにハイパーリンクを作成し、コントロールパネルに設置するかどうかを指定します。
- 5 アプリケーションが要求するインストールの選択設定や他の情報を指定します（必要な条件はアプリケーションによって異なります）。終了したら[インストール] をクリックします。

アプリケーションがインストールされると、サイトのWebページ（例えばホームページ）にこのアプリケーションへのリンクを挿入できます。ここでリンクを挿入しないと、このアプリケーションを利用するためにはいつも、長すぎて覚えられないURLを入力しなければなりません。

➤ **アプリケーションのWebインターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**


- ブラウザにURLを入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com/forum/>。
- [ドメイン] > [ドメイン名] > [Webアプリケーション] に進み、必要なアプリケーションに対応するをクリックします。
- アプリケーションをインストールするとき、Pleskコントロールパネルにハイパーリンクボタンを追加するには、ドメイン管理画面（[ドメイン] > [ドメイン名]）またはナビゲーションペインにある各ボタンをクリックします。

- アプリケーションを再構成したりアプリケーション管理者のパスワードを変更するには、以下を実行してください。

[ドメイン] > [ドメイン名] > [Webアプリケーション] に進み、再構成したいアプリケーションに対応する  をクリックします。

- アプリケーションをアンインストールするには、以下の操作を実行します。
- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Webアプリケーション] に進み、必要のないアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。
 - 2 **×** [選択対象を削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

誰かがドメインに入ろうとするとある Web アプリケーションが起動するように設定するにはデフォルトドメインアプリケーションを作成します。

- アプリケーションをドメインのデフォルトに設定するには以下を実行してください。
- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Webアプリケーション] に進みます。
 - 2 デフォルトに設定したい Web アプリケーションに対応するチェックボックスを選択して  [デフォルト] をクリックします。確認のため [OK] をクリックします。

これで、ユーザがブラウザのアドレスフィールド内の URL (例: http://example.com) に入るとデフォルト Web アプリケーションが起動します。

Java Web アプリケーションのインストール

Java Web アプリケーションパッケージを Web アーカイブ形式 (WAR) でインストールできます。これらの Java アプリケーションは Plesk には同梱されておりませんので、別途入手する必要があります。

- Java Web アプリケーションをインストールするには以下を実行してください。

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進み、[有効化] をクリックします。

すると、Web サーバと連動する Java コードに環境を提供する Tomcat サービスが開始します。




- 2 [新しいアプリケーションをインストール] をクリックします。
- 3 インストールしたいアプリケーションパッケージへのパスを指定するか (コンピュータのハードドライブに保存している WAR 形式のアプリケーションパッケージでも構いません)、[参照] をクリックして検索し、[OK] をクリックします。

これで Java アプリケーションはインストールされ、そのアプリケーションのリストにそれぞれの項目が追加されます（ [ドメイン] > [ドメイン名] > [Web アプリケーション] > [Java アプリケーション] ）。


➤ **Java Web アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- [ドメイン] > [ドメイン名] > [Web アプリケーション] > [Java アプリケーション] タブに進み、 [パス] カラムにあるそれぞれのハイパーリンクをクリックします。
- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com:9080/storefront/>

➤ **Java Web アプリケーションを停止、開始、再開するには、以下を実行してください。**

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Web アプリケーション] > [Java アプリケーション] タブに進みます。インストールされたアプリケーションのリストが開きます。
- 2 リストでアプリケーションを検索し、リストの右側にあるアイコンを使用して必要な操作を行ってください。
 - アプリケーションを起動するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを停止するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを再起動するには、アイコン  をクリックします。

➤ **Java Web アプリケーションをアンインストールするには以下を実行してください。**

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Web アプリケーション] > [Java アプリケーション] タブに進みます。
- 2 不要になったアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。  [選択対象を削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

Ruby Web アプリケーションのインストール

Rub プログラミング言語で開発されたカスタム Web アプリケーションをサイトにインストールすることができます。

➤ **Ruby で記述されたアプリケーションをサイトにインストールするには以下を実行してください。**

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [設定] に進みます。
- 2 [CGI] および [FastCGI] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。

- 3 FTPアカウントに接続して /htdocsディレクトリに変更し、アプリケーションファイルを置くサブディレクトリを作成します。ここではそのディレクトリを分かりやすいように `your_application` とします。
- 4 アプリケーションファイルを `htdocs/your_application` ディレクトリにアップロードします。
- 5 このディレクトリにファイルを `.htaccess` という名前で作成し、好きなテキストエディタで開き以下の行を追加します。

```
RewriteEngine On RewriteRule ^$ /public/index.html [L]
RewriteCond %{REQUEST_URI} !^/your_application/public

RewriteRule ^(.*)$ /public/$1 [L] RewriteCond
%{REQUEST_FILENAME} !-f RewriteRule ^(.*)$
public/dispatch.fcgi/$1 [QSA,L]
```

- 6 ファイルを保存します。
- 7 ファイル `your_application/public/.htaccess` を削除します。
- 8 ファイル `your_application/public/dispatch.fcgi` をテキストエディタで開き以下の行を追加します。 `#!/usr/bin/ruby`
- 9 ファイルを保存します。

これで Web アプリケーションが以下の URL からアクセスできるようになります。

http://your-domain.com/your_application

SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護

クライアントが E-コマースビジネスを運営している場合、クライアントのサイトと顧客間でのトランザクションを安全に行うことが必要です。クレジットカード番号やその他の個人情報など価値の高いデータが盗まれないようにするためには、セキュアソケットレイヤープロトコルを使用して下さい。これはデータをすべて暗号化し、SSL 接続により安全に転送します。また、たとえ誰かが悪意でデータを傍受しても、そのデータを解読し使用することはできないでしょう。

Web サーバにセキュアソケットレイヤープロトコルを実装するには、信頼できる認証ベンダー（このようなベンダーを認証局という）から SSL 証明書を購入し、サイトにこの証明書をインストールして下さい。SSL 保護を有効にするには、他の Web サイトと共有しない専用の IP アドレス上にサイトを設置する必要があります。

認証局は多くありますので、その中から選んで下さい。選択時には認証局の評判や信用性を考慮します。認証局の運営年数や顧客数などについて調べておくと、選択時に役立つことでしょう。

Plesk コントロールパネルでは、GeoTrust, Inc から SSL 証明書を購入できるようになっています。


SSL 証明書をジオトラスト社から入手してインストール

- *MyPleskCom* オンラインストアを通じて SSL 証明書を購入し、サイトを保護するには、以下の操作を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [証明書] をクリックします。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
 - 4 [新しい証明書の追加] をクリックします。
 - 5 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにしてください。例：www.your-domain.com。
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。
 - 6 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
 - 7 [証明書の購入] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成されますので、これは削除しないでください。MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。
 - 8 既存の MyPlesk.com アカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
 - 9 購入したい証明書の種類を選択します。
 - 10 [購入する] をクリックし、証明書を注文します。[承認者メールアドレス] ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。
 - 11 承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。
 - 12 証明書リクエストが処理されるとジオトラスト社から確認のメールが送信されます。ユーザからの確認を受け取った後、そのユーザのメールアドレス宛に証明書を送信します。
 - 13 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
 - 14 SSL 証明書レポジトリへ戻ります（ [ドメイン] > [ドメイン名] > [証明書] ）。

- 15 ページの中央にある **【参照】** をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。証明書をクリックし、**【ファイル送信】** をクリックします。対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。
- 16 ドメイン管理者画面に戻り（ **【ドメイン】** > **【ドメイン名】** ）、**【ホスティング】** グループにある **【設定】** をクリックします。
- 17 **【証明書】** ドロップダウンボックスからインストールするSSL証明書を選択します。

ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は **【証明書】** ドロップダウンボックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用IPアドレスを購入する必要があります。
- 18 **【SSLサポート】** チェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。

SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール

- **他の認証局からの SSL 証明書を使用してサイトを保護するには、以下の操作を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [証明書] をクリックします。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
 - 4 [新しい証明書の追加] をクリックします。
 - 5 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにしてください。例：www.your-domain.com。
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。
 - 6 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
 - 7 [リクエスト] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、レポジトリに格納されます。
 - 8 証明書署名リクエスト (CSR) ファイルをダウンロードし自分のマシンに保存します。その実行には、それぞれの  アイコンをクリックします。
 - 9 ダウンロードが完了したら、ファイルをテキストエディタで開き、-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- と -----END CERTIFICATE REQUEST----- で囲まれたテキストをクリップボードにコピーします。
 - 10 お好みのメールクライアントソフトウェアを使用し、新しいメールメッセージを作成し、テキストをクリップボードから貼り付けます。このメッセージを認証局に送信します。認証局はあなたが提供した情報に応じて SSL 証明書を作成します。
 - 11 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
 - 12 SSL 証明書レポジトリへ戻ります（ [ドメイン] > [ドメイン名] > [証明書] ）。

- 13 ページの中央にある **【参照】** をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。証明書をクリックし、**【ファイル送信】** をクリックします。対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。
- 14 ドメイン管理者画面に戻り（ **【ドメイン】** > **【ドメイン名】** ）、**【ホスティング】** グループにある **【設定】** をクリックします。
- 15 **【証明書】** ドロップダウンボックスからインストールするSSL証明書を選択します。

ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は **【証明書】** ドロップダウンボックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用IPアドレスを購入する必要があります。
- 16 **【SSLサポート】** チェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。

無料の自己署名 SSL 証明書の作成とインストール

顧客が証明書を購入する必要がなく、接続セキュリティが必要になる場合、自己署名証明書を作成し、Web サーバにインストールできます。この機能によりデータを暗号化できますが、顧客のブラウザには、認証された機関により証明書が発行されていないことを伝える警告メッセージが表示されます。このように、自己署名証明書の使用は顧客から信用を得られず、クライアントのオンライン販売に悪影響を及ぼす可能性があるため、推奨されません。

➤ **サイトを自己署名 SSL 証明書で保護するには、以下の操作を実行します。**

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [証明書] に進んで [新しい証明書の追加] をクリックします。
- 2 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。 SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。 1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。 入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメイン名を指定します 例えば、以下のようになります。
(www.your-domain.com) 。
 - ドメインオーナーのメールアドレスを入力します。
1. [自己署名] ボタンをクリックします。 証明書が生成され、リポジトリに格納されます。
- 3 ドメイン管理者画面に戻り（ [ドメイン] > [ドメイン名] ）、 [ホスティング] グループにある [設定] アイコンをクリックします。
- 4 [証明書] ドロップダウンボックスから、自己署名 SSL 証明書を選択します。

ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は [証明書] ドロップダウンボックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
- 5 [SSLサポート] チェックボックスを選択し、 [OK] をクリックします。

証明書をサイトからアンインストール

- *証明書をサイトからアンインストールし、SSL 保護を無効にするには、以下の操作を実行します。*
- 1 削除する必要がある証明書が使用中でないことを確認します。
 - 2 [ドメイン] > [ドメイン名] > [設定] に進みます。 [証明書] ドロップダウンボックスに、現在使用中のSSL証明書が表示されます。
 - 3 削除が必要な証明書が現在使用中の場合は、まずこの証明書をリリースしてください。 [証明書] ドロップダウンボックスで別の証明書を選択し [OK] をクリックします。
 - 4 レポジトリから証明書を削除します。
 - 5 証明書をレポジトリから完全に削除するには、[ドメイン] > [ドメイン名] > [証明書] に進み、必要のなくなった証明書に対応するチェックボックスを選択して、**×** [選択対象を削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。
 - 6 SSLサポートが不要になった場合は、無効にします。
 - 7 [ドメイン] > [ドメイン名] > [設定] に進みます。
 - 8 [SSLサポート] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限

許可されたユーザにのみ表示されるディレクトリをサイトに作成する場合、これらのディレクトリへのアクセスをパスワード保護で制限します。

リソースの保護

- **サイト内のディレクトリをパスワード保護し、許可されたユーザを指定するには、以下の操作を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
 - 4 [新しいディレクトリの追加] をクリックします。
 - 5 パスワード保護の必要なディレクトリのパスを指定します。
これは、例えば `/private` のように、サイト内に存在するディレクトリになります。保護の必要なディレクトリが作成されていない場合、パスとディレクトリ名を指定すると、自動的に作成されます。
 - 6 パスワードで保護されたディレクトリの現在または今後の配置先（別名ドキュメントroot）を指定します。例えば、以下のようになります。
 - `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [非 SSL] チェックボックスを選択します。
 - `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [SSL] チェックボックスを選択します。
 - `cgi-bin` ディレクトリに保存された CGI スクリプトを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスの「/」をそのままにして [cgi-bin] チェックボックスを選択します。スラッシュ記号の後に空白は入っていないか確認してください。空白が入っている場合、空白を含む名前保護付きディレクトリが作成されます。
 - 7 [ヘッダーテキスト] ボックスに、リソースの詳細または管理者の顧客が保護付き領域を訪問したときに表示されるウェルカムメッセージを入力します。
 - 8 [OK] をクリックします。指定したディレクトリは保護されます。
 - 9 許可されたユーザを追加するには、[新規のユーザを追加] をクリックします。
 - 10 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5~14個の記号を使用します。 [OK] をクリックします。
 - 11 この保護されたリソースに対して、許可されたユーザを追加するには、ステップ7と8を繰り返します。

許可されたユーザの指定

➤ **保護されたディレクトリに認証ユーザを追加するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
- 4 必要なディレクトリ名をクリックします。
- 5 [新規ユーザの追加] アイコンをクリックします。
- 6 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5~14個の記号を使用します。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **保護されたディレクトリに許可されたユーザのパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
- 4 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
- 5 ユーザ名をクリックします。
- 6 新しいパスワードを指定し、確認のために再入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **ユーザが保護されたディレクトリにアクセスするための権限を無効にするには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
- 4 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
- 5 ユーザ名に対応するチェックボックスを選択します。
- 6 **✗** [選択対象を削除] をクリックします。操作を確認して [OK] をクリックします。

リソースの非保護

- パスワード保護を削除し、リソースを一般ユーザが利用できるようにするには、以下の操作を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。パスワードで保護されたディレクトリのリストが開きます。
 - 4 保護を削除するディレクトリ名に対応するチェックボックスを選択します。
 - 5 **×** [選択対象を削除] をクリックします。保護が削除され、ディレクトリの内容は無制限に一般に公開されます。

サブドメインを含むサイト構造の編成

サブドメインは以下の作業を可能にする、補足的なドメイン名です。

- サイトの構造の論理的な編成
- 同じサーバ上の追加 Web サイトまたは Web サイトの一部をホストし、追加ドメイン名の登録に要する支払いを節減できます。

サブドメインを使用した例を以下に示します。

Web サイト `your-product.com` を、ソフトウェア製品の販売促進専用のサイトに設定しているとします。ユーザーズガイド、チュートリアル、よくある質問のリストを公開する場合、管理者のユーザがドメイン名 `userdocs.your-product.com` に直接アクセスしてオンラインドキュメントにアクセスできるように、サブドメイン「`userdocs`」を編成することができます。

サブドメインの設定

➤ **サブドメインを設定するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サブドメイン] アイコンをクリックします。
- 4 [新規サブドメインの追加] アイコンをクリックします。
- 5 任意のサブドメイン名を入力します。サイトのトピック、組織の部署、またはその他の文字、数字、ハイフンの組み合わせなどを入力できます（最長63文字）。

サブドメイン名の先頭文字はアルファベット文字です。サブドメイン名は大文字と小文字を区別します。

- 6 このサブドメインが管理者が独自に管理している管理者用の Web サイトを部分的に保有している場合、[親ドメインのFTPユーザアカウントを使用] オプションを選択したままにしておきます。このサブドメインが、別の人物に属する、または別の人物により管理される別の Web サイトを保持している場合、[このサブドメインに別のユーザアカウントを作成する] オプションを選択し、FTPを通じて Web スペースにアクセスし、Web サイトのコンテンツを公開する場合に使用するログイン名とパスワードを指定します。
- 7 このサブドメインがセキュアなトランザクションを要求する場合、[SSLサポート] チェックボックスを選択します。これにより、親ドメインの下でインストールされた SSL 証明書が、暗号化トランザクションに使用されます。

デフォルトでは、ユーザがサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。便宜上、単一の場所すなわち httpdocs ディレクトリを通じてすべてのコンテンツを公開する方法を選択できます。このために、**【SSL および非 SSL コンテンツの格納用に単一ディレクトリを使用する】** チェックボックスを選択します。

- 8 Webサイトを作成する際に使用するプログラミング言語を指定します。これを指定しない場合、Webサイトが正しく機能しない場合があります。

例えば、Webサイトが主に ASP で作成され、アプリケーションヴォルトのアプリケーションなど（**【ホーム】 > 【ドメイン名】 > 【アプリケーションヴォルト】**）、PHP で作成された複数のアプリケーションを使用している場合、**【ASP サポート】** チェックボックスと **【PHP サポート】** チェックボックスを選択します。

- 9 このサブドメイン内の Web コンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、**【ハードディスククォータ】** ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

指定された制限を超えた場合、Web スペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集にファイルが破損する場合があります。

- 10 **【OK】** をクリックして設定を完了します。新しいサブドメインに関する情報がドメイン名システム（DNS）内に伝わり、インターネットユーザが利用できるようになるまで、最大48時間を要します。

サブドメインの Web スペースに Web コンテンツを公開するには、**【サイトの公開】** 『ページ数142』のセクション内の手順に従って下さい。

サブドメインの削除

- **サブドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの **【ドメイン】** ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 **【サブドメイン】** をクリックします。
- 4 削除するサブドメイン名に対応するチェックボックスを選択し、**✗【選択対象を削除】** アイコンをクリックします。
- 5 削除を確認して **【OK】** をクリックします。サブドメインのコンフィグレーションとその Web コンテンツがサーバから削除されます。

サイトの追加ドメイン名の設定（ドメインエイリアス）

ドメイン名レジストラに、サーバでホストしている同一の Web サイトを示す複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。

別のサーバでホストされる Web サイトを示す複数のドメイン名を提供する必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。手順については、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」『ページ数181』セクションをご参照ください。

ドメインエイリアスの設定

➤ **ドメインエイリアスを設定するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ドメインエイリアス] アイコンをクリックします。
- 4 [ドメインエイリアスを追加] アイコンをクリックします。
- 5 希望するドメインエイリアス名を入力します(例 : alias.com)。

ドメインエイリアスには、文字、数字、ハイフンを使用できます。ドメインエイリアスのドット間の各部分には、63 個以下の記号を使用します。

- 6 ドメインエイリアスでプライマリドメインと同じ DNS ゾーンリソースレコードを使用したい場合は、[DNS ゾーンをプライマリドメインと同期化] チェックボックスを選択します。この設定により、今後プライマリドメインゾーンのリソースレコードに変更があった場合、それがこのドメインエイリアスの DNS ゾーンに適用されます。
- 7 ドメインエイリアスの下のメールアドレスで送信されたメールを、オリジナルドメイン名の下のメールアドレスにリダイレクトする場合、[メール] チェックボックスを選択します。

例 : mail@yourdomain.com というメールアドレスを保有し、ドメイン名に alias.com などのエイリアスを設定しているとします。この場合、mail@alias.com に送信された、メールボックス mail@yourdomain.com へのメールを受け取るには、[メール] チェックボックスを選択します。

- 8 [Web] チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ブラウザにドメインエイリアスを入力して管理者のサイトを訪問したユーザに、Web コンテンツを表示しません。
- 9 サイトに Java アプリケーションをインストールしていて、ドメインエイリアスからアクセスできるようにしたい場合は、[Java Web アプリケーション] チェックボックスを選択します。
- 10 [OK] をクリックします。

ドメインエイリアスのプロパティの変更

➤ エイリアスのプロパティを変更するには、以下の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ドメインエイリアス] アイコンをクリックします。
- 4 必要なエイリアス名をクリックします。
- 5 [ツール] グループの [選択設定] アイコンをクリックします。

➤ ドメインエイリアスの DNS ゾーンのリソースレコードを変更するには、以下の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ドメインエイリアス] をクリックします。
- 4 必要なエイリアス名をクリックします。
- 5 [DNS設定] をクリックします。
- 6 必要に応じてリソースレコードを追加、編集、削除します。
 - ゾーンにリソースレコードを追加するには、[新規レコードの追加] をクリックします。必要な値を指定し、[OK] をクリックしてゾーンに値を書き込みます。
 - リソースレコードを変更するには、[ホスト] 列で必要なレコードに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - レコードを削除するには、削除するレコードに対応するチェックボックスを選択し **X** [選択対象を削除] をクリックします。

ドメインエイリアスの削除

➤ ドメインからエイリアスを削除するには、以下の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ドメインエイリアス] アイコンをクリックします。
- 4 削除したいドメインエイリアスに対応するチェックボックスを選びます。
- 5 **X** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング

専用のドメイン名を必要としない個人の個人用 Web ページは、管理者 Web サーバでホストできます。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関で使用されています。

これらのページの Web アドレスは、通常は<http://your-domain.com/~username>のようになりますが、<http://username@your-domain.com>など、必要に応じて別の Web アドレスで個人用 Web ページを設定できます。

➤ **サーバで個人用 Web ページを追加するには、別の Web スペースを割り当て、公開用の FTP アカウントを設定します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [Web ユーザ] アイコンをクリックします。
- 4 [選択設定] をクリックします。
- 5 デフォルトでは、個人用の Web ページのアドレスは <http://your-domain.com/~username> のようになります。
<http://username@your-domain.com> など、別の Web アドレスを使用した個人用 Web ページへのアクセスを許可する場合、 [webuser@example.com アクセス形式を許可] チェックボックスを選択します。
- 6 個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、 [Web ユーザーへのスクリプトの使用の許可] チェックボックスを選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

ステップ 3 と 4 で定義した設定は、管理者の Web サーバでホストするすべての個人用 Web ページに共有です。従って、次に個人用 Web ページの Web スペースを設定する場合は、ステップ 3 と 4 を実行する必要はありません。

- 8 [新しい Web ユーザを追加] をクリックします。
- 9 FTP を使用して Web スペースにアクセスし、Web ページを公開する場合に使用するユーザ名とパスワードを指定します。

ユーザ名には小文字の英数字、ハイフン、アンダースコア記号のみ使用できます。ユーザ名の先頭文字はアルファベット文字です。空白を含めることはできません。パスワードにはクォーテーションマーク、空白、ユーザのログイン名を使用できません。長さは 5~14 文字とします。

- 10 Web ページでサポートされるプログラミング言語を指定します。

例えば、Web ページが PHP で作成されている場合、 [PHP サポート] チェックボックスを選択します。

- 11 このWebページコンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、
[ハードディスククォータ] ボックスに必要な値をメガバイトで入力し
ます。

ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

- 12 [OK] をクリックします。

これで、FTP アカウントの信用情報がユーザに伝えられ、ユーザが自分の Web ページを
公開できるようになります。

Web ページオーナーの FTP パスワードの変更

- Web ページオーナーの FTP パスワードを変更するには、以下の操作を実行し
ます。

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Webユーザ] > [Webユーザ名] に進み
ます。
- 2 [新規パスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新し
いパスワードの入力と確認を行い、[OK] をクリックします。

Web ページオーナーへのディスク容量の割り当ての増加

- Web ページオーナーへのディスク容量割り当てを増やすには、以下を実行し
てください。

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [Webユーザ] に進み、処理したいWeb
ユーザをクリックします。
- 2 [ハードディスククォータ] ボックスにディスク容量をメガバイトで入
力し、[OK] をクリックします。

Web ページオーナーのアカウントの削除

- Web ページオーナーのアカウントをそのWeb ページとともに削除するには、
以下の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ホスティング] グループの [Webユーザ] をクリックします。
- 4 削除するユーザ名の右側にあるチェックボックスを選択し、**×** [選択対
象を削除] アイコンをクリックします。
- 5 削除を確認して [OK] をクリックします。

サーバへの anonymous FTP アクセスの設定

専用の IP アドレス上のサイトをホストしている場合、他のユーザが FTP を使用して匿名でファイルをダウンロードまたはアップロードできるディレクトリを、サイト内に設定できます。anonymous FTP が有効になると、ユーザは「anonymous」ログイン名と任意のパスワードを使用して<ftp://ftp.your-domain.com>にログインできるようになります。

➤ **anonymous FTP アクセスを許可するには、以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [Anonymous FTP] アイコンをクリックします。
- 4 anonymous FTP サービスを有効にするには、[有効化] をクリックします。
- 5 ユーザが FTP サイトにログインしたときに表示されるウェルカムメッセージを設定するには、[ログインメッセージを表示する] チェックボックスを選択し、入力フィールドに任意にメッセージテキストを入力します。

全ての FTP クライアントがウェルカムメッセージを表示するとは限りません。

- 6 ビジターに /incoming ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、[incoming ディレクトリへのアップロードを許可する] チェックボックスを選択します。
- 7 ビジターに /incoming ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、[incoming ディレクトリへのアップロードを許可する] チェックボックスを選択します。
- 8 /incoming ディレクトリへのサブディレクトリの作成をユーザに許可するには、[incoming ディレクトリ内でのディレクトリ作成を許可する] チェックボックスを選択します。
- 9 アップロードされたファイルが使用できるディスク容量を制限するには、[incoming ディレクトリのディスク容量を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスをクリアし、容量をキロバイトで指定します。

これがハードフォータです。この制限に達したとき、ユーザはディレクトリにファイルを追加できなくなります。

- 10 anonymous FTP サーバへの同時接続数を制限するには、[同時接続の数を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスをクリアし、許可される接続数を指定します。

- 11 anonymous FTP接続の帯域幅を制限するには、**【このバーチャルFTPドメインのダウンロード帯域幅を制限する】** オプションに対応する **【無制限】** チェックボックスをクリアし、最大帯域幅を1秒当たりのキロバイト数で入力します。
 - 12 **【OK】** をクリックします。
- **anonymous FTP サーバの設定を変更する、または anonymous FTP サーバをオフにするには、以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの **【ドメイン】** ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 **【Anonymous FTP】** アイコンをクリックします。
 - 4 必要に応じて設定を調整し **【OK】** をクリックします。Anonymous FTP サービスを無効にするには、**【ツール】** グループの **【無効化】** アイコンをクリックします。

Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ

サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成、表示されます。標準のエラーメッセージにより問題が伝えられる場合がありますが、通常は問題の解決方法または問題の発生したビジターが通常の作業に戻る方法は述べられず、明確になりません。

個人用のエラーページを作成し、個人の Web サーバで使用することができます。Plesk では、以下のエラーメッセージをカスタマイズできます。

- 400 Bad File Request. 通常は URL で使用される構文の間違い（大文字は小文字にする、句点の間違いなど）を意味します。
- 401 Unauthorized サーバはクライアントからの暗号化キーを要求していますが取得できません。また、入力したパスワードが間違っている場合があります。
- 403 Forbidden/Access denied 401 に類似したエラーです。サイトにアクセスするために特別な許可（登録の場合にはパスワードおよび/またはユーザ名）が必要になります。
- 404 Not Found サーバは要求されたファイルを検索できません。ファイルは移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が間違っています。これは最も一般的なエラーです。
- 500 Internal Server Error サーバコンフィグレーション上の問題により、HTML 文書を取得できませんでした。

➤ **ドメインのカスタムエラーページを表示するように Plesk の Web サーバを設定するには、以下の操作を実行します。**

- 1 Plesk でカスタムエラー文書のサポートをオンにします。
 1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 2. リストから必要なドメイン名をクリックします。
 3. [設定] をクリックします。
 4. [カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択します。
 5. [OK] をクリックします。
- 2 Plesk にリモートアクセスする場合、Plesk サーバの自身の FTP アカウントに接続し `error_docs` ディレクトリに移動します。Plesk にローカルアクセスする場合、ディレクトリ `/vhosts/your-domain.com/error_docs/.` に移動します。
- 3 各ファイルを編集または置き換えます。正しいファイル名が維持されていることを確認します。
 - 400 Bad File Request - `bad_request.html`
 - 401 Unauthorized - `unauthorized.html`

- 403 Forbidden/Access denied - forbidden.html
 - 404 Not Found - not_found.html
 - 500 Internal Server Error - internal_server_error.html
- 4 Webサーバを再起動するか、Webサーバの再起動が始まるまで数時間待機します。その後、Webサーバはエラードキュメントを使用して起動します。

ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ

新しいドメイン名ごとに、コントロールパネルにより、定義した設定事前設定に従って自動的に DNS ゾーンが作成されます。ドメイン名は自動設定に適合する必要がありますが、ドメイン名ゾーンのカスタム変更を実行する必要がある場合、これをコントロールパネルを使用して行うことができます。

リソースレコードの表示

- **ドメインの DNS ゾーンのリソースレコードを表示するには、以下の操作を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。画面に所定のドメインの全てのリソースレコードが表示されます。

リソースレコードの追加

➤ ゾーンに新しいリソースレコードを追加するには、以下の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [新しいレコードを追加] アイコンをクリックします。
- 5 リソースレコードのタイプを選択し、適切なデータを指定します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために A レコードを設定する場合は、入力フィールドは空欄にして下さい。A レコードをネームサーバのために設定する場合は、ネームサーバのための適切な入力(例: ns1)をする必要があります。次に適切なドメイン名と関連づける IP アドレスを入力します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために NS レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にして下さい。次に適切なネームサーバの名前を入力フィールドに入力します。この名前はフルネームである必要があります(例: ns1.myname.com)。
 - MX レコードでは MX レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために MX レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にして下さい。次にメールエクスチェンジャを入力します。これはあなたのメールサーバの名前です。リモートで 'mail.myhostname.com' という名前のメールサーバを稼働させている場合は、'mail.myhostname.com' と入力フィールドに入力します。次にメールエクスチェンジャの優先度を設定する必要があります。ドロップダウンボックスを使用して、優先度を選択します。0 が最高の優先度、50 が最低の優先度となります。リモートのメール交換サーバを使用する場合は、適切な A レコードおよび/または CNAME レコードを追加する必要があります。
 - CNAME レコードでは、まず CNAME レコードを作成するエイリアスドメイン名を入力します。次にエイリアスをつけるドメイン名を入力します。どのようなドメイン名を入力することも可能です。これは同じサーバ上である必要はありません。
 - PTR レコードでは、まずポインタを設定する IP アドレス/マスクを入力します。次にこの IP を移送する適切なドメイン名を入力します。
 - TXT レコードでは、SPF レコードの説明など、任意のテキスト文字列を入力できます。
- 6 [OK] をクリックしてデータを送信します。

リソースレコードの変更

- リソースレコードのプロパティを修正するには、以下の操作を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [DNS] アイコンをクリックします。
 - 4 修正したいリソースレコードに対応する [ホスト] 列内のハイパーリンクをクリックします。
 - 5 必要に応じてレコードを修正し [OK] をクリックします。
- ドメインの SOA レコード内のエントリを修正するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [DNS] アイコンをクリックします。
 - 4 [SOA 選択設定] をクリックします。
 - 5 希望する値を指定します。
 - [TTL] 他の DNS サーバがそのレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 日です。
 - [更新] セカンダリネームサーバがプライマリネームサーバに対して、ドメインゾーンのファイルへ何か変更が加えられたかどうかを確認する頻度です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
 - [再試行] セカンダリサーバが失敗したゾーン転送を再試行するまで待つ時間です。この時間は更新インターバルよりは短いのが普通です。Plesk のデフォルト値は 1 時間です。
 - [期限切れ] そのゾーンが変更または更新されなかった場合、更新インターバルが経過した後、セカンダリサーバが問い合わせに回答するのを止めるまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 週間です。
 - [最小値] セカンダリサーバが負の応答をキャッシュするまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
 - 6 [OK] をクリックします。

リソースレコードの削除

- **ゾーンからリソースレコードを削除するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [DNS設定] をクリックします。
 - 4 削除したいレコードに対応するチェックボックスを選びます。
 - 5 **✕** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 6 削除を確認して [OK] をクリックします。

元のゾーン設定の復元

- **サーバ規模のDNS設定に従って、元のゾーン設定を復元するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
 - 4 [IPアドレス] ドロップダウンボックスで、そのゾーンを復元するために使うIPアドレスを選択して、wwwエイリアスがそのドメインに必要なかどうかを指定して [デフォルト] ボタンをクリックします。ゾーン設定が再作成されます。

外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給

このサーバ上で Web サイトをホスティングし、そのサイトのプライマリ（マスタ）ネームサーバとして機能するスタンドアロン DNS サーバがある場合は、コントロールパネルの DNS サーバが、セカンダリ（スレーブ）ネームサーバとして機能するように設定する必要があることもあります。

➤ **コントロールパネルの DNS サーバをセカンダリネームサーバとして機能させるには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [DNS設定] をクリックします。
- 4 [ツール] グループの [切り替え] をクリックします。
- 5 プライマリ（マスタ）DNSサーバのIPアドレスを指定します。
- 6 [追加] をクリックします。
- 7 サーバ上でセカンダリネームサーバを持つ必要があるWebサイトごとに、1から5のステップを繰り返します。

➤ **コントロールパネルの DNS サーバをあるゾーンのプライマリとして機能させるには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [DNS設定] をクリックします。
- 4 [ツール] グループの [切り替え] をクリックします。そのゾーンの元のリソースレコードが復元されます。

Web サイトの中に外部ネームサーバ権限を持つものがある場合、外部ネームサーバによって使用されるサイトごとのコントロールパネル DNS サービスをオフにします。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [DNS設定] をクリックします。
- 4 [ツール] グループの [無効化] をクリックします。ゾーンのDNSサービスをOFFにすると、画面が更新されるので、ネームサーバのリストだけが残ります。

注： リストにあるネームサーバのレコードは、システムに何の影響も与えません。ネームサーバのレコードは画面上に表示され、それらをクリックすると、外部権限を持つネームサーバ上にゾーンの設定が維持されていることを確認することができます。

5 外部ネームサーバによって使用されているサイトごとに、1から3のステップを繰り返し、ローカルドメインネームサービスをオフにします。

➤ **権限のあるネームサーバ上に維持されているゾーンの設定を確認したい場合は、以下を実行します。**

1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。

2 リストから必要なドメイン名をクリックします。

3 [サービス] グループの [DNS設定] をクリックします。

4 そのゾーンに対して権限のある適切なネームサーバをポイントするエントリをリストに追加します。 [追加] をクリックしてネームサーバを指定し [OK] をクリックします。

試験したいネームサーバごとにこれを繰り返します。レコードがリスト内に表示されます。

5 作成したレコードをクリックします。

Plesk は、リモートネームサーバからゾーンファイルを検索し、リソースレコードをチェックして、ドメインのリソースが正しく解決されるようにします。結果が解釈され、画面上に表示されます。

他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用 (ドメイン転送)

他のサーバにホストされている Web サイトをポイントするドメイン名（複数の場合も含めて）を使用する必要がある場合は、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの **[クライアント]** ショートカットをクリックします。
- 2 **[新しいドメインの追加]** をクリックします。
- 3 ドメイン名を指定します。

ユーザが例えば www.your-domain.com のような共通・常用の URL によってサイトへアクセスすることを許可するには、**[www]** チェックボックスを選択したままにします。ドメイン名の前に **www** エイリアスをつけると、ユーザがブラウザに何を入力しても、そのサイトへ行くことができます。 www.your-domain.com と your-domain.com、どちらもそのサイトをポイントします。

- 4 **[テンプレートの選択]** メニューの **[テンプレートなしでドメインを作成]** オプションを選択したままにします。
- 5 選択先の IP アドレスの数がある場合、**[IP アドレスの選択]** ドロップダウンボックスから必要なアドレスを選択します。


SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトは IP アドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることを忘れないでください。

- 6 **[ホスティング設定に進む]** チェックボックスがチェックされていることを確認して、**[OK]** をクリックします。
- 7 転送タイプを選択します。**[フレーム転送]** または **[スタンダード転送]** オプションのいずれかを選択します。

スタンダード転送では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へリダイレクトされていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずにリダイレクトされます。従って **[フレーム転送]** が望ましいのです。

- 8 **[OK]** をクリックします。
- 9 転送先の URL を指定します。このドメインがポイントしてほしい現在の Web サイトのアドレスです。
- 10 **[OK]** をクリックします。
- 11 1 から 9 までのステップを繰り返し、必要に応じた数だけドメイン転送先を追加します。

ユーザアカウント間のドメイン転送

- あるユーザアカウントから別のユーザアカウントへドメインを転送するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットを選択します。または、ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットを選択し、必要なクライアント名をクリックします。
- 2 転送したいドメインに対応するチェックボックスを選択して  [オーナー変更] をクリックします。
- 3 選択したドメインを転送したい宛先アカウントを選択し [次へ>>] をクリックします。

Plesk は、宛先のクライアントアカウントが転送されたドメインを正しく機能させるための適切なリソース量を提供できるかどうかを確認します。クライアントアカウントに新規ドメインを収容するだけのリソースがない場合、リソース不足がハイライトされます。宛先クライアントアカウントに必要な量のリソースを割り当てるには、[クライアント] > [クライアント名] > [制限] に進んでリソース量を調節してからドメイン転送プロセスをもう一度行います。

必要なドメインの [新規 IP アドレス] メニューから宛先 IP アドレスを選択してドメインの転送に IP アドレスを使用することもできます。

- 4 この手順を終了するには [終了] をクリックします。

ドメインの保留と保留解除

- **ドメインを保留するには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットを選択します。
 - 2 必要なドメインをクリックします。
 - 3 [無効化] をクリックします。
- ドメインは保留されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。
- **ドメインの保留を解除するには、以下を実行してください。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットを選択します。
 - 2 必要なドメインをクリックします。
 - 3 [有効化] をクリックします。

ドメインの削除

- **ドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 削除したいドメイン名に対応するチェックボックスを選びます。
 - 3 **✕** [選択対象を削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

- **サブドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [ホスティング] グループの [サブドメイン] アイコンをクリックします。
 - 4 削除したいサブドメインに対応するチェックボックスを選びます。
 - 5 **✕** [選択対象を削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

章 9

メールサービスの使用

1つのメールアカウントで様々なメールサービスを利用できます。例えば、標準的なメールボックスとしてメールを受取ったり、多数の宛先へ転送したり、送信者へ自動的に応答するようなメールアドレスを持つことができます。

外部メールサーバを持つ特定のドメイン下のメールボックスを提供するには以下を実行してください。

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [DSN設定] に進みます。
- 2 [レコードタイプ] カラムでMXレコードを指定し、左側の [ホスト] カラムでそれぞれのリンクをクリックします。
- 3 [メールエクスチェンジャを入力]ボックスに外部メールサーバのホスト名（例えばmailserver.example.com）を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [上位レベルへ] をクリックしてドメイン管理画面に戻ります。
- 6 [メール] をクリックします。
- 7 [無効化] をクリックします。

メールボックスの作成

メールアドレスをyourname@domain.comなどの特定のサイトに関連付ける場合、メールボックスを作成する必要があります。このためには、以下を実行します。

➤ **メールボックスを作成するには、以下を実行します。**

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [メール] に進み、[新しいメールアカウントを追加] をクリックします。
- 2 ドメイン名が@記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。
ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
- 3 メールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
- 4 [メールボックス] チェックボックスが選択されていることを確認して、[OK] をクリックします。

これでプロバイダのサーバにメールボックスが作成されました。新しいメールボックスを通じてメールを送受信できるようにお気に入りのメールプログラムを設定できます。他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。

➤ **他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。**

- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [メール] に進み、[新しいメールアカウントを追加] をクリックします。
- 2 ドメイン名が@記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。
ドットで区切ったユーザの名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
- 3 メールボックスのオーナーがメールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
- 4 メールボックスオーナーがメールボックス管理パネルを使用して自分のメールボックスを管理するのを許可する場合は、[コントロールパネルアクセス] チェックボックスを選択し、ユーザのコントロールパネルの言語を指定します。
- 5 チェックマークが [メールボックス] チェックボックスに表示されることを確認して下さい。必要に応じて、このメールボックスで使用できるディスク容量を制限します。この場合、[メールボックスクォータ] で [サイズを入力] オプションを選択し、指定する値をキロバイトで入力します。 [OK] をクリックします。

- 6 メールボックスオーナーがスパムフィルタとアンチウイルスを設定し使用するのを許可する場合は、**【権限】** をクリックしてそれぞれのチェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。

これでメールボックスが作成され、Pleskに専用のメール管理パネルが設定されました。管理パネルに入力する場合、メールボックスオーナーは URL <https://your-domain.com:8443> を閲覧し、**【ログイン】** ボックスにメールアドレスを入力し、**【パスワード】** ボックスにメールボックスのパスワードを入力してから、**【ログイン】** をクリックします。

メールボックスからメールを取得するためのメールプログラムの設定

➤ **Microsoft Outlook Express** を設定するには、以下を実行します。

- 1 Microsoft Outlook Expressを開きます。
- 2 [ツール] > [アカウント]に進みます。
- 3 [メール]タブをクリックして、メールアカウントのリストを開きます。
- 4 [追加>] ボタンをクリックし、[メール...]項目を選択します。
- 5 送信する全てのメッセージに表示される名前を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 6 Pleskで作成したメールアドレス（例：your.name@your-domain.com）を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 7 受信メールサーバのプロトコルを選択します。
- 8 メールドメイン名を受信および発信メールサーバとして指定し（例：mail.your-domain.com）、[次へ>] をクリックします。
- 9 [アカウント名] ボックスにメールアドレスを入力します（例：your.name@your-domain.com）。
- 10 パスワードを入力します。これはPleskでメールボックスを作成する際に指定したパスワードです。
- 11 メールプログラムがメールサーバに接続し新規メールをチェックするたびに、パスワードの入力が要求されないようにする場合は、[パスワードを記憶する] ボックスにチェックを付け、[次へ>] をクリックします。
- 12 メールプログラムの設定を終了する場合は、[完了]をクリックします。

➤ **Mozilla Thunderbird** を設定するには、以下を実行します。

- 1 Mozilla Thunderbirdを開きます。
- 2 [ツール] > [アカウント設定...]に進みます。
- 3 [アカウントを追加] をクリックします。アカウントウィザードが開きます。
- 4 [メールアカウント] オプションを選択したまま、[次へ>] をクリックします。
- 5 送信するすべてのメッセージに表示される名前を入力します。
- 6 Pleskで作成したメールアドレスを入力します。
例えば、your.name@your-domain.comのように入力し、[次へ>] をクリックします。

- 7 受信メールサーバのプロトコルを選択します。
- 8 メールドメイン名を受信および発信メールサーバとして指定し（例：mail.your-domain.com）、**[次へ>]** をクリックします。
- 9 受信ユーザ名ボックスで、自分の完全なメールアドレス（例：your.name@your-domain.com）を指定し、**[次へ>]** をクリックします。
。
- 10 このアカウントを参照する際の名前（例：Work Account）を入力し、**[次へ>]** をクリックします。
- 11 入力した情報が正しいことを確認し、**[完了]** をクリックします。
- 12 **[OK]** をクリックして、アカウント設定ウィザードを閉じます。

Web ブラウザからのメールへのアクセス

自宅やオフィスのコンピュータから離れている場合でも、自分のメールを読み出し、新しいメッセージを作成することができます。この場合、まずコントロールパネルに統合されている Horde Web メールインターフェースにアクセスできるようにする必要があります。これで、インターネット接続および Web ブラウザがインストールされているコンピュータや WAP が有効な携帯電話や携帯用コンピュータ (PDA) があればメールを使って作業をすることができます。

➤ **Web メールインターフェースへのアクセスを可能にするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] アイコンをクリックします。
- 4 [選択設定] をクリックします。
- 5 [Webメール] チェックボックスを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

注：ドメインに対する Web メールの有効化と無効化には、DNS ゾーンでの変更が伴うため、実際には、DNS 登録メカニズムの速度により Web メールを有効化および無効化する場合は一定の遅延が発生します。

➤ **Web メールからメールボックスにアクセスするには、以下を実行します。**

- 1 Webブラウザ（携帯用デバイスで作業しているのであれば WAP ブラウザ）を開いて以下の URL を入力します。
<http://webmail.your-domain.com> を入力します。この your-domain.com には使用しているドメインの名称を入力します。ENTER を押します。Web メールログイン画面が開きます。
- 2 メールボックスを作成する際に指定したユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

スパムからのメールボックスの保護

不要な通信からメールボックスを保護するには、インターネットフォーラムにメールアドレスを発行せずに、SpamAssassin ソフトウェア内のサーバ側スパムフィルタを有効にします。

メールアドレスを発行する必要がある場合、プライマリメールアドレスにディスポーザブルメールアドレス、すなわちメールエイリアスを作成し、これを代わりに発行します。メールエイリアスに送信されたメッセージはすべて、メールボックスに到着します。スパムが到着し始めたら、そのエイリアスを削除し別のエイリアスを作成します。別のドメインまたは別のメールサーバにメールボックスを保有している場合、ディスポーザブルメールフォワーダを設定できます。

補足的ディスポーザブルメールアドレス（メールエイリアス）の設定

➤ **メールボックスにメールエイリアスを設定するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 [新しいメールエイリアスを追加] をクリックします。
- 6 エイリアスに追加する名前を入力し、[OK] をクリックします。

追加したメールアドレス（メールエイリアス）宛てのメッセージは、メールボックスに到着します。現在使用しているメールエイリアスのリストはドメインのメールアカウント一覧を表示するページで [エイリアスの表示] をクリックすると表示されます。

➤ **メールボックスからメールエイリアスを削除するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 削除するエイリアスに対応するチェックボックスを選択し、**✗** [選択対象を削除] をクリックします。

スパムフィルタのセットアップ

削除できない、または削除する必要のないメールに宛てた不要な通信を受け取る場合、メールボックスにスパムフィルタを設定することを検討して下さい。このためには、以下を実行します。

- サーバに SpamAssassin コンポーネントをインストールしている場合は、Plesk サーバで SpamAssassin スпамフィルタを有効にします。
- メールプログラムの操作を自宅とオフィスのどちらのコンピュータで行うかを選択して、スパムフィルタリングソフトウェアをインストールします。

スパムフィルタの有効化

➤ メールボックスのスパムフィルタを有効にするには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 6 必要に応じて以下の設定を行います。

- **スパムとしてみなす数** この設定はスパムフィルタの感度を調整します。SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名行に対して複数の異なるテストを実行します。その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高くなるほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージの特定は 8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージが全てスパムと分類されるようにフィルタ感度が設定されます。

現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、[スパムとしてみなす数] ボックスの値を 6 などに下げてみてください。

スパムフィルタでジャンクとみなされたためにメールを受信できない場合、[スパムとしてみなす数] ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてみてください。

注：スパムフィルタの精度をさらに高めるために、受信するメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングできます（次のセクションの、「スパム検出の精度を高めるための指示」を参照してください）。

- **スパムメッセージの処理方法**。スパムフィルタの精度を確実なものにする場合、スパムと認識された全ての受信メッセージを自動的に削除するようにフィルタを設定できます。この場合、[削除] オプションを選択します。ローカルコンピュータのソフトウェアでメールをフィルタリングする場合は、[スパムとしてマークしてメールボックスに残す] オプションを選択し、スパムとして認識されたメッセージをスパムフィルタでマークする方法を指定します。
「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダーがデフォルトではメッセージソースに付加され、またスパムフィルタにより件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、[スパムと認識された各メッセージの件名の最初に以下のテキストを追加] ボックスに入力してください。スパムフィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白のままにしてください。件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに `_SCORE_` と入力してください。

- 7 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、[ブラックリスト] タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。





- ブラックリストに項目を追加するには、**【アドレスを追加】** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**【参照】** で指定し**【OK】** をクリックします。もしくは、**【リストから】** オプションを選択し**【メールアドレス】** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 address@spammers.net, user?@spammers.net, *@spammers.net)。 *@spammers.net を指定すると [spammers.net](mailto:*@spammers.net) というドメインからの全てのメールをブロックします。追加したエントリを保存するには、**【OK】** をクリックして追加を確認して、もう一度**【OK】** をクリックしてください。
 - ブラックリストからエントリを削除するには、**【ブラックリスト】** タブからエントリを選択し**【選択対象を削除】** をクリックします。削除を確認して**【OK】** をクリックします。
- 8 特定の送信者からのメールを確実に受信するには、**【ホワイトリスト】** タブをクリックしてスパムフィルタのホワイトリストにそのメールアドレスまたは完全なドメイン名を追加します。
- ホワイトリストにエントリを追加するには、**【アドレスの追加】** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**【参照】** で指定し**【OK】** をクリックします。もしくは、**【リストから】** オプションを選択し**【メールアドレス】** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 address@mycompany.net, user?@mycompany.net, *@mycompany.net)。 *@mycompany.net を指定すると mycompany.net というドメインのメールアドレスが全てホワイトリストに追加されます。追加したエントリを保存するには、**【OK】** をクリックして追加を確認して、もう一度**【OK】** をクリックします。
 - ホワイトリストからエントリを削除するには、**【ホワイトリスト】** タブからエントリを選択し**【選択対象を削除】** をクリックします。削除を確認して**【OK】** をクリックします。
- 9 スпамフィルタの設定が終了したら、**【有効化】** アイコンをクリックして**【OK】** をクリックします。

スパム検出の精度の改善

スパムの精度は、メールボックス内に保存されたメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングすることで改善できます。

➤ **スパム検出の精度を改善するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 6 [トレーニング] タブをクリックします。

メールボックス内のすべてのメールメッセージが、画面に表示されます。各メッセージの左の列にアイコンが表示されます。このアイコンから、メッセージが  スパムと認識されるか、 非スパムと認識されるか、 認識不可であるかが分かります。メッセージでスパムフィルタのトレーニングを実施し、結果をスパムフィルタのデータベースに記録している場合、右側の列にアイコン  が表示されます。

- 7 スпамフィルタをトレーニングします。

通常は、件名行と送信者名を調べるとメッセージがスパムかどうかわかります。件名行と送信者名から手がかりが得られない場合、メールプログラムまたは Web メールインターフェースを使用してメッセージ内を調べてみてください。

- メッセージにスパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM です」をクリックします。
- メッセージに非スパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM ではありません」をクリックします。
- スпамフィルタのデータベースから特定のメッセージに関する情報を削除するには、対応するチェックボックスを選択し、「そのままにしておく」をクリックします。

- 8 トレーニングが終了したら、メールプログラムまたは Web メールインターフェースを使用して、メールボックスからスパムメールを削除できます。

スパムフィルタのデータベースの消去

間違ってスパムフィルタに大量のスパムメールを非スパムと学習させた場合、またはその逆の場合、スパムフィルタの学習結果が間違ったものになる可能性があります。スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。

- **スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 6 [トレーニング] タブをクリックします。
- 7 [クリア] ボタンをクリックします。

スパムフィルタの無効化

- **メールボックスのスパムフィルタを無効にするには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 6 [スパムフィルタリングを無効にする] アイコンをクリックし、[OK] をクリックします。

ウイルスからのメールボックスの保護

システムをウイルスから防御する場合、疑わしいメールの添付ファイルを開かず、サーバ側のアンチウイルス保護を有効にし、ファイアウォールとアンチウイルスソフトウェアがパーソナルコンピュータにインストールされていることを確認します。オペレーティングシステムを常に最新の状態に維持し、適宜、セキュリティホットフィックスおよびパッチをインストールします。

アンチウイルス保護の有効化

➤ **メールボックスのアンチウイルス保護を有効にするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [アンチウイルス] アイコンをクリックします。
- 6 使用するメールスキャンモードを選択します。受信メール、発信メール、または送受信メールに対してスキャンをオンにできます。

注：サーバで Kaspersky アンチウイルスを使用している場合、スキャン設定の調整に [スキャン設定] アイコンを使用できます。スキャン設定に関する情報を表示するには、ナビゲーションペインの [ヘルプ] ショートカットをクリックしてください。

- 7 [OK] をクリックします。

アンチウイルス保護の無効化

➤ **メールボックスのアンチウイルス保護を無効にするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] アイコンをクリックします。
- 4 必要なメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [アンチウイルス] アイコンをクリックします。
- 6 [ウイルスをスキャンしない] オプションを選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

メールボックスの保留と保留解除

➤ **メールボックスのメールサービスを一時的に保留にするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 メールサービスを保留にするメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [メールボックス] をクリックします。
- 6 [メールボックス] チェックボックスをクリアにします。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **メールボックスのメールサービスを再開するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 メールサービスを再開にするメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [メールボックス] をクリックします。
- 6 [メールボックス] チェックボックスを選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを一時的に保留にするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 [ツール] グループの [無効化] をクリックします。

➤ **ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを再開するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。

- 4 [ツール] グループの [有効化] をクリックします。

メールボックスの削除

- **メールボックスを削除するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [メール] をクリックします。
 - 4 削除するメールボックスの対応するチェックボックスを選択します。
 - 5 **✕ [選択対象を削除]** をクリックします。
 - 6 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスのオフ切り替え

既存のメールアカウントをメールフォワーダまたはメーリングリストとして使用する予定がある場合、メールボックスサービスを無効にすることをお奨めします。メールボックスですべての受信メッセージを保存し、転送後も自動的に削除されないようにします。従って、アカウントで「メールボックス + メールフォワーダ」の設定を選択する場合は、必ず、時々メールボックスをクリーンアップしてください。

- **メールボックスの全てのメッセージを破棄するアカウントのメールボックスサービスを無効にするには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [メール] アイコンをクリックします。
 - 4 対象となるメールアドレスをクリックします。
 - 5 [ツール] グループの [メールボックス] アイコンをクリックします。
 - 6 [メールボックス] チェックボックスのチェックを外します。
 - 7 [OK] をクリックします。

単一メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 [新しいメールアドレスを追加] をクリックします。
- 5 [メールアドレス名] の横のメールフォワーダに該当する名前を指定します。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 6 [メールボックス] および [コントロールパネルアクセス] チェックボックスを解除します。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 9 [リダイレクト] チェックボックスを選択します。
- 10 メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
- 11 [OK] をクリックします。

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールをスパムフィルタに通し、別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 [新しいメールアドレスを追加] をクリックします。
- 5 [メールアドレス名] の横のフォワーダのメールアドレスに該当する名前を指定します。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 6 [メールボックス] チェックボックスが選択されていることを確認してください。

メールボックスを選択していない場合、スパムフィルタリングを適用できません。

- 7 メールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。メールボックスの中身は適宜整理してください。
- 8 [OK] をクリックします。
- 9 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 10 [リダイレクト] チェックボックスを選択します。
- 11 メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
- 12 [OK] をクリックします。

メールフォワーダの保留と保留解除

➤ **メールフォワーダを保留にするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 転送サービスを保留にするメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 6 [リダイレクト] チェックボックスを解除します。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **メールフォワーダの保留を解除するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 転送サービスを再開するメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 6 [リダイレクト] チェックボックスを選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

複数メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを複数の別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス]グループの[メール]アイコンをクリックします。
- 4 対象となるメールアドレスをクリックします。
- 5 [メールグループ] をクリックします。
- 6 [新しいメンバーを追加] をクリックします。

複数のメールアドレスへのメール転送を有効にする前に、1つ以上のメールアドレスを追加する必要があります。

- 7 [メールアドレス] 入力ボックスに必要な外部メールアドレスを入力するか、チェックボックスでリストから1つまたは複数のメールアカウントを選択する、あるいは両方の作業を行います。
- 8 [OK] をクリックします。
- 9 [有効化] をクリックします。

受信者アドレスの追加と削除

- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、外部メールアドレスを追加するには、以下を実行してください。**
 - 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [メール] > [メールアカウント] > [メールグループ] に進み、[新しいメンバを追加] をクリックします。
 - 2 [メールアドレス] 入力フィールドに追加する該当する外部メールアドレスを入力し、[OK] をクリックします。

- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、外部メールアドレスを削除するには、以下を実行してください。**
 - 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [メール] > [メールアカウント] > [メールグループ] に進みます。
 - 2 リストから削除したいメールアカウントのチェックボックスを選択します。
 - 3 **✕** [選択対象を削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、サーバに登録されたメールアドレスを追加するには、以下を実行します。**
 - 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [メール] > [メールアカウント] > [グループ] に進みます。
 - 2 [利用可能なメールグループ] リストから複数のメールフォワーダを選択して [追加 >>] をクリックし、[OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス追加の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストに追加することができます。

- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、サーバに登録されたメールアドレスを削除するには、以下を実行してください。**
 - 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [メール] > [メールアカウント] > [グループ] に進みます。
 - 2 [以下のメールグループのメンバ] リストから複数のメールフォワーダを選択して [≪ 削除] をクリックし、[OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス削除の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストから削除することができます。

複数メールアドレスへのメール転送の無効化

- 複数メールアドレスへのメール転送を無効にするには以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 4 対象となるメールアドレスをクリックします。
 - 5 [メールグループ] をクリックします。
 - 6 [無効化] をクリックします。

メールフォワーダの削除

- メールフォワーダを削除するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [メール] をクリックします。
 - 4 削除するメールフォワーダの対応するチェックボックスを選択します。
 - 5 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 6 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

自動応答の設定


休暇に入る予定があり、しばらくの間メールをチェックできない場合、アドレスにメールを送信した送信者に対して、自動的に休暇通知が送信されるように設定しておくことができます。これは自動応答とも呼ばれる、自動応答機能を使用して行います。休暇通知以外に、組織では自動応答を使用して、オーダーや技術サポートの受領と、これらの迅速な処理を顧客に通知することができます。自動応答には、プレーンテキストまたはHTML形式で事前に作成されたメッセージを含めること、また添付ファイルを含めることもできます。

➤ **メールボックスの自動応答を設定するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] アイコンをクリックします。
- 4 自動応答を設定するメールアドレスをクリックします。
- 5 [ツール] グループの[自動応答] アイコンをクリックします。
- 6 自動応答にファイルを添付する予定がない場合は、手順6に進みます。自動応答にファイルを添付するには、以下を実行します。

1. [ツール] グループの[ファイル添付] アイコンをクリックします。
2. [参照] をクリックしてファイルを探し、選択した後[ファイル送信] をクリックします。

ファイルが添付ファイル保存に追加され、このファイルを別の複数の自動応答に追加できるようになります。

3. 終了したら  [上へ] をクリックし、次の手順に進みます。
- 7 [ツール] グループの[新しい自動応答を追加] アイコンをクリックします。
- 8 自動応答を設定します。
 1. [自動応答名] ボックスに、この自動応答の名前を入力します。
例えば、休暇通知などです。
 2. 不在の間、受信メールを別のメールアドレスに転送する場合、
[自動応答の後、オリジナルメッセージを指定されたメールアドレスに転送する] ボックスにメールアドレスを指定します。

3. 受信するメールメッセージへの応答に、この自動応答を送信する場合は、**[条件]** グループで **[常に返信する]** オプションを選択した状態にします。メッセージテキストまたは件名行に特定の語句を含むメールメッセージにのみ自動的に応答する場合は、適切なオプションを選択し、入力ボックスに語句の組み合わせを入力します。
 4. デフォルトでは受信メールの件名が自動応答で送信するメッセージの件名に挿入されます。カスタムの件名を使用するには、**[応答]** 件名入力ボックスにカスタム件名を入力します。
 5. こちらから送信されたメッセージが自動応答であると相手側が想定できないため、相手側が自動応答に対して返答する場合があります。このため、**[返信アドレス]** として自分のメールアドレスを指定する必要があります。
 6. 自動応答メッセージの形式（プレーンテキストまたはHTML）と、文字のエンコード方式（UTF-8を推奨）を指定します。HTML自動応答メッセージにHTMLタグを使用する場合、**[HTML]** オプションを選択します。
 7. **[テキスト付き返信]** フィールドにメッセージを入力します。
 8. 必要に応じて、ファイルを添付します。この場合、**[添付ファイルを追加]** ボタンをクリックし、以前に添付保存にアップロードしていたファイルに対応するチェックボックスを選択し、**[OK]** をクリックします。添付ファイルを自動応答から削除するには、該当するチェックボックスを選択して **✗ [選択対象を削除]** をクリックします。
 9. 同じメールアドレスへの1日あたりの自動応答の数を制限するには、**[制限]** 内の各入力ボックスに上限数を入力します。
デフォルトでは同じメールアドレスに対する応答として 10 回/日の上限が設定されています。
 10. メールサーバの負荷を減らすために、自動応答が記憶する固有のアドレスの数を制限できます。それには、**[...件まで保存]** ボックスに上限数を入力します。
- 9 **[OK]** をクリックします。
- 10 **[ツール]** グループの **[有効化]** アイコンをクリックします。

自動応答の無効化

- **メールボックスの自動応答を無効にするには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [メール] をクリックします。
 - 4 自動応答を無効にするメールアドレスをクリックします。
 - 5 [ツール] グループの[自動応答] をクリックします。
 - 6 [無効化] をクリックします。

自動応答が無効になりました。自動応答の設定はコントロールパネルから削除されていないため、この自動応答を次に使用する必要が生じる場合、上記の手順を繰り返し、最後の手順で[有効化] をクリックします。

- **不要になった自動応答設定を削除するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [メール] をクリックします。
 - 4 必要なメールアドレスをクリックします。
 - 5 [ツール] グループの[自動応答] をクリックします。
 - 6 設定名に対応するチェックボックスを選択し、**✕** [選択対象を削除] をクリックします。

存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位を選択設定（メール転送）

誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、"this address no longer accepts mail（このアドレスはメールを受け取ることができません）"という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。

- デフォルトの通知が適切でないと思われる場合は変更する。
- このようなメールをすべて指定したメールアドレスに転送する。
- このようなメールを受け取らず、送信者に通知せずに拒否する。


この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名に送信される大量のスパムにより生じた、メールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。

➤ **存在しないユーザへのメールの処理に対するサイト単位の設定を行うには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 [選択設定] をクリックします。
- 5 必要なオプションを選択し、必要に応じて情報を指定します。
- 6 [OK] をクリックします。

複数のメールアドレスへの類似変更の同時処理の導入

複数のメールアドレスへの類似変更を同時に処理して時間と労力を節約することができます。この機能は一括操作と呼ばれています。

- **複数のメールアドレスに対して一括操作を行うには以下を実行してください。**
- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 4 設定を変更したいメールアドレスに対応するチェックボックスを選択します。
 - 5  [一括操作] をクリックします。
 - 6 必要に応じて、設定を調整して下さい。
 - [有効化] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを有効にします。
 - [無効化] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを無効にします。
 - 関連オプションを変更したくない場合は [変更しない] オプションを選択したままにします。
 - 7 [OK] をクリックします。

章 10

複数の顧客に対するメール一括送付

サーバメンテナンススケジュールのお知らせや新サービス提供のご紹介などを顧客に送付したい場合、一括メール機能（[サーバ] > [一括メールメッセージ]）を使用して複数の顧客に対するメールを一括送付することができます。

必要に応じてメッセージのテンプレートを作成して使用したり、テンプレートを使用しないでメッセージを送信することもできます。

以下を実行するにはこの章をお読みください。

今後のために一括テンプレートを作成する 『ページ数209』

複数の顧客にメールを送信する 『ページ数212』

メッセージテンプレートの作成、編集、削除

➤ **新しいメッセージテンプレートを作成するには以下を実行します。**

- 1 [サーバ] > [一括メールメッセージ] に進み、[一括メールテンプレートを追加] をクリックします。
- 2 [テンプレート名] フィールドにテンプレート名を指定します。
- 3 [送信元] フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定してください。

名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。名前とメールアドレスの両方を指定するには、以下のフォーマットを使用してください。名前
<your@e-mail.address> 例えば、以下のようになります。 John Doe
<admin@pleskserver.com>

- 4 メールメッセージの受信者を選択してください。
 - クライアントにメッセージを受信して欲しい場合は、[クライアント] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。 [全て] では全てのクライアントに送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択したクライアント以外の全てのクライアントにされます。
 - 複数のクライアントを選択するには [クライアント] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし（このボタンは [全て] が選択されているときは使えません）、[利用可能なクライアント] フィールドで対象となるクライアントを選択し [追加 >>] をクリックします。 選択したクライアントから削除するには、対象となるクライアントを [クライアントを選択] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。

- ドメイン管理者にメッセージを受信して欲しい場合は、[ドメイン管理者] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。 [全て] では全てのドメイン管理者に送信され、[選択のみ] では選択したドメイン管理者にのみ送信され、[選択以外全て] では選択した以外の全てのドメイン管理者にされません。
- 複数のドメイン管理者を選択するには [ドメイン管理者] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、 [利用可能なドメイン管理者] フィールドで対象となるドメイン管理者を選択し [追加 >>] をクリックします。 選択したドメイン管理者から削除するには、対象となるドメイン管理者を [ドメイン管理者を選択] フィールドで選択し [<<削除] をクリックします。

クライアントやドメイン管理者がどのように選択されているかは、それぞれの [選択した表示/非表示] ボタンをクリックすればいつでも見ることができます。

- 送信するメッセージのコピーを自分のメールボックスにコピーするには、[Plesk 管理者] チェックボックスを選択してください。
- 5 [件名] フィールドにメッセージの件名を指定してください。
 - 6 [メッセージテキスト] フィールドにメッセージをプレーンテキストフォーマットで入力してください。 Pleskによって自動的に受信者名をメッセージに含めるには <name>変数を使用してください。 [コンタクト名] フィールドで指定された情報から名前情報が得られます。
 - 7 [OK] をクリックしてテンプレートを保存してください。

➤ **メッセージテンプレートを編集するには以下を実行します。**

- 1 [サーバ] > [一括メールメッセージ] に進み、リストから処理したいテンプレートをクリックします。
- 2 [テンプレート名] フィールドにテンプレート名を指定します。
- 3 [送信元] フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定してください。

名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。 名前とメールアドレスの両方を指定するには、以下のフォーマットを使用してください。 名前
<[your@e-mail.address](#)> 例えば、以下のようになります。 John Doe
<[admin@pleskserver.com](#)>

- 4 メールメッセージの受信者を選択してください。
 - クライアントにメッセージを受信して欲しい場合は、[クライアント] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。 [全て] では全てのクライアントに送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択したクライアント以外の全てのクライアントにされます。

- 複数のクライアントを選択するには [クライアント] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、 [利用可能なクライアント] フィールドで対象となるクライアントを選択し [追加 >>] をクリックします。 選択したクライアントから削除するには、対象となるクライアントを [クライアントを選択] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。
- ドメイン管理者にメッセージを受信して欲しい場合は、 [ドメイン管理者] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。 [全て] では全てのドメイン管理者に送信され、 [選択のみ] では選択したドメイン管理者にのみ送信され、 [選択以外全て] では選択した以外の全てのドメイン管理者にされませ
- 複数のドメイン管理者を選択するには [ドメイン管理者] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、 [利用可能なドメイン管理者] フィールドで対象となるドメイン管理者を選択し [追加 >>] をクリックします。 選択したドメイン管理者から削除するには、対象となるドメイン管理者を [ドメイン管理者を選択] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。

クライアントやドメイン管理者がどのように選択されているかは、それぞれの [選択した表示/非表示] ボタンをクリックすればいつでも見ることができます。


- 送信するメッセージのコピーを自分のメールボックスにコピーするには、 [Plesk 管理者] チェックボックスを選択してください。
- 5 [件名] フィールドにメッセージの件名を指定してください。
 - 6 [メッセージテキスト] フィールドにメッセージをプレーンテキストフォーマットで入力してください。 Pleskによって自動的に受信者名をメッセージに含めるには <name>変数を使用してください。 [コンタクト名] フィールドで指定された情報から名前情報が得られます。
 - 7 [OK] をクリックして変更を保存してください。

➤ **メッセージテンプレートを削除するには以下を実行します。**

- 1 [サーバ] > [一括メールメッセージ] に進みます。
- 2 削除する一括メールメッセージに対応するチェックボックスを選択し、**✗** [選択対象を削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

メール通知の送信

➤ 複数の顧客にメールメッセージを一括送信するには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] をクリックして、[一括メールメッセージ] をクリックします。
- 2 既に作成したメッセージテンプレート(「メッセージテンプレートの作成、編集、削除」 『ページ数209』 セクションを参照してください)を使用するには、[メッセージの作成] 列の  アイコンをクリックしてください。 そのメッセージを送信するには、[メール一括送信] をクリックします。
- 3 [送信元] フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定してください。

名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。名前とメールアドレスの両方を指定するには、以下のフォーマットを使用してください。名前

<your@e-mail.address> 例えば、以下のようになります。 John Doe
<admin@pleskserver.com>

- 4 メールメッセージの受信者を選択してください。
 - クライアントにメッセージを受信して欲しい場合は、[クライアント] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。 [全て] では全てのクライアントに送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択したクライアント以外の全てのクライアントにされます。
 - 複数のクライアントを選択するには [クライアント] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、 [利用可能なクライアント] フィールドで対象となるクライアントを選択し [追加 >>] をクリックします。 選択したクライアントから削除するには、対象となるクライアントを [クライアントを選択] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。
 - ドメイン管理者にメッセージを受信して欲しい場合は、[ドメイン管理者] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。 [全て] では全てのドメイン管理者に送信され、[選択のみ] では選択したドメイン管理者にのみ送信され、[選択以外全て] では選択した以外の全てのドメイン管理者にされます。
 - 複数のドメイン管理者を選択するには [ドメイン管理者] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、 [利用可能なドメイン管理者] フィールドで対象となるドメイン管理者を選択し [追加 >>] をクリックします。 選択したドメイン管理者から削除するには、対象となるドメイン管理者を [ドメイン管理者を選択] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。

クライアントやドメイン管理者がどのように選択されているかは、それぞれの [選択した表示/非表示] ボタンをクリックすればいつでも見ることができます。

- このメッセージのコピーを自分のメールに送信するには、**[Plesk 管理者]** チェックボックスを選択してください。
- 5 **[件名]** フィールドにメッセージの件名を指定してください。
 - 6 **[メッセージテキスト]** フィールドにメッセージをプレーンテキストフォーマットで入力してください。Pleskによって自動的に受信者名をメッセージに含めるには<name>変数を使用してください。**[コンタクト名]** フィールドで指定された情報から名前情報が得られます。
 - 7 このメッセージを、今後使用するテンプレートとしてテキストそのものも受信者の情報も両方保存するには、**[テキストを新しいテンプレートに保存する]** フィールドの左側のチェックボックスを選択し、このフィールドでテンプレート名を指定してください。
 - 8 **[送信]** をクリックしてメッセージを送信します。メッセージの内容をテンプレートとして保存することを選択した場合、テンプレートが作成され使用可能なテンプレートのリストに追加されます。

メーリングリストの維持

顧客にオファーおよびプロモーションを配信する、ニュースレターを運営する、あるいはサイトの閲覧者に最新の更新について通知する場合、サイトにメーリングリストを設定し、ユーザをメーリングリストに登録するか、ユーザに登録を勧める必要があります。

メーリングリストは1度に多くのユーザへの宣伝ができるので便利です。メーリングリストには、情報やニュースレターを投稿する単一のメールアドレスの下にまとめられた、加入者のメールアドレスのリストが保存されています。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされたGNU Mailmanソフトウェアにより提供されます。

メーリングリストが使用できるかどうかを確認するには、プロバイダに確認するか、コントロールパネルでメーリングリストを探します。[ホーム] > [メール] に進み、[メーリングリスト] タブをクリックし、[新しいメーリングリストを追加] アイコンがカラー表示されているかどうかを確認します。

メーリングリストのセットアップ


➤ **メーリングリストをセットアップするには、以下の操作を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの[メール] アイコンをクリックします。
- 4 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 5 [ツール]グループの[有効化]アイコンをクリックし、サーバのMailmanソフトウェアを起動します。
- 6 [ツール] グループの[新しいメーリングリストを追加] アイコンをクリックします。
- 7 メーリングリストに必要な名前を指定します。
部署名、メーリングリストのトピック、その他のラテン記号テキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
- 8 ーリングリストの管理に使用するパスワードを指定します。
- 9 メーリングリスト管理者のメールアドレスを指定します。
- 10 [管理者にメーリングリストの作成を通知する] チェックボックスを選択したままにしておきます。
指定した管理者のメールアドレスでのメーリングリストの使用および維持に関する指示が表示されます。メッセージを記録用に保管しておいて下さい。
- 11 [OK] をクリックします。

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。登録された全てのユーザが受け取ります。

メーリングリストの設定

➤ **メーリングリストは、デフォルト設定で操作できます。しかしながら、モデレーションの有効化、投稿内容のフィルタリング、メッセージのアーカイブなどを実行できるように設定することができます。それには、コントロールパネルから以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 4 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 5 該当するメーリングリストのメールアドレスの横の  アイコンをクリックします。
ログイン画面が表示されます。
- 6 リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

➤ **または、メーリングリストの設定には、以下の方法でアクセスできます。**

- 1 WebブラウザでURL <http://lists.<your-domain.com>/mailman/admin/<listname>> を入力します。<your-domain.com>は使用しているドメイン名、<listname>はメーリングリストの名前（すなわちメーリングリストのメールアドレスの @ 記号の左側の部分）です。
ログイン画面が表示されます。
- 2 リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

ユーザの登録と登録解除

➤ **メーリングリストにユーザを登録するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 5 メーリングリスト名をクリックします。
- 6 [新しいメンバーを追加] をクリックします。
- 7 登録者のメールアドレスを指定して下さい。
- 8 [OK] をクリックします。

➤ **メーリングリストからユーザを登録解除するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 5 メーリングリスト名をクリックします。
- 6 ユーザのメールアドレスの左側のチェックボックスを選択します。
- 7 **✗** [選択対象を削除] をクリックします。
- 8 削除を確認して [OK] をクリックします。

メーリングリストへの投稿

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。登録された全てのユーザが受け取ります。

メーリングリストの削除

➤ **サイトからメーリングリストを削除するには、以下を実行します**

- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
- 2 リストから必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [メール] をクリックします。
- 4 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 5 削除するメールボックスの対応するチェックボックスを選択します。
- 6 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
- 7 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

章 11

ヘルプデスクを使用した顧客の問題の解決

コントロールパネルに統合され、「ヘルプデスクを設定」『ページ数85』セクションの説明に従って設定したヘルプデスクの使用を決定した場合、ヘルプデスクを使用して顧客から問題のレポートまたはサポート要求を受け取り、問題が解決された場合に顧客に通知することができます。

ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示

- 受け取った問題のレポートをヘルプデスクに表示するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。
 - 2 このサーバのユーザが提出した問題レポートを見る必要がある場合はステップ4に進みます。
 - 3 自分が管理する他のサーバのヘルプデスクが提出した問題レポートを見る必要がある場合（「多数のPleskサーバに対する集中アクセスの使用」『ページ数254』のセクションに説明があります）は [グローバルヘルプデスク] グループで [サーバ] をクリックしてから必要なサーバを選択します。
 - 4 新しい問題レポートを表示するには、[ローカルチケット] グループで [新規] をクリックします。全てのレポートを表示するには、[全て] をクリックします。開示されまだ解決されていない全ての問題レポートを表示するには、[オープンしている全て] をクリックします。問題が解決されていないことがわかったためにユーザが再オープンしたチケットを表示するには、[再オープン] をクリックします。クローズしたチケットを確認するには、[クローズ] をクリックします。
 - 5 チケットが一覧に表示され、次の補足情報が表示されます。
 - ID： 投稿時にシステムによって割り当てられる ID 番号です
 - チケットのタイトル： チケット投稿者が入力した問題の概略です
 - チケットの状態： 新規、再オープン、クローズ
 - 投稿者のタイプ： コントロールパネルに表示されるチケットの発信元のユーザアカウントまたはメールアドレス。クライアント、ドメイン管理者、コントロールパネルへのアクセス権を持つメールユーザ、またはメールでチケットを投稿したユーザ
 - 投稿者の名前： チケットの投稿者の名前、ドメインオーナーが投稿したチケットのドメイン名、またはメールで投稿されたチケットのメールアドレス
 - 更新日： チケットが更新(コメントの追加や状態の変更)された日
 - キュー： 問題の投稿者が問題の解決を優先する順序
 - 優先度： 問題の投稿者が設定した問題の重大度
 - カテゴリ： チケットを関連付けるカテゴリ
 - 6 チケットの内容を表示するには、チケットIDまたはチケット件名をクリックします。

トラブルチケットへのコメントとクローズ

- 問題が解決された後、チケットをクローズする、またはコメントを投稿するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。貴方が管理する別のサーバのヘルプデスクを訪問するには、[グローバルヘルプデスク] グループで [サーバ] をクリックしてから必要なサーバを選択します。
 - 2 作業を行うチケットを探し、その件名かID番号をクリックします。
 - 3 チケットをクローズ、再オープンするには、またはチケットにコメントを投稿するには、[チケットイベント] ドロップダウンボックスから実行する作業を選択し、必要に応じて [新しいコメント] 入力フィールドに新しいコメントを入力します。 [OK] をクリックして情報を送信します。

他のホスティングプラットフォームからのユーザアカウント、ドメイン名、Webサイトの移行

他のホスティングプラットフォームからの Plesk コントロールパネルへユーザアカウント、ドメイン名、Webサイトの移行は、Plesk 移行マネージャーというツールにより実行されます。このツールは、他社のコントロールパネルから Plesk への移行を簡単かつ迅速に行うために開発されました。また、Plesk の旧リリースや Plesk の他のプラットフォームからの移行にも利用できます。

現時点で、以下のプラットフォームを Plesk に移行できます。

- Confixx 1.65, 2, 3
- CommuniGate Pro
- Plesk and Slash (FreeBSD または Linux 用)の以前リリースされたもの
- Cobalt Raq 2, 3, 4, 550, XTR
- cPanel 9, 10
- Ensim 3.5, 4

他のホスティングプラットフォームから、全てのユーザアカウント、ドメイン、いろいろなアプリケーションを持つ Web サイトを移行するには、以下を実行します。

- 1 [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [移行マネージャ] アイコンをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [新しい移行を開始する] アイコンをクリックします。
- 4 [移行] ラジオボタンは選択されたままにし、次に挙げるオプションを指定します。
 - ソースホスト。移行したいデータのサーバの IP アドレスまたはホスト名のどちらかを指定します。
 - 移行元のホストのリモートホストへのログインに使用されているログイン名とパスワード。「root」ログインまたは sudo が有効なアカウントのいずれかを使用します。
- 5 リモートホスティングプラットフォームが実行中で、「iconv」ユーティリティがリモートホストのオペレーティングシステムにインストールされていることを確認してください。

- 6 [次へ>>] をクリックします。移行マネージャは、指定されたホストへ接続し、リモートホスティングプラットフォームのビジネスオブジェクトに関する情報を集めます。
- 7 [移行モード]グループの[全てをダンプする]オプションを選択します。
- 8 移行マネージャがホスティングプラットフォームを正しく検知しなかった場合、[ソースプラットフォーム]ドロップダウンボックスからそのプラットフォームを選択します。
- 9 データ圧縮オプション、移行中のドメインテンプレートの適用、一時ファイルの保存用にリモートホストのハードドライブパーティションなどのオプションを指定したい場合は、[拡張]タブをクリックして、必要なオプションを選択します。
- 10 [次へ>>] をクリックします。
- 11 データがリモートホストから取得されたら、IPアドレスマッピング設定を指定し、[移行] をクリックします。
- 12 移行が完了したら、詳細レポートがスクリーンに表示されます。[OK] をクリックしてウィザードを終了します。

他のホスティングプラットフォームから、個々のユーザアカウント、ドメイン名、いろいろなアプリケーションを持つ Web サイトを移行するには、以下を実行します。

- 1 [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [移行マネージャ] をクリックします。
- 3 [ツール] グループの[新しい移行を開始する] アイコンをクリックします。
- 4 [移行] ラジオボタンは選択されたままにし、次に挙げるオプションを指定します。
 - ソースホスト。移行したいデータのサーバの IP アドレスまたはホスト名のどちらかを指定します。
 - 移行元のホストのリモートホストへのログインに使用されているログイン名とパスワード。「root」ログインまたは sudo が有効なアカウントのいずれかを使用します。ただし、そのアカウントが sudo を通じて全てのコマンドを実行することができるのが条件です。
- 5 リモートホスティングプラットフォームが実行中で、「iconv」ユーティリティがリモートホストのオペレーティングシステムにインストールされていることを確認してください。
- 6 [次へ>>] をクリックします。移行マネージャは、指定されたホストへ接続し、リモートホスティングプラットフォームのビジネスオブジェクトに関する情報を集めます。

- 7 **【ホストから移行したいオブジェクトを選択する】** オプションを選択します。
- 8 移行マネージャがホスティングプラットフォームを正しく検知しなかった場合、**【ソースプラットフォーム】** ドロップダウンボックスからそのプラットフォームを選択します。
- 9 データ圧縮オプション、移行中のドメインテンプレートの適用、一時ファイルの保存用にリモートホストのハードドライブパーティションなどのオプションを指定したい場合は、**【拡張】** タブをクリックして、必要なオプションを選択します。
- 10 **【次へ>>】** をクリックします。
- 11 Pleskへ移行したいオブジェクトを選択します。
 - ユーザアカウントを移行するためには**【アカウント】** タブをクリックして、対応するボックスを選択することにより移行すべきアカウントを指定します。それから**【移行】** をクリックします。
 - ドメイン名を移行するためには**【ドメイン】** タブをクリックして、対応するボックスを選択することにより移行すべきドメインを指定します。それから**【移行】** をクリックします。次の画面で、リモートホストのIPアドレスをマップすべき宛先のPleskホスト上のIPアドレスを選択します。それから**【移行】** をクリックします。
- 12 リモートホストのIPアドレスをマップすべき宛先のPleskホスト上のIPアドレスを選択します。
- 13 **【移行】** をクリックします。
- 14 移行が完了したら、詳細レポートがスクリーンに表示されます。**【OK】** をクリックしてウィザードを終了します。

1つのサーバ内での移行

他のホスティングプラットフォームまたは旧バージョンの Plesk から Plesk 8 に移行したいがこの操作に追加のハードウェアを使用できない場合、以下のいずれかの方法で移行できます。

- chrooted 環境を使用して移行。

Plesk は他のコントロールパネルが実行されているマシン上にはインストールできません。この制限を克服するには、chroot のようなバーチャル環境を作成する必要があります。特別なモードで chrooted 環境に Plesk をインストールできます。chrooted 環境に Plesk をインストールすると、ホスティングプラットフォームから移行データを chrooted 環境に移行できます。移行が完了した後、以前使用していたホスティングプラットフォームをシャットダウンし Plesk をメインコントロールパネルとして使用できます。

- 移行マネージャのデータインポート機能を使用。

ハードディスクに十分な空きのあるオペレーティングシステムを用意し Plesk ソフトウェアをインストールしておく必要があります。この機能を使用すると、移行エージェントが収集したデータを Plesk にインポートできます。取得したデータを Plesk がインストールされているハードディスクに移動し、オペレーティングシステムをリブートします。この作業が完了した後、以前使用していたホスティングプラットフォームを削除できます。

chrooted 環境を利用したデータの移行

chrooted 環境は別のパーティションで作成することをお奨めします。Plesk のインストールとそこへのデータ移行が完了した後、root ファイルシステムとしてこのパーティションを使用できるようにするためです。chrooted 環境を設定するにはスーパーユーザ権限が必要です。

chrooted 環境を作成するには、2 ギガバイト以上のディスク容量を持つオペレーティングシステム、Plesk のインストール、およびユーザデータを保存するためのディスク容量が必要です。

<ftp://download1.sw-soft.com/Plesk/Plesk7.5/Extensions> で入手可能な `chroot_tool.zip` パッケージのユーティリティまたは `mach` (<http://mach.sourceforge.net>) などのサードパーティのユーティリティを使用して自分のシステムに chrooted 環境を設定できます。

重要: chrooted 環境を設定する前にハードドライブに全てのデータのバックアップをとっておくよう強くお奨めします。

➤ **chrooted 環境を利用してデータを移行するには以下を実行します。**

- 1 Plesk をインストールする前にポート 8443 が使用されていないことを確認します。何らかのプログラムがこのポートを使用している場合、このポートがフリーになるよう再設定する必要があります。

- 2 chrootedディレクトリにPleskインストーラファイルをコピーします。
- 3 コマンド `chroot <directory_name>` を使用してchrooted環境に入ります。
- 4 変数CHROOTISH=yesの値を定義します。

CHROOTISH=yes をエクスポートします。

- 5 mysqlを以下のように設定します。

```
mysql_install_db
chown -R mysql /var/lib/mysql/
```

- 6 ネットワークに繋がずにmysqlを実行します。
異なるバージョンのMySQLでは、方法が異なります。例えば、MySQLバージョン3ではコマンド'`safe_mysqld --skip-network &`'を使用し、バージョン4では'`mysqld_safe --skip-networking &`'を使用します。
- 7 Pleskインストーラを実行し、画面上の指示に従い操作を行います。
- 8 Plesk設定が終了したらコントロールパネルにログインして、[サーバ] ショートカットをクリックします。そして [移行マネージャ] アイコンをクリックしてから [移行を開始する] アイコンをクリックします。
- 9 データソースとしてホストを指定し、通常通り移行を行います。
- 10 移行が完了した後、サーバをリブートしchrootパーティションから起動するようにします。
- 11 "NO_RESTART_DAEMON"パラメータを `/etc/psa/psa.conf`ファイルから削除します。
- 12 全てが問題なく処理されていることを確認して下さい。エラーが発生した場合、他のコントロールパネルの以前使用していたパーティションをリブートします。

➤ **chrooted 環境を起動するためには以下を実行します。**

- 1 起動マネージャにchrooted環境を持つパーティションから起動するための項目を追加します。

例：

GRUB boot マネージャがインストールされている Fedora Core 2 オペレーティングシステムでの設定を見てください。

1. `./boot/grub/` ディレクトリを開きます。
2. コマンド `fdisk -l` を使用してchrooted環境が設定されている場所を確認します。

```
Disk /dev/sda: 2097 MB, 2097152000 bytes
128 heads, 32 sectors/track, 1000 cylinders
```

```
Units = cylinders of 4096 * 512 = 2097152 bytes

Device            Boot   開始   End   Blocks   Id   System
/dev/sda1         *           1     50    102384   83   Linux
/dev/sda2                51    919    1779712  83   Linux
/dev/sda3                920   1000    165888   82   Linux swap

Disk /dev/sdb: 2418 MB, 2418016256 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 293 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes

Device            Boot   開始   End   Blocks   Id   System
/dev/sdb1                1     293    2353491  83   Linux
```

ここでは、partition /dev/sdb1 です。

1. grub.confまたはmenu.listファイルをテキストエディタで開き、以下のレコードを追加します。

```
title Fedora Core-chroot (2.6.5-1.358)
root (hd1,0)
kernel /boot/vmlinuz-2.6.5-1.358 ro root=/dev/sdb1
initrd /boot/initrd-2.6.5-1.358.img
```

2. 変更を保存します。

- 1 chrooted環境にinitail ramdiskを作成します。

Fedora Core 2 での例。

ディレクトリ /disk2 に chrooted 環境が設定されている場合を見てください。

1. コマンド `chroot /disk2` を使用して chrooted 環境に入ります。
2. initail ramdisk の現在の画像を削除します。

```
ls /boot/
System.map-2.6.5-1.358
initrd-2.6.5-1.358.img
config-2.6.5-1.358
vmlinuz-2.6.5-1.358

rm -f /boot/initrd-2.6.5-1.358.img
```

1. initial ramdisk の新しい画像を作成します。

```
mkinitrd /boot/initrd-2.6.5-1.358.img 2.6.5-1.358
```

SuSe 9.1 での例。

ディレクトリ /disk2 に chrooted 環境が設定されている場合を見てください。

2. コマンド `chroot /disk2` を使用して chrooted 環境に入ります。
 3. コマンド `mkinitrd` を使用して initail ramdisk の現在の画像を削除します。
- 1 システムを再起動します。

chrooted 環境を利用したデータの移行

Plesk ソフトウェアがインストールされているオペレーティングシステムがある場合、Plesk 移行マネージャのインポート設定機能を使用できます。

➤ **データインポート機能を使用してデータを移行するには、以下を実行します。**

- 1 Pleskがインストールされているディスクをマウントします。
- 2 ご使用のソースホスティングプラットフォームに適した移行エージェントを選択します。 移行エージェントは、Pleskドライブのディレクトリ `/plesk_installation_directory/PMM/agents/` に保存されています。
 - Alabanza -
`/plesk_installation_directory/PMM/agents/AlabanzaX/`
 - Confixx 1.65, 2, 3 -
`/plesk_installation_directory/PMM/agents/ConfixxX/`
 - Ensim 3.5, 4 - `/plesk_installation_directory/PMM/agents/EnsimX/`
 - Hsphere - `/plesk_installation_directory/PMM/agents/HsphereX/`
 - Plesk 2.5.x, 5.x, 6.x, 7.x -
`/plesk_installation_directory/PMM/agents/PleskX/`
 - Slash - `/plesk_installation_directory/PMM/agents/Slash/`
 - Cobalt RaQ2 - `/plesk_installation_directory/PMM/agents/RaQ2/`
 - Cobalt Raq550 -
`/plesk_installation_directory/PMM/agents/RaQ550/`
 - Cobalt Raq3 - `/plesk_installation_directory/PMM/agents/RaQ3/`
 - Cobalt Raq4 - `/plesk_installation_directory/PMM/agents/RaQ4/`
 - cPanel 9, 10 -
`/plesk_installation_directory/PMM/agents/cPanel9/`
 - CommuniGate Pro -
`/plesk_installation_directory/PMM/agents/Cgp/`
- 3 Pleskドライブのディレクトリ `/plesk_installation_directory/PMM/var/` を開いて、`/plesk_installation_directory/PMM/agents/agent_name/` のエージェントを現在のディレクトリへコピーします。
- 4 `/plesk_installation_directory/PMM/agents/shared/` の全てのファイルとサブディレクトリを現行ディレクトリへコピーします。
。
- 5 `-get-status` オプションで移行エージェントを起動します。
`./<your platform name>.pl --get-status.`

- 6 エージェントがプラットフォームに適したものであれば、オプション `-dump-all` を使用して設定のフルダンプができます。または、ドメインダンプ用のオプション `-dump-domains` を使用して選択したエンティティのみの選択的ダンプを行ったり、`-dump-accounts` を使用してユーザアカウントのダンプを行うこともできます（詳細は `-h` オプションで移行エージェントを実行してください）。例えば、以下のようになります。
`<agent_file_name> --dump-domains=domain1, domain2, domain3` のようになります。
- 7 エージェントがジョブを終了したら、ディレクトリのコンテンツ `/plesk_installation_directory/PMM/var/pma` を `/plesk_installation_directory/PMM/archives` へ移動し、ファイル `/plesk_installation_directory/PMM/var/<your platform name>.xml` を `/plesk_installation_directory/PMM/var/dump.xml` にコピーします。
- 8 Plesk がインストールされているオペレーティングシステムをリブートします。
- 9 リブートしたらコントロールパネルにログインして、[サーバ] ショートカットをクリックします。そして [移行マネージャ] アイコンをクリックしてから [移行を開始する] をクリックします。
- 10 [インポート設定モード] オプションを選択し、画面上の指示に従い操作を行います。

章 12

データのバックアップおよび復元

最新バージョンのバックアップユーティリティおよび復元ユーティリティをコントロールパネルにインストールしている場合、次の作業が可能です。

サーバ全体のバックアップ。 コマンドラインからのみ実行できます。バックアップアーカイブには、コントロールパネルのライセンスキー、メールサーバおよび DNS サーバの設定、データベースサーバに関する情報、ドメインのテンプレート、仮想ホストスケルトン、ユーザアカウント、ドメイン、Web サイトと Web コンテンツ、SSL 証明、データベース、サイトアプリケーション、およびカスタムボタンが保存されます。

ドメインを含む個々のユーザアカウントのバックアップ。 バックアップアーカイブには、コントロールパネル内で操作を実行するためのリソース割り当ておよび権限に関する情報を含む、ユーザアカウントとユーザのドメイン (Web サイト) に関連した、コントロールパネルのすべての設定およびデータが含まれます。

個々のドメイン (Web サイト) をバックアップ。 バックアップアーカイブには、ドメイン管理者アカウントやドメイン (Web サイト) やメールサービス (メールボックスや Horde Turba アドレスブック連絡先一覧、アンチスパムやアンチウィルスの設定など) 関連のすべてのデータが含まれます。

バックアップのスケジュール。 サーバ全体のバックアップをスケジュールするには、バックアップユーティリティをスケジュールに合わせて実行するクローンタスクを追加する必要があります。ユーザアカウントとドメインのバックアップのスケジュールは、コントロールパネルを使用して実行できます。

バックアップアーカイブからデータを復元

バックアップ機能および復元機能の使用権限が付与された顧客は、コントロールパネルから独自のアカウント設定および Web サイトをバックアップし、復元することができます。顧客、リセラー、リセラーの顧客のホームページには、それぞれのバックアップレポジトリへのショートカットが表示されます ([ホーム] > [バックアップ])。

サーバ shell へのアクセスが可能であり、コマンドラインでの作業を希望する場合は、「Backup and Restore Command Line Utilities User's Guide (コマンドラインからのバックアップと復元の手引き)」をご参照ください。 zip された HTML 形式 (<http://download1.swsoft.com/Plesk/Plesk8.0/Doc/plesk-8-backup-restore-users-guide.zip>) および Adobe PDF (<http://download1.swsoft.com/Plesk/Plesk8.0/Doc/plesk-8-backup-restore-users-guide.pdf>) をダウンロードできます。

サーバ全体のバックアップ

- サーバコンフィギュレーション設定およびホスティングマシンで保有するすべてのユーザデータをバックアップするには、以下を実行します。

- 1 rootとしてサーバにログインして下さい。
- 2 Pleskがインストールされたディレクトリに移動します。

```
cd /plesk_installation_directory/bin
```

- 3 以下のコマンドを実行します。

```
./pleskbackup all <filename>
```

<filename>は絶対パスまたは相対パスによるターゲットバックアップファイルです。データはホスティングサービスの割り込みやダウンタイムを発生させずにバックアップされます。最終的なバックアップアーカイブは、指定したディレクトリ内に配置されます。

ユーザのドメインによる個別ユーザアカウントのバックアップ

- ドメインによりユーザアカウントをバックアップするには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なクライアント名をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 4 バックアップファイルをFTPサーバに保管したい場合は、まだFTPサーバの宛先アドレスを指定していなければ [FTPリポジトリ] タブをクリックして [FTPアカウントプロパティ] をクリックして指定してください（「FTPリポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定」 『ページを参照239』 セクションを参照してください）。
- 5 [ツール] グループの [今すぐバックアップ] アイコンをクリックします。
- 6 バックアップファイル名を指定し、バックアップファイルの説明を入力します。
- 7 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。

- 8 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- 9 ユーザアカウント設定を保存するには、**【クライアントの個人情報とアカウントの詳細をバックアップ】** チェックボックスを選択します。
- 10 バックアップするドメインを選択します。
 - 個々のドメインをバックアップするには、ドメインのリストで対応するチェックボックスを選択します。
 - ユーザの全てのドメインをバックアップするには、ドメインのリストの右上にあるチェックボックスを選択します。
- 11 **【今すぐバックアップ】** をクリックします。
- 12 バックアップが開始し、進行状況が表示されます。画面の情報を更新するには、**【更新】** をクリックします。
- 13 バックアッププロセスが終了したら、**【OK】** をクリックします。

バックアップファイルはこのユーザアカウントのレポジトリに保存され、この後**【クライアント】 > 【クライアント名】 > 【バックアップ】** で表示される場所からアクセスできます。

個別ドメイン（Web サイト）のバックアップ

- **ドメインおよびWeb サイトを保留するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの**【ドメイン】**ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 **【ドメイン】**グループの**【バックアップ】**アイコンをクリックします。
 - 4 バックアップファイルをFTPサーバに保管したい場合は、まだFTPサーバの宛先アドレスを指定していなければ**【FTPリポジトリ】**タブをクリックして**【FTPアカウントプロパティ】**をクリックして指定してください。
 - 5 **【ツール】**グループの**【今すぐバックアップ】**アイコンをクリックします。
 - 6 バックアップファイル名を指定し、バックアップファイルの説明を入力します。
 - 7 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
 - 8 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - 9 **【今すぐバックアップ】** をクリックします。
 - 10 バックアップが開始し、進行状況が表示されます。画面の情報を更新するには、**【更新】** をクリックします。

11 バックアッププロセスが終了したら、[OK] をクリックします。

バックアップファイルはこのユーザアカウントのレポジトリに保存され、その後[ドメイン] > [ドメイン名] > [バックアップ] で表示される場所からアクセスできます。

バックアップのスケジューリング

➤ **サーバ設定とすべてのユーザデータのバックアップをスケジュールするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [スケジュール済みタスク] アイコンをクリックします。
- 3 [新しいタスクを追加] をクリックします。
- 4 バックアップを実行する日時を指定します。

- 分 - 0~59 の値を入力
- 時 - 0~23 の値を入力
- 日 - 1~31 の値を入力
- 月 - 1~12 の値を入力するか、ドロップダウンボックスから月を選択
- 曜日 - 0~6 (日曜日が0) の値を入力するか、ドロップダウンボックスから曜日を選択

UNIX クローンタブエントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、次の作業を実行できます。

- 複数の値をコンマ区切りで入力します。ハイフンで区切った2つの数字は、包括的範囲を意味します。例えば、ある月の4日、5日、6日、20日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
- アスタリスクを挿入すると、そのフィールドに入力できるすべての値を指定できます。例えば、タスクを毎日実行するには、[日] テキストボックスに「*」と入力します。

N ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」の組み合わせを入力します。Nはそのフィールドの適切な値です(分、時、日、月)。例えば、[分] フィールドに「*/15」を入力すると、15分ごとに起動するようにタスクがスケジュールされます。

月および週は省略名 (Aug、Jul、Mon、Sat などの最初の3文字) で入力できます。ただし、省略名はコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することができません。

- 5 [コマンド] 入力ボックスにコマンドを指定します。

```
usr/local/psa/bin/pleskbackup all <filename>
```

<filename>はファイル場所までの絶対パスまたは相対パスによるターゲットバックアップファイル名です。

6 [OK] をクリックします。

データはホスティングサービスの割り込みやダウンタイムを発生させずにバックアップされます。最終的なバックアップアーカイブは、指定したディレクトリ内に配置されます。

➤ **ユーザアカウントとユーザサイトのバックアップをスケジュールするには、以下を実行します。**

1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。

2 必要なクライアント名をクリックします。

3 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。

4 [ツール] グループの [バックアップのスケジュールリング] アイコンをクリックします。

5 バックアップを実行する日時および間隔を指定します。

6 バックアップファイルの再利用を有効にするには、[無制限] チェックボックスを解除し、リポジトリの最大許容ファイル数を入力します。
この制限に達した場合、最も古いバックアップファイルが削除されます。

7 バックアップファイル名の先頭の記号の組み合わせを指定します。
この指定により、バックアップファイルを区別しやすくなります。

8 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。

9 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。

10 ユーザアカウント設定を保存するには、[クライアントの個人情報とアカウントの詳細をバックアップ] チェックボックスを選択します。

11 バックアップするドメインを選択します。

- 全てのドメインをバックアップするには、ドメインのリストの左上にあるチェックボックスを選択します。
- 個々のドメインをバックアップするには、ドメインのリストで対応するチェックボックスを選択します。

12 [ツール] グループの [有効化] アイコンをクリックします。

13 [OK] をクリックします。

➤ **単一ドメイン (Web サイト) のバックアップをスケジュールするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [バックアップのスケジューリング] アイコンをクリックします。
- 5 バックアップを実行する日時および間隔を指定します。
- 6 バックアップファイルの再利用を有効にするには、[無制限] チェックボックスを解除し、リポジトリの最大許容ファイル数を入力します。
この制限に達した場合、最も古いバックアップファイルが削除されます。
- 7 バックアップファイル名の先頭の記号の組み合わせを指定します。
この指定により、バックアップファイルを区別しやすくなります。
- 8 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- 9 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
- 10 [ツール] グループの [有効化] アイコンをクリックします。
- 11 [OK] をクリックします。

サーバパフォーマンスの最適化

多数の Web サイトを提供している場合、バックアップおよび復元のプロセスにサーバリソースをあまり使わないで済むように、そのスケジュールを設定することができます。

➤ **サーバ負荷を減少するには以下を実行してください。**

- 1 [サーバ] > [バックアップ設定]に進みます。
- 2 [同時に実行するバックアッププロセスの最大値] で同時に実行するバックアッププロセスの最大値を指定します。デフォルト値は10です。それよりも小さい値を入力してください。
- 3 [バックアッププロセスを低い優先度で実行する] チェックボックスを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

バックアップアーカイブからのデータの復元

Plesk 7.5.4 コントロールパネルでバックアップを取ったデータを復元できます。データを復元する前にサーバに root でログインして、7.5.4 で作成した各バックアップファイルについて以下の変換ユーティリティを実行する必要があります。

```
plesk_installation_directory/bin/backup-convert.py convert -o  
<new backup file name> <old backup file name>、<new backup file name>  
は変換ユーティリティが作成した新しいバックアップファイルへのパスであり、<old  
backup file name> は Plesk 7.5.4 が作成したバックアップファイルです。
```

➤ **サーバ設定とすべてのユーザデータをバックアップファイルから復元するには、以下を実行します。**

- 1 rootとしてサーバにログインして下さい。
- 2 Pleskがインストールされたディレクトリに移動します。

```
cd /plesk_installation_directory/bin
```

- 3 バックアップファイルに保存されている項目（ユーザアカウント、サイト、など）とPleskホスティングプラットフォームが現時点で提供している項目とのマッピングを定義するファイルを作成します。それには以下のコマンドを実行してください。

```
./pleskrestore --create-map <backup file name> -map <map file  
name>
```

多重ボリュームのバックアップがある場合、最初のボリュームを <backup file name> に指定してください。

マッピングファイルが指定した場所に作成され保存されます。ほとんどの場合、このファイルを編集する必要はありません。このファイルの内容を見直したり項目のマッピングを指定したりする必要が発生するのは、オブジェクトの不一致（例えばバックアップファイルにリストされている IP アドレスの範囲がサーバで有効な IP アドレスと異なる場合など）が原因でバックアップからデータの復元ができなかった場合や、復元されるオブジェクトを個別に指定したい場合に限られます。

- 4 全てのバックアップデータ（サーバおよびコントロールパネルの設定、アプリケーションヴォルト、ユーザアカウント、Webサイト、データベース、メールメッセージの入ったメールボックス、を含みます）を復元するには以下のコマンドを実行します。

```
./pleskrestore --restore <backup file name> -map <map file  
name> -level all
```

<backup file name> と <map file name> はそれぞれバックアップとマップファイルへのパスです。多重ボリュームのバックアップがある場合、最初のボリュームを <backup file name> に指定してください。データはホスティングサービスの割り込みやダウンタイムを発生させずに復元されます。サーバの設定や全てのユーザデータ（Web サイトの内容やメールボックスのメッセージを含みます）が上書きされます。

➤ **ドメインによりユーザアカウントを復元するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なクライアント名をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 4 FTPサーバに保存されているファイルからデータを復元するには [FTP リポジトリ] タブをクリックします。
- 5 必要なバックアップファイル名をクリックします。
- 6 [クライアントの選択設定およびアカウントの詳細を復元する] チェックボックスを選択します。
- 7 復元したいドメインを選択します。
- 8 [次へ>>] をクリックします。

このアカウントまたはドメインのいずれかに、バックアップに指定されていない他の IP アドレスまたはデータベースサーバが割り当てられている場合、新規に使用する IP アドレスおよびデータベースサーバを選択して、衝突を解決するように要求されます。[次へ] をクリックします。[次へ>>] をクリックします。

- 9 復元が始まり、その進行状況が表示されます。画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。
- 10 復元プロセスが終了したら、[OK] をクリックします。

➤ **ドメイン (Web サイト) を復元するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 4 FTPサーバに保存されているファイルからデータを復元するには [FTP リポジトリ] タブをクリックします。
- 5 必要なバックアップファイル名をクリックします。
- 6 [今すぐ復元] をクリックします。

復元が始まり、その進行状況が表示されます。画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。

- 7 復元プロセスが終了したら、[OK] をクリックします。

バックアップファイルレポジトリの維持

ドメインバックアップは通常、サーバでホスティングされている各ドメインの別々のバックアップレポジトリに保存されます。そこにアクセスするには、[ドメイン] ショートカットをクリックして、必要なドメイン名をクリックして、[バックアップ] をクリックします。これらのバックアップレポジトリは以下の方法で管理することができます。

- 他のコンピュータに保存されているバックアップファイルのアップロード。
- 他のコンピュータへのバックアップファイルのダウンロード。
- レポジトリからの冗長バックアップファイルの削除。


バックアップファイルのサーバへのアップロード

➤ **バックアップファイルをバックアップレポジトリにアップロードするには、以下を実行します。**


- 1 必要なレポジトリにアクセスします。
 - 特定のクライアントのレポジトリにアクセスするには、ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックし、必要なユーザ名をクリックし、[ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
 - 特定の Web サイトに関連したレポジトリにアクセスするには、ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックし、必要なドメイン名をクリックし、[ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 2 [ファイルをローカルレポジトリにアップロード] をクリックします。
- 3 [参照] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップレポジトリにアップロードされます。

サーバからのバックアップファイルのダウンロード

- バックアップファイルをバックアップレポジトリからダウンロードするには、以下を実行します。
- 1 必要なレポジトリにアクセスします。
 - 特定のクライアントのレポジトリにアクセスするには、ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックし、必要なユーザ名をクリックし、 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
 - 特定の Web サイトに関連したレポジトリにアクセスするには、ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックし、必要なドメイン名をクリックし、 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 2 ダウンロードするバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
- 3 バックアップを保存する場所を選択し、 [保存] をクリックします。
バックアップファイルが、バックアップレポジトリからダウンロードされます。

サーバからのバックアップファイルの削除

- バックアップファイルをバックアップレポジトリから削除するには、以下を実行します。
- 1 必要なレポジトリにアクセスします。
 - 特定のクライアントのレポジトリにアクセスするには、ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックし、必要なユーザ名をクリックし、 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
 - 特定の Web サイトに関連したレポジトリにアクセスするには、ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックし、必要なドメイン名をクリックし、 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 2 削除したいバックアップファイルに対応するチェックボックスを選びます。
- 3  [選択対象を削除] をクリックします。
- 4 削除を確認して [OK] をクリックします。

FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定

バックアップファイルの保存に FTP サーバを使用する場合はコントロールパネルを適切にセットアップする必要があります。

- 1 必要なリポジトリへ移動してください。
 - クライアントアカウントレベルのリポジトリには、[クライアント] > [クライアント名] > [バックアップ] > [FTP リポジトリ] > [FTP アカウントプロパティ] に進みます。
 - ドメインレベルのリポジトリには、[ドメイン] > [ドメイン名] > [バックアップ] > [FTP リポジトリ] > [FTP アカウントプロパティ] に進みます。
- 2 以下のプロパティを指定してください。
 - FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名
 - バックアップファイルを保存したいサーバのディレクトリ
 - FTP アカウントにアクセスするユーザ名とパスワード
- 3 [OK] をクリックします。

章 13

統計の表示

➤ **サーバ利用に関する情報を表示するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [システム] グループの [統計] アイコンをクリックします。

次の情報が表示されます。

- プロセッサ情報
 - Plesk のバージョンとビルド番号
 - オペレーティングシステムとそのカーネルバージョン
 - Plesk ライセンスキー番号
 - サーバアップタイム
 - 直近の 1 分、5 分、15 分のプロセッサの負荷平均
 - RAM のインストール量および使用量
 - 使用されているスワップスペース容量
 - ハードディスクのパーティションおよびディレクトリ別使用量
 - 接続（マウント）しているストレージとネットワークストレージデバイス
 - ホストされたドメインの数を示すには以下を実行します。 [アクティブ] にはオンラインのドメインの数が示されます。 [問題] オンライン状態のままだがディスク容量と帯域幅の割り当てを超えているドメインが示されます。 [パッシブ] には各ユーザまたはユーザのリセラーにより保留にされたためにオフラインのドメインが示されます。
- 3 サーバ統計を最新のデータで更新する場合は、 [更新] アイコンをクリックします。




➤ **サーバにインストールされ、Plesk コントロールパネルで管理されるソフトウェアコンポーネントに関する情報を表示するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [システム] グループの [コンポーネント情報] アイコンをクリックします。
- 3 [更新] アイコンをクリックして情報を更新します。

- ユーザアカウントとユーザのサイトに関する連結レポートを表示するには、以下を実行します。
 - 1 ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なユーザ名をクリックします。
 - 3 [ツール] グループの [レポート] アイコンをクリックします。

- 特定のドメイン名/Web サイトで使用されるサーバリソースとホスティング機能に関する詳細レポートを表示するには、以下を実行します。
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [レポート] アイコンをクリックします。

以下はレポートの共通操作です。

- 詳細を表示するには、[レポート] ドロップダウンメニューから [フルレポート] オプションを選択します。
- レポートに表示される情報の量を調整するには、[カスタマイズ] アイコンをクリックし、既存のレポートテンプレートを変更します（この場合、レポートテンプレート名をクリック）か、新しいレポートテンプレートを作成します（この場合、[新しいレイアウトを追加] アイコンをクリックします）。次に、レポートの各セクションで必要な情報の量を指定します。どの情報も必要としない場合は [なし] を、詳細な概要が必要な場合は [サマリー] を、詳細なレポートが必要な場合は [フル] をそれぞれ選択します。[デフォルトレポートとして使用] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。カスタムレポートレイアウトを削除するには、レポートレイアウト名の対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックします。
- レポートを印刷するには、 [印刷] アイコンをクリックします。別のブラウザウィンドウにレポートが表示されます。ブラウザのメニューから [ファイル] > [印刷] オプションを選択して、レポートを印刷します。
- メールでレポートを送信するには、[レポート] グループの右側にある入力ボックスに受信者のメールアドレスを入力し、 [メールにより送信] アイコンをクリックします。自分が受信者である場合、メールアドレスを指定する必要がありません。システムはデフォルトで、使用中のユーザがレポート受信者と想定し、使用中のユーザのコントロールパネルアカウントに登録されたメールアドレスを指定します。
- レポートを毎日、毎週、または毎月自動的に生成し、メールで配信するには、[レポート送信] アイコンをクリックし、「レポート生成とメールによる配信の自動化」セクションの指示に従ってください。

➤ **サイトの閲覧者数、閲覧元の国、およびサイトで閲覧されたページの内容を調べるには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [レポート] アイコンをクリックします。
- 4 サイトの特定のエリア間でダウンロードもしくはアップロードした Web ページまたはファイルの統計を閲覧するには、以下を実行します。
 - ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、[Web 統計] をクリックします。
 - 保護付きハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、[Web 統計 SSL] をクリックします。
 - ファイル転送プロトコル (FTP) で転送されたファイルの統計を表示するには、[FTP 統計] をクリックします。
 - 帯域幅利用量を月別に表示するには、[トラフィック履歴] アイコンをクリックします。
 - 帯域幅利用量をこのドメイン内の FTP 別、Web 別、メールサービス別に表示するには、[トラフィック] アイコンをクリックします。

注：アカウント上で Webalizer 統計パッケージを使用している場合、表示されるグラフレポートをカスタマイズすることができます。その手順については「Web 統計表示の選択設定の調整」『ページを参照242』セクションを参照してください。

または、次の URL を表示することによってサイトの Web 統計を確認できます。
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat> ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されたら、FTP アカウント信用信息を指定します。

Webalizer による Web 統計表示の選択設定の調整

デフォルトでは、統計ユーティリティは自分のサイトから、すなわち自分専用の Web ページから行った Web ページおよびその他のファイルに対する要求をカウントし、報告します。よって、ユーザのブラウザが自分のサイトから、スクリプト、カスケードスタイルシート、メディアファイルなどの他のファイルの参照を含む単一の Web ページを要求した場合、統計ユーティリティはこれらのファイルの参照を、自分の Web ページを閲覧したかのように報告します。このため、デフォルトの設定では、利用量の統計は正確性を欠くことになります。

これに対応するため、次のような操作が可能です。

- 上記のような内部参照、および他のサイトからの参照を隠す。
- 複数のサイトからの参照をグループ化し、単一の場所から参照されたかのように見せかける。

- ディレクトリクエストを隠す。ユーザがブラウザに URL を入力した自分のサイトにアクセスした場合、ディレクトリクエストが自分の Web サーバに送信されます。

自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示

- **内部参照および他のサイトからの参照を隠すには、以下を実行します。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [レポート] アイコンをクリックします。
 - 4 [Web統計の選択設定] アイコンをクリックします。
 - 5 [エントリの非表示] アイコンをクリックします。
 - 6 [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[リファラ] 値を選択したままにしておきます。
 - 7 [リファラ] フィールドに、Web統計レポートにリファラを表示する必要のないドメイン名を入力します。
「*」ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。
 - 8 [OK] をクリックします。

- **参照を表示するには、以下を実行します。**
 - 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
 - 2 必要なドメイン名をクリックします。
 - 3 [レポート] アイコンをクリックします。
 - 4 [Web統計の選択設定] アイコンをクリックします。非表示のエントリがすべてリストに表示されます。
 - 5 表示するエントリに対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 6 操作を確認して [OK] をクリックします。

他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除

➤ 特定のサイトからの参照をグループ化するには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [レポート] アイコンをクリックします。
- 4 [Web統計の選択設定] アイコンをクリックします。
- 5 [リファラのグループ化] タブをクリックします。
- 6 [リファラのグループ化] アイコンをクリックします。
- 7 特定のサイトのすべてのリファラに表示するグループ名を入力します。
- 8 [リファラ] 入力ボックスに、すべてのリファラをグループ化するサイト (ドメイン名) を指定します。
「*」ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。
- 9 [OK] をクリックします。

➤ 特定のサイトからの参照をグループ解除するには、以下を実行します。

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [レポート] アイコンをクリックします。
- 4 [Web統計の選択設定] アイコンをクリックします。
- 5 [リファラのグループ化] タブをクリックします。すべてのリファラグループ名がリストに表示されます。
- 6 必要なグループ名に対応するチェックボックスを選択し、**✗** [選択対象を削除] をクリックします。
- 7 操作を確認して [OK] をクリックします。

ダイレクトリクエストの表示と非表示

➤ **ダイレクトリクエストを非表示にするには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [レポート] アイコンをクリックします。
- 4 [Web統計の選択設定] アイコンをクリックします。
- 5 [エントリの非表示] アイコンをクリックします。
- 6 [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[ダイレクトリクエスト] 値を選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **ダイレクトリクエストを表示するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [レポート] アイコンをクリックします。
- 4 [Web統計の選択設定] アイコンをクリックします。非表示のエントリがすべてリストに表示されます。
- 5 [ダイレクトリクエスト] に対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。
- 6 操作を確認して [OK] をクリックします。

レポート生成とメールによる配信の自動化

- 1 つまたは複数のユーザアカウントの連結レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。
 - 1 [クライアント] > [クライアント名] > [レポート] > [レポートの配信] に進み、[配信スケジュールの追加] をクリックします。
 - 2 システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[送信先] ドロップダウンメニューから [サーバ管理者] の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[指定したメールアドレス] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。クライアントにレポートを送信するには、[クライアント] オプションを選択します。各クライアントすべてにクライアントレポートを送信するには、[全てのクライアントに関するレポート] オプションを選択します。
 - 3 [送信頻度] ドロップダウンメニューから送信間隔を選択し、[OK] をクリックします。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。

- アカウントステータスレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。
 - 1 [クライアント] > [クライアント名] > [レポート] > [レポートの配信] に進みます。
 - 2 [頻度] 列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - 3 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。

- アカウントステータスレポートの受信を停止するには、以下を実行します。
 - 1 [クライアント] > [クライアント名] > [レポート] > [レポートの配信] に進みます。
 - 2 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。



- 1つまたは複数のドメインやWeb サイトに関する詳細レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。
 - 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [レポート] > [レポートの配信] に進み、[配信スケジュールの追加] をクリックします。
 - 2 システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[送信先] ドロップダウンメニューからサーバ管理者の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[指定したメールアドレス] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。このドメイン名やWebサイトが別のユーザに属する場合、そのユーザにレポートを送信できます。[クライアント] オプションまたは[ドメイン管理者] オプションを選択します。
 - 3 特定のドメインやWebサイトに関するレポートを受信するには、[このドメイン] オプションを選択したままにしておきます。特定のユーザアカウントに属する各ドメインに関する詳細レポートを受信するには、[このクライアントの全てのドメイン] オプションを選択します。サーバでホスティングされる全てのドメインに関するレポートを受信するには、[全てのドメイン] オプションを選択します。
 - 4 [送信頻度] ドロップダウンメニューから送信間隔を選択し、[OK] をクリックします。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。

- 詳細なドメインやWeb サイトレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。
 - 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [レポート] > [レポートの配信] に進みます。
 - 2 [頻度] 列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - 3 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。

- ドメインレポートの受信を停止するには、以下を実行します。
 - 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [レポート] > [レポートの配信] に進みます。
 - 2 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

ログファイルの表示とログファイルの再利用の設定






Web サーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。これらのログファイルをコンピュータにダウンロードして、サードパーティ製の統計ユーティリティで処理したり、Web サーバをデバッグするためにログファイルのコンテンツを調べることができます。

- これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。
- 1 [ドメイン] > [ドメイン名] > [ログマネージャ] > [ログローテーション]に進み、[有効化] をクリックします。[無効化] しか表示されない場合、ログの再利用がすでに有効になっています。
- 2 ログファイルを再利用する時期、およびサーバに格納する各ログファイルのインスタンス数を指定します。ログファイルを圧縮するか、処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。[OK] をクリックします。
- ログファイルのコンテンツを表示する、またはコンピュータにダウンロードするには、以下を実行します。
- 1 [ドメイン] > [ドメイン名]に進み、[ホスティング] グループの [ログマネージャ] をクリックします。ログファイルのリストが表示されます。
 - ログファイルの表示する行数を、最後から数えた行数で指定し、[選択設定] グループの入力ボックスに数字を入力します。
 - ログファイルのコンテンツを表示するには、ファイル名をクリックします。
 - コンピュータにファイルをダウンロードするには、必要なファイルに対応するアイコンをクリックします。
 - サーバから処理済みのログファイルを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

章 14

コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニタリング


コントロールパネルへの接続のモニタリング

- 現在コントロールパネルにログインしている顧客名を探すには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペイン内の [セッション] をクリックします。自分も含めた全てのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
 - **タイプ** セッションを確立したコントロールパネルユーザのタイプ
 -  サーバ管理者
 -  クライアント
 -  ドメインまたは Web サイトオーナー
 -  メールボックスオーナー
 - **ログイン** ユーザがログインしたときのログイン名
 - **IP アドレス** コントロールパネルにアクセスした IP アドレス
 - **ログイン時間** ユーザがコントロールパネルにログインした日時
 - **アイドル時間** ユーザがログイン中にコントロールパネルで何も作業を行っていない時間
 - 2 ユーザセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
 - 3 ユーザセッションを終了するには、各チェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックし、削除を確認してから [OK] をクリックします。

FTP サービスへの接続のモニタリング


➤ FTP を使用してサーバに接続しているユーザ名、そのユーザが作業しているディレクトリ名、およびサーバ間でアップロードまたはダウンロードを行っているファイル名を確認するには、以下を実行します。


- 1 ナビゲーションペイン内の [セッション] をクリックします。
- 2 [FTPセッション] タブをクリックします。 自分も含めた全てのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。


タイプ セッションを確立したユーザのタイプ  コントロールパネルに登録していないユーザ

 匿名 FTP ユーザ

 ドメインまたは Web サイト管理者

 サブドメイン管理者

 Web ユーザ (個別のドメイン名を持たない個人 Web ページのオーナー)

- ステータス FTP 接続の現在のステータス
 - FTP ユーザログイン FTP アカウントへのアクセスに使用したログイン名
 - ドメイン名 FTP ユーザが現在接続しているドメイン
 - 現在のロケーション FTP ユーザが現在いるディレクトリ
 - ファイル名 操作中のファイル名
 - スピード 転送速度 (キロバイト)
 - 進捗 (%) パーセンテージで示されるファイル移行の進捗度
 - IP アドレス FTP アカウントにアクセスしている IP アドレス
 - ログイン時間 現在のユーザがログインしてからの経過時間
 - アイドル時間 FTP を使用してサーバに接続している間に、ユーザが何も作業を行っていない時間
- 3 FTPセッションのリストを更新するには [更新] をクリックします。
 - 4 セッションを終わらせるには、該当するチェックボックスをチェックして、 [選択対象を削除] をクリックします。

章 15

コントロールパネルで顧客が実行したアクションのロギング

システムの様々なユーザが行ったアクションのトラッキングが必要な場合があります。全てのアクションはログファイルに記録されており、後でダウンロードしてそれを閲覧できます。以下のシステムイベント（アクション）のログを残すことができます。

- 管理者情報変更
- システムサービスの再起動、起動、停止
- IPアドレスの追加、削除、変更
- クライアントアカウントの作成、削除、個人もしくはシステム情報の変更
- クライアントアカウントのステータス変更（有効または無効）
- クライアントのインターフェース選択設定の変更
- クライアントの IP プールの変更
- クライアントアカウントのディスクスペース制限超過
- クライアントアカウントのトラフィック制限超過
- ドメインのディスク容量制限超過
- ドメインのトラフィック制限超過
- ドメインクライアントアカウントプロパティの変更
- ドメインの作成、削除、設定の変更
- ドメインのステータス変更（有効または/無効）
- ドメインの DNS ゾーン更新
- サブドメインの作成、削除、設定の変更
- クライアントアカウントの制限の変更
- クライアントの権限の変更
- ドメイン制限の変更
- ユーザのコントロールパネルへのログインとログアウト
- メール名の作成、削除、変更
- メールリングリストの作成、削除、変更
- 物理的ホスティングの作成、削除、変更
- Web ユーザアカウントの作成、削除、変更
- サイトアプリケーションのインストール、再構築、アンインストール
- サイトアプリケーションパッケージのインストール、アンインストール
- ライセンスキーのアップデート

アクションログの設定

- **アクションログを設定するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [コントロールパネル]グループの [アクションログ] をクリックします。
 - 3 [ログに記録されるアクション] グループで、チェックボックスを使用してログに記録されるアクションを選択します。
 - 4 [データベースに記録を保存] フィールドでアクションログ解除オプションを選択します。日次、週次、月次、もしくはデータベースに保存されるレコードの数を指定することもできます。
 - 5 全てのアクションログレコードを保存する場合は、 [レコードを削除しない] オプションを選択します。
 - 6 変更を適用するには、 [OK] をクリックします。

アクションログのダウンロード

- **コンピュータにアクションログをダウンロードするには、以下を実行します。**
- 1 [サーバ] > [アクションログ] に進みます。
 - 2 [ログファイル] セクションでドロップダウンボックスを使用して期間を選択し、 [ダウンロード] をクリックします。
ダウンロードするファイルを保存する場所を尋ねるダイアログウィンドウが開きます。
 - 3 保存場所を指定して [保存] をクリックします。

アクションログの消去

- アクションログを消去するには、以下を実行します。
- 1 [サーバ] > [アクションログ] に進みます。
- 2 [ログファイル] セクションで、[ログ消去] をクリックします。

章 16

多数の Plesk サーバに対する集中アクセスの使用

Plesk 管理サーバが複数存在する場合、いずれかのサーバのコントロールパネルを使用して、他のサーバのアクセスおよび管理を実行できます。この機能がコントロールパネル内で使用できるかどうかを確認するには、ナビゲーションパネルの [マスター] ショートカットの表示を確認します。

マスター機能では (Web ブラウザのパスワードマネージャと同様に) 他の Plesk 管理サーバにアクセスするための信用情報を記憶することができます。いずれかのサーバのコントロールパネルにログインする必要がある場合、そのコントロールパネルのスレーブサーバのリストを表示し、アイコンをクリックする必要があります。別のサーバで実行中のコントロールパネルは、新しいブラウザウィンドウに表示されます。

複数のサーバへの単一のエン트리ポイントを示す以外に、マスター機能は指定した他のサーバのポーリング、システムサービスの状態およびリソース利用率に関する情報の取得、およびこのような情報のコントロールパネルへの表示も実行します。

マスター機能を使用すると、作業時間を節約しクリック回数を少し減らすことができます。サーバの数が多く、本格的にサーバ集中管理が必要になる場合は、SWsoft 社の Plesk Expand か HSPcomplete ソリューションをご使用ください。


サーバレコードの追加

- **Plesk 管理サーバに関するレコードをコントロールパネルに追加するには、以下を実行します。**
- 1 [マスター] > [新しいサーバを追加] に進みます。
- 2 適切なフィールドにホスト名とポート番号を入力し、Plesk が所定のスレーブサーバにログインする際に使用するログイン名とパスワードを指定します。スレーブサーバの説明を入力することもできます。この時点で詳細なサーバ情報を取り出し表示する必要がない場合は、[スレーブサーバに情報をリクエストしない] チェックボックスを選択します。
- 3 [設定] をクリックします。

- 4 そのサーバのコントロールパネルへのセキュアな接続に使用する SSL 証明書をアップロードするには、[証明書] ボタンをクリックします。[参照...] をクリックして、証明書ファイルを探すか、クリップボードから証明書の内容をペーストします。その後、それぞれ [ファイル送信] または [テキスト送信] ボタンをクリックし、スレーブサーバに証明書をアップロードします。

サーバレコードの変更が必要な場合、ナビゲーションペインで [マスター] ショートカットをクリックし、必要なホスト名をクリックします。

サーバ情報の表示とサーバへのログイン

- **サーバに関する情報を表示し、サーバのコントロールパネルにログインするには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [マスター] ショートカットをクリックします。追加した全てのサーバに関する次の情報が表示されます。
 - S 列のステータスアイコン
 - ✔ - サーバが操作可能な状態であり、リソースの使用過多がない。
 - ❗ - 一部のシステムサービスが停止している。
 - ⚠ - 少なくとも 1 つのユーザアカウントがリソース（ディスクスペースまたは帯域幅）割り当てを超えている。
 - ✖ - サーバが停止またはアクセス不可。
 - ❓ - サーバでステータスのポーリングが行われていない。
 - ホスト名
 - 指定した [詳細]
 - 2 詳細なサーバレポートを表示するには、必要なホスト名をクリックします。
 - 3 サーバのコントロールパネルにログインするにはそれぞれの  アイコンをクリックします。

サーバレコードの削除

- *サーバレポートを削除するには、以下を実行します。*
- 1 ナビゲーションペインの [マスター] ショートカットをクリックします。
- 2 削除したいレコードに対応するチェックボックスを選択します。
- 3 **×** [選択対象の削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

章 17

コントロールパネルのアップグレード

コントロールパネル内で Plesk アップデーター機能を使用すると、必要なアップデートおよびコントロールパネルアドオンを簡単にインストールでき、さらにコントロールパネルを最新のリリースにアップグレードできます。

➤ **Plesk コントロールパネルをアップグレードするには、または Plesk コンポーネントを更新するには、以下を実行します。**

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [アップデーター] アイコンをクリックします。

コントロールパネルが URL <http://autoinstall.plesk.com>にある SWsoft の公式 Plesk アップデートサーバに接続し、入手可能なリリースの情報を取得してシステムにインストールされているコンポーネントを解析し、入手可能なリリースとコンポーネントアップデートのリストを表示します。各リリースについて、利用可能なオペレーションの簡単な説明が表示されます。

注：Plesk 管理サーバが複数存在し、(Plesk 8 インストールガイドの説明に従って) ネットワークに Plesk アップデートサーバのミラーを設定している場合、「アップデート設定の変更による Plesk アップデータの設定」のセクションを参照して、ローカルミラーからインストールファイルを取り出します。

- 3 アップデートまたはアップグレードしたいリリースバージョンを選択します。入手可能なコンポーネントのリストが表示されます。
- 4 インストールしたいコンポーネントに対応するチェックボックスをチェックし、[インストール] をクリックしてください。確認ページが表示されます。
- 5 メールアドレスを指定して下さい。アップデートが完了すると、メールで通知が送信されます。選択したコンポーネントのインストールを確認するには、チェックボックスを選択して、[OK] をクリックします。選択したコンポーネントまたはアップデートがダウンロードされ、バックグラウンドモードに自動的にインストールされます。

注 (アップデート手順について) :

コントロールパネルのバージョンを新しいバージョンにアップグレードする場合、アップグレード手順の開始と終了がメールで通知されます。アップグレードが成功すると、通知メッセージにはイベントログとインストールされたパッケージのリストが含まれます。ただし、メールサーバに不具合が生じていてもエラーメッセージは送信されません。この場合、サーバのハードドライブ上の/tmp ディレクトリにある autoinstaller.log ファイルでエラーをチェックできます。

コントロールパネルのオペレーションは全て、コントロールパネルの中核機能に影響を及ぼすいわゆる「基本」パッケージのインストール中は停止します。

アップグレード後に新しいライセンスキーのインストールが必要になる場合、「ライセンスキーのアップグレード」セクションを参照して下さい。ライセンスキーのインストールについて問題が発生した場合、sales@swsoft.com にご連絡下さい。


アップデーター設定の変更

デフォルトでは Plesk やオペレーティングシステムの更新は<http://autoinstall.plesk.com>にある公式 Plesk アップデートサーバからダウンロードするようになっています。

➤ ローカルネットワークストレージから Plesk アップデートを受け取るには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [アップデーター] アイコンをクリックします。
- 3 [選択設定] をクリックします。
- 4 [Pleskアップデートソース] タブをクリックします。
- 5 [ソースタイプ] メニューから [ネットワークストレージ] オプションを選択してアップデートが置いてあるディレクトリへのURLを指定します。
- 6 [OK] をクリックすると設定が適用されます。

➤ オペレーティングシステムベンダーのサイトからサーバのオペレーティングシステムのアップデートを受け取るには以下を実行してください。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [サービス] グループの [アップデーター] アイコンをクリックします。
- 3 [選択設定] をクリックします。
- 4 [オペレーティングシステムアップデートのソース] のタブをクリックします。
- 5 Plesk アップデートサーバを出るには [S] カラムの [Plesk アップデートサーバ] エントリに対応するアイコン  をクリックします。

- 6 [ソースの追加] をクリックして以下を指定します。
 - ソースタイプ。ベンダーのサイトからアップデートを受け取るのであれば `repomd` (`xml-rpm-metadata` リポジトリ) の値は選択したままにします。サーバのハードディスクやマウントされたネットワークシェアからアップデートを受け取るのであれば `directory` (ローカルディレクトリ) の値を選択します。
 - ソース URL。パッケージファイルのある URL を入力します。例えば、<http://download.fedora.redhat.com/fedora/linux/core/updates/2/i386> となります。
 - ソースの優先度。複数のダウンロードサイトをご利用の場合、アップデートを取得する順番を指定することができます。それには、各ソースに対して異なるレベルの優先度を指定します。リストから値を選択するか、[カスタム] を選択して 1 (最低) から 999 (最高) までの数を入力します。
 - 認証。アップデートを受け取るのにベンダーのサイトの認証が必要であれば [認証] チェックボックスを選択してユーザ名およびパスワードを指定します。
- 7 [OK] をクリックします。

コントロールパネルからアップデーター機能へのアクセスを拒否

サーバ管理タスクを他のユーザに委任するけれども、彼らにコントロールパネルからアップデーター機能を使用したりアップデートの設定を変更したりして欲しくない場合は、コントロールパネルからアップデーター設定に関する画面や [アップデーター] アイコンを削除することができます。それには、次の MySQL コマンドを使用します。

```
echo 'REPLACE misc SET param="disable_updater", val="true"' | mysql  
psa -uadmin -p`cat /etc/psa/.psa.shadow`
```

コントロールパネルに [アップデーター] アイコンおよび画面を復元するには、次の MySQL コマンドを使用します。

```
echo 'REPLACE misc SET  
param="disable_updater", val="false"' | mysql  
psa -uadmin -p`cat /etc/psa/.psa.shadow`
```

章 18

付録 A. 拡張機能

コントロールパネルで使用可能なオペレーションに加えて、Plesk ソフトウェアは管理者がコマンドラインから実行できるいくつかの拡張管理機能を提供します。管理者は以下の作業が可能です。

- イベント追跡メカニズムを使用した、Plesk と外部システム間のデータ内部交換の編成
- ドメイン固有の Apache 設定ディレクティブの Web サーバ設定ファイルへのインクルード
- Tomcat コネクタポートの変更
- Plesk メール設定の復元

イベント追跡メカニズムの使用

イベントマネージャは Plesk と外部システム間のデータ交換の構成に役立つよう設計されたものです。特定のコントロールパネルイベントで実行されるスクリプトを作成し、イベントの処理をトリガーするイベントハンドラを作成します。複数のハンドラを1つのイベントに割り当てることができます。

重要： Plesk 管理者はユーザ root に代わりサーバ上で実行可能なイベントハンドラを作成できます。root アカウントの使用を制限するには、`root.event_handler.lock` という名前の空ファイルをロケーション `/plesk_installation_directory/var/` に作成します。

イベントハンドラの追加

例えば、「クライアントアカウント作成」イベントのイベントハンドラを作成してみます。ハンドラは環境変数のクライアント名およびクライアントログイン名を承認します。説明を簡単にするために、以下のような `test-handler.sh` と呼ばれるシェルスクリプトを使用します。

```
#!/bin/bash
echo "-----" >> /tmp/event_handler.log
/bin/date          >> /tmp/event_handler.log # イベント日時に関する情報
/usr/bin/id       >> /tmp/event_handler.log # スクリプトが代わりに実行される
先のユーザの情報 (制御を確実にするため)
echo "client created" >> /tmp/event_handler.log # 作成されたクライアントアカウン
トの情報
echo "name: ${NEW_CONTACT_NAME}"          >> /tmp/event_handler.log # クライアン
ト名
echo "login: ${NEW_LOGIN_NAME}"          >> /tmp/event_handler.log # クライアント
ログイン名
echo "-----" >> /tmp/event_handler.log
```

このスクリプトはファイルにある情報をプリントし、その実行を制御します（スクリプトはバックグラウンドモードで実行されるため、`stdout/stderr`には情報を出力できません）。

例えば、使用するスクリプトがディレクトリ `/plesk_installation_directory/bin`にあると仮定します。コントロールパネル経由でイベントハンドラを作成し、スクリプトを登録します。

- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
- 2 [コントロールパネル] グループの [イベントマネージャ] アイコンをクリックします。
- 3 [新しいイベントハンドラを追加] アイコンをクリックします。 イベントハンドラ設定ページが表示されます。
- 4 [イベント] ドロップダウンボックスでハンドラを割り当てるイベントを選択します。
- 5 ハンドラ実行の優先順位を選択するか、カスタム値を指定します。 それを実行するには、 [優先度] ドロップダウンリストで [カスタム] を選択して値を入力します。
複数のハンドラを1つのイベントに割り当てる場合、異なる優先度（高い値に設定すると優先度も高くなります）でハンドラの実行シーケンスを指定できます。
- 6 ハンドラを実行するシステムユーザを選択します（例えば、「root」ユーザ）。
- 7 [コマンド] 入力フィールドで選択したイベントで実行するコマンドラインを指定します。 この例では `/usr/local/psa/bin/test-handler.sh` です。
- 8 [OK] をクリックします。

注： スクリプトでは、変数 \$NEW_CONTACT_NAME and \$NEW_LOGIN_NAME を指定しました。 ハンドラの実行中に、作成したクライアントの名前とログインをそれぞれ置き換えます。 使用可能な変数の完全なリストは次のセクションで提供されます。 削除オペレーションでは、new_xxx の変数はセットされないことにご注意ください。 そして作成オペレーションでは \$OLD_xxx のパラメータはセットされません。

Plesk コントロールパネルにログインし新規クライアントを作成するには、[連絡名] フィールドに「Some Client」、[ログイン] フィールドに「some_client」という値を指定してハンドラを呼び出すと、以下のレコードが /tmp/event_handler.log に追加されます。

```
Fri Mar 16 15:57:25 NOVT 2007
uid=0(root) gid=0(root) groups=0(root)
client created
name: Some client
login: some_client
```

1 つ以上のハンドラを指定するには、他のハンドラについても同じアクションを繰り返して下さい。

イベントハンドラ設定時に使用可能なパラメータテンプレートは以下の表の通りです。

表. 使用可能なイベントハンドラパラメータテンプレート

コンポーネント名 と説明	環境変数名		注
	以前使用した値	新しい値	
「クライアントアカウント作成」、「クライアントアカウント更新」、「クライアントアカウント削除」のイベント			
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
会社名	OLD_COMPANY_NAME	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	OLD_PHONE	NEW_PHONE	
ファックス	OLD_FAX	NEW_FAX	
メールアドレス	OLD_EMAIL	NEW_EMAIL	
住所	OLD_ADDRESS	NEW_ADDRESS	
都市	OLD_CITY	NEW_CITY	
州または県	OLD_STATE_PROVINCE	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	OLD_POSTAL_ZIP_CODE	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	
国	OLD_COUNTRY	NEW_COUNTRY	
「サブドメイン作成」、「サブドメイン更新」、「サブドメイン削除」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須

サブドメイン名	OLD_SUBDOMAIN_NAME	NEW_SUBDOMAIN_NAME	必須
親ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
FTP アカウント	OLD_SYSTEM_USER_TYPE	NEW_SYSTEM_USER_TYPE	
サブドメイン管理者のログイン名	OLD_SYSTEM_USER	NEW_SYSTEM_USER	
ハードディスククォータ	OLD_HARD_DISK_QUOTA	NEW_HARD_DISK_QUOTA	
SSI 対応	OLD_SSI_SUPPORT	NEW_SSI_SUPPORT	
PHP 対応	OLD_PHP_SUPPORT	NEW_PHP_SUPPORT	
CGI 対応	OLD_CGI_SUPPORT	NEW_CGI_SUPPORT	
Perl 対応	OLD_MOD_PERL_SUPPORT	NEW_MOD_PERL_SUPPORT	
Python 対応	OLD_MOD_PYTHON_SUPPORT	NEW_MOD_PYTHON_SUPPORT	
ColdFusion 対応	OLD_COLDFUSION_SUPPORT	NEW_COLDFUSION_SUPPORT	
Apache::ASP 対応	OLD_APACHE_ASP_SUPPORT	NEW_APACHE_ASP_SUPPORT	
SSL 対応	OLD_SSL_SUPPORT	NEW_SSL_SUPPORT	
「物理ホスティング作成」、「物理ホスティング更新」、「物理ホスティング削除」のイベント			
ドメインエイリアス名	OLD_DOMAIN_ALIAS_NAME	NEW_DOMAIN_ALIAS_NAME	必須
ドメインエイリアスの有効化または無効化	OLD_STATUS	NEW_STATUS	
ドメインエイリアスの Web サービスの有効化または無効化	OLD_DOMAIN_ALIAS_WEB	NEW_DOMAIN_ALIAS_WEB	
ドメインエイリアスのメールサービスの有効化または無効化	OLD_DOMAIN_ALIAS_MAIL	NEW_DOMAIN_ALIAS_MAIL	
ドメインエイリアスビジターが Java の Web アプリケーションへアクセス (有効または無効)	OLD_DOMAIN_ALIAS_TO_MCAT	NEW_DOMAIN_ALIAS_TO_MCAT	

「物理ホスティング作成」、「物理ホスティング更新」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
IP アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	
IP タイプ	OLD_IP_TYPE	NEW_IP_TYPE	
システムユーザ	OLD_SYSTEM_USER	NEW_SYSTEM_USER	
システムユーザのパスワード	OLD_SYSTEM_USER_PASSWORD	NEW_SYSTEM_USER_PASSWORD	
シェルアクセス	OLD_SYSTEM_SHELL	NEW_SYSTEM_SHELL	
FP 対応	OLD_FP_SUPPORT	NEW_FP_SUPPORT	
FP-SSL 対応	OLD_FPSSL_SUPPORT	NEW_FPSSL_SUPPORT	
FP オーサリング	OLD_FP_AUTHORIZING	NEW_FP_AUTHORIZING	
FP 管理者ログイン	OLD_FP_ADMIN_LOGIN	NEW_FP_ADMIN_LOGIN	
FP 管理者パスワード	OLD_FP_ADMIN_PASSWORD	NEW_FP_ADMIN_PASSWORD	
SSI 対応	OLD_SSI_SUPPORT	NEW_SSI_SUPPORT	
PHP 対応	OLD_PHP_SUPPORT	NEW_PHP_SUPPORT	
CGI 対応	OLD_CGI_SUPPORT	NEW_CGI_SUPPORT	
Perl 対応	OLD_MOD_PERL_SUPPORT	NEW_MOD_PERL_SUPPORT	
Apache ASP 対応	OLD_APACHE_ASP_SUPPORT	NEW_APACHE_ASP_SUPPORT	
SSL 対応	OLD_SSL_SUPPORT	NEW_SSL_SUPPORT	
Web 統計	OLD_WEB_STATISTICS	NEW_WEB_STATISTICS	
カスタムエラードキュメント	OLD_APACHE_ERROR_DOCUMENTS	NEW_APACHE_ERROR_DOCUMENTS	
ハードディスククォータ	OLD_HARD_DISK_QUOTA	NEW_HARD_DISK_QUOTA	
「物理ホスティング削除」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
「メールアカウント作成」、「メールアカウント削除」のイベント			
メールアドレス	OLD_MAILNAME	NEW_MAILNAME	必須 (mailname@domain形式)

「メールアカウント更新」のイベント			
メールアドレス	OLD_MAILNAME	NEW_MAILNAME	必須 (mailname@domain形式)
メールボックス	OLD_MAILBOX	NEW_MAILBOX	
パスワード	OLD_PASSWORD	NEW_PASSWORD	
メールボックスクォータ	OLD_MAILBOX_QUOTA	NEW_MAILBOX_QUOTA	
リダイレクト	OLD_REDIRECT	NEW_REDIRECT	
リダイレクトアドレス	OLD_REDIRECT_ADDRESS	NEW_REDIRECT_ADDRESS	
メールグループ	OLD_MAIL_GROUP	NEW_MAIL_GROUP	
自動応答	OLD_AUTORESPONDERS	NEW_AUTORESPONDERS	
メールユーザコントロールパネルアクセス	OLD_MAIL_CONTROLPANEL_ACCESS	NEW_MAIL_CONTROLPANEL_ACCESS	
「Web ユーザ削除」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
Web ユーザ名	OLD_WEBUSER_NAME	NEW_WEBUSER_NAME	必須
「Web ユーザ作成」、「Web ユーザ更新」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
Web ユーザ名	OLD_WEBUSER_NAME	NEW_WEBUSER_NAME	必須
Web ユーザのパスワード	OLD_WEBUSER_PASSWORD	NEW_WEBUSER_PASSWORD	
SSI 対応	OLD_SSI_SUPPORT	NEW_SSI_SUPPORT	
PHP 対応	OLD_PHP_SUPPORT	NEW_PHP_SUPPORT	
CGI 対応	OLD_CGI_SUPPORT	NEW_CGI_SUPPORT	
Perl 対応	OLD_MOD_PERL_SUPPORT	NEW_MOD_PERL_SUPPORT	
Python 対応	OLD_MOD_PYTHON_SUPPORT	NEW_MOD_PYTHON_SUPPORT	
Apache ASP 対応	OLD_APACHE_ASP_SUPPORT	NEW_APACHE_ASP_SUPPORT	
ハードディスククォータ	OLD_HARD_DISK_QUOTA	NEW_HARD_DISK_QUOTA	

「クライアント制限更新」のイベント			
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
ドメイン上限数	OLD_MAXIMUM_DOMAINS	NEW_MAXIMUM_DOMAINS	
ディスク容量の上限	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	NEW_MAXIMUM_DISK_SPACE	
トラフィックの上限量	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	NEW_MAXIMUM_TRAFFIC	
Web ユーザの上限数	OLD_MAXIMUM_WEBUSERS	NEW_MAXIMUM_WEBUSERS	
データベースの上限数	OLD_MAXIMUM_DATABASES	NEW_MAXIMUM_DATABASES	
メールボックスの上限数	OLD_MAXIMUM_MAILBOXES	NEW_MAXIMUM_MAILBOXES	
メールボックスクォータ	OLD_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	NEW_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	
メールリダイレクトの上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_REDIRECTS	NEW_MAXIMUM_MAIL_REDIRECTS	
メールグループの上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_GROUPS	NEW_MAXIMUM_MAIL_GROUPS	
メール自動応答の上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_AUTORESPONDERS	NEW_MAXIMUM_MAIL_AUTORESPONDERS	
メーリングリストの上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_LISTS	NEW_MAXIMUM_MAIL_LISTS	
Java アプリケーションの上限数	OLD_MAXIMUM_TOMCAT_WEB_APPLICATIONS	NEW_MAXIMUM_TOMCAT_WEB_APPLICATIONS	
有効期限	OLD_EXPIRATION_DATE	NEW_EXPIRATION_DATE	
「ドメイン制限更新」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
ディスク容量の上限	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	NEW_MAXIMUM_DISK_SPACE	
トラフィックの上限量	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	NEW_MAXIMUM_TRAFFIC	
Web ユーザの上限数	OLD_MAXIMUM_WEBUSERS	NEW_MAXIMUM_WEBUSERS	
データベースの上限数	OLD_MAXIMUM_DATABASES	NEW_MAXIMUM_DATABASES	
メールボックスの上限数	OLD_MAXIMUM_MAILBOXES	NEW_MAXIMUM_MAILBOXES	

メールボックスクォータ	OLD_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	NEW_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	
メールリダイレクトの上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_RE DIRECTS	NEW_MAXIMUM_MAIL_RE DIRECTS	
メールグループの上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_GR OUPS	NEW_MAXIMUM_MAIL_GR OUPS	
メール自動応答の上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_AU TORESPONDERS	NEW_MAXIMUM_MAIL_AU TORESPONDERS	
メーリングリストの上限数	OLD_MAXIMUM_MAIL_LIS TS	NEW_MAXIMUM_MAIL_LIS TS	
Java アプリケーションの上限数	OLD_MAXIMUM_TOMCAT _WEB_APPLICATIONS	NEW_MAXIMUM_TOMCAT _WEB_APPLICATIONS	
有効期限	OLD_EXPIRATION_DATE	NEW_EXPIRATION_DATE	
「メーリングリスト作成」、「メーリングリスト更新」、「メーリングリスト削除」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
メーリングリスト名	OLD_MAIL_LIST_NAME	NEW_MAIL_LIST_NAME	必須
有効なメーリングリスト	OLD_MAIL_LIST_ENABLE D	NEW_MAIL_LIST_ENABLE D	
「コントロールパネルユーザのログイン」、「コントロールパネルユーザのログアウト」のイベント			
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	
「ドメイン管理者アカウント更新」のイベント			
ドメイン管理者にアクセスを許可	OLD_ALLOW_DOMAIN_US ER_ACCESS	NEW_ALLOW_DOMAIN_U SER_ACCESS	
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	
会社名	OLD_COMPANY_NAME	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	OLD_PHONE	NEW_PHONE	
ファックス	OLD_FAX	NEW_FAX	
メールアドレス	OLD_EMAIL	NEW_EMAIL	
住所	OLD_ADDRESS	NEW_ADDRESS	
都市	OLD_CITY	NEW_CITY	
州または県	OLD_STATE_PROVINCE	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	OLD_POSTAL_ZIP_CODE	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	

国	OLD_COUNTRY	NEW_COUNTRY	
「サイトアプリケーションのインストール」、「サイトアプリケーションの再構築」、 「サイトアプリケーションのアンインストール」のイベント			
サイトアプリケーションパッケージ名	OLD_PACKAGE_NAME	NEW_PACKAGE_NAME	必須
ドメインタイプ（ドメインまたはサブドメイン）	OLD_DOMAIN_TYPE	NEW_DOMAIN_TYPE	必須
インストール（httpdocs または httpsdocs）	OLD_DIRECTORY	NEW_DIRECTORY	必須
インストール先ディレクトリ内のインストールパス	OLD_INSTALLATION_PREFIX	NEW_INSTALLATION_PREFIX	必須
「サイトアプリケーションパッケージのインストール」、「サイトアプリケーションパッケージのアンインストール」のイベント			
サイトアプリケーションパッケージ名	OLD_PACKAGE_NAME	NEW_PACKAGE_NAME	必須
「サービスの停止、起動、または再起動」のイベント			
サービス	OLD_SERVICE	NEW_SERVICE	必須
「IP アドレス作成、変更、削除」のイベント			
IP アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	必須
IP マスク	OLD_IP_MASK	NEW_IP_MASK	
インターフェース	OLD_INTERFACE	NEW_INTERFACE	
IP タイプ	OLD_IP_TYPE	NEW_IP_TYPE	
「転送作成、変更、削除」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
転送タイプ	OLD_FORWARDING_TYPE	NEW_FORWARDING_TYPE	
URL	OLD_URL	NEW_URL	
「管理者情報変更」のイベント			
Login name	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	
会社名	OLD_COMPANY_NAME	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	OLD_PHONE	NEW_PHONE	

ファックス	OLD_FAX	NEW_FAX	
メールアドレス	OLD_EMAIL	NEW_EMAIL	
住所	OLD_ADDRESS	NEW_ADDRESS	
都市	OLD_CITY	NEW_CITY	
州または県	OLD_STATE_PROVINCE	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	OLD_POSTAL_ZIP_CODE	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	
国	OLD_COUNTRY	NEW_COUNTRY	
「サイトアプリケーションのインストール、再構築、アンインストール」のイベント			
サイトアプリケーション名	OLD_PACKAGE_NAME	NEW_PACKAGE_NAME	必須
「クライアントステータス更新」のイベント			
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
Login name	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
ステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	
「クライアント選択設定更新」のイベント			
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
Login name	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
ページのサイズ	OLD_LINES_PER_PAGE	NEW_LINES_PER_PAGE	
インターフェーススキン	OLD_INTERFACE_SKIN	NEW_INTERFACE_SKIN	
「クライアントの IP プールの変更」のイベント			
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
IP アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	必須
ステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	
「クライアントアカウントのディスク容量制限超過」のイベント			
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
ディスク容量制限	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	NEW_MAXIMUM_DISK_SPACE	必須
「クライアントアカウントのトラフィック制限超過」のイベント			
連絡名	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
トラフィック制限	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	NEW_MAXIMUM_TRAFFIC	
「ドメインステータス更新」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須

ドメインステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	
「ドメインの DNS ゾーン更新」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
「ドメインのディスク容量制限超過」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
ディスク容量制限	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	NEW_MAXIMUM_DISK_SPACE	
「ドメインのトラフィック制限超過」のイベント			
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
トラフィック制限	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	NEW_MAXIMUM_TRAFFIC	
「ライセンスキー更新」のイベント			
ライセンスキー番号	OLD_LICENSE	NEW_LICENSE	必須
ライセンスキーのタイプ (Plesk、追加)	OLD_LICENSE_TYPE	NEW_LICENSE_TYPE	
ライセンスキーの名前 (追加キー用)	OLD_LICENSE_NAME	NEW_LICENSE_NAME	

イベントハンドラの削除

- イベントハンドラを削除するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [サーバ] ショートカットをクリックします。
 - 2 [コントロールパネル] グループの [イベントマネージャ] をクリックします。
 - 3 ハンドラのリストで対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。

Web サーバ設定ファイルへのディレクティブのインクルード

ドメイン固有の Apache 設定ディレクティブを Web サーバ設定ファイルにインクルードできます。Plesk では、各ドメインが別ファイル `httpd.include` にバーチャルHOST設定を格納しています。

Linux システムでは、このファイルはディレクトリ
`/var/www/vhosts/<domain-name>/conf/` にあります。

FreeBSD システムでは、このファイルはディレクトリ
`/usr/local/psa/home/vhosts/<domain-name>/conf/` にあります。

Plesk Version 7.5.4 以前からアップグレードしている場合、ディレクトリ
`/home/httpd/vhosts/<domain-name>/conf/` にあります。

注： バーチャルHOSTディレクトリの場所は `transvhosts.pl` ユーティリティを使用して変更できます。このユーティリティはオペレーティングシステムに応じて、
`/usr/local/psa/bin/` または `/opt/psa/bin/` のいずれかのディレクトリにあります。

このファイルはバーチャルHOST設定が変更されると上書きされ、手動での変更は破棄されます。Plesk によって挿入されたカスタムディレクトリを使用または再定義するには、必要なディレクティブを使用して `vhost.conf` ファイルおよび/または `vhost_ssl.conf` ファイルを、ドメイン向けには `/path_to_vhosts/<domain-name>/conf/` ディレクトリ内、サブドメイン向けには
`/path_to_vhosts/<domain-name>/subdomains/<subdomain-name>/conf/` ディレクトリ内に作成する必要があります。

ドメインの設定ファイルが生成される際にこれらのファイルが存在する場合、Plesk は適切な `Incrude` ディレクティブを HTTP および/または HTTPS バーチャルHOSTコンテキストにそれぞれ挿入します。セキュリティ上の理由から、`vhost.conf` および `vhost_ssl.conf` ファイルを作成できるのは `root` のみです。

変更を有効にするには、以下のコマンドを実行する必要があります。

```
/plesk_installation_directory/admin/sbin/websrvnmng --reconfigure-vhost  
--vhost-name=<domain_name>
```

Tomcat Java コネクタポートの変更

Plesk での Coyote および Warp 接続のデフォルト接続番号は 9080 と 9008 です。

Tomcat Java を他のポート（例：8090 および 8009）で操作する場合は、以下の例のように 2 つのパラメータをデータベースに追加する必要があります。

```
insert into misc (param,val) values ('coyote_connector_port', '8090'); insert
into misc (param,val) values ('warp_connector_port', '8009');
```

注： Plesk がサーバにインストールされた直後に、またはドメインで Tomcat Java サービスを有効化する前に、Tomcat Java ポートを変更するようお勧めします。

メール設定の復元

Plesk メールサーバ設定が破壊され、復元が必要になる場合があります。復元は Plesk コントロールパネルで使用することを意図した内部ユーティリティ `mchk` で実行します。ただし、管理者は必要に応じて、Qmail および Courier-imap の設定の復元にこのユーティリティを使用することもできます。

デフォルトでは、`mchk` はバックグラウンドモードで実行されます。フォアグラウンドで実行するには `-v` オプションを使用します。例えば、以下のようになります。

```
/usr/local/psa/admin/sbin/mchk -v
```

注： Perl インタプリタの実行を必要とするため、メールアカウントの SpamAssassin 設定の復元を希望しないことがあるかもしれません。復元の上速度を上げるには、`--without-spam` オプションを使用します。
